

中野高柳遺跡第1～5次調査

—宮城県仙台港背後地土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書IV—

2010年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会



SK311土坑遺物出土狀況（南一）



SK311土坑遺物出土狀況（西一）



SK311完掘狀況（南一）



Na03102(1/3)



Na03104(1/2)



刀子柄拵大 (1/1)

SK311出土陶器・刀子

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

ここで報告しますのは、仙塩広域都市計画事業・仙台港背後地土地区画整理事業に伴う遺跡発掘調査のうち、中野高柳遺跡において仙台市教育委員会が行った第1次調査から第5次調査までをまとめた報告書です。

この区画整理事業は、仙台港の増大する物流需要と船舶の大型化・コンテナ化等の輸送革新に対応するため、仙台港に隣接する北側から西側の背後地一体を、宮城県はもとより、東北地方の国際貿易・交通拠点として、また仙台都市圏の物流拠点・工業生産拠点としての機能を持つべき地区として整備計画されました。これまで、宮城県が施行主体で、県と仙台市が共同で整備に当たってきました。

この区画整理地内の土地利用は、センター地区、流通業務地区、工業地区、住宅地区の4つに区分されており、ここで報告します中野高柳遺跡は流通業務・住宅地区に該当する遺跡です。本書は、平安時代中頃から江戸時代にかけての集落についての調査報告を主としており、当時複数の屋敷からなる居住域が継続して構成されていたことがわかりました。地域の歴史を知る上でも貴重な資料を得ることができたと考えております。

先人の遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たち市民の大事な仕事であると思います。つきましては、今回の調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、学術研究のみならず学校教育や生涯教育などのあらゆる場面で活用され、皆様の文化財へのより深い関心とご理解の一助となれれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本報告書の刊行に際しましてご指導、ご協力下さいました皆様に心より感謝申し上げる次第です。

平成 22 年 3 月

仙台市教育委員会
教育長 荒井 崇

例言

1. 本書は、仙塩広域都市計画事業仙台港背後地土地区画整理事業に伴う中野高柳遺跡第1～5次発掘調査報告書である。すでに公表された広報誌等に優先するものである。
2. 本書の執筆は、第7章自然科学分析を除いて、斎野裕彦・佐伯修一・多ヶ谷香理が行ない、斎野が総括した。
3. 第7章自然科学分析については、以下の大学・研究機関に分析・同定をしていただいた。
 - 放射性炭素年代測定 …… 古環境研究所 松田隆二
 - 樹種同定 …… 東北大学植物園 鈴木三男・小川とみ
 - 人骨(歯) …… 北海道文教大学 百々幸雄・佐賀大学 塙原恒彦
 - 炭化米のDNA分析 …… 総合地球環境学研究所 佐藤洋一郎
 - 種実同定 …… 古環境研究所 金原美奈子
4. 発掘調査及び報告書作成にあたって、以下の機関から、種々の協力、教示をいただいた。
 - 宮城県教育委員会
5. 本書に関わる一切の資料は仙台市教育委員会が保管している。

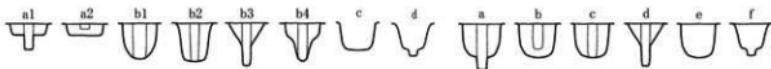
凡例

1. 本報告書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省水産技術会議事務局 1998年版）に準拠している。
2. 本書中の地形図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「塩釜」「仙台東北部」を合成したものを使用した。
3. 遺構図中の座標値は、平面直角座標系X（日本測地系）を使用している。
4. 座標X-191,920・Y+12,920を中野高柳遺跡の10m×10mGridの基軸とし、Y軸は北へ0A・0B・0C・0D…、南へA・B・C・D…、X軸は東へ1・2・3・4…、西へ01・02・03・04…とする。
5. 本文図版等で使用した方位はすべて真北を基準としている。
6. 標高値は海拔高度（T・P）を示す。
7. 遺構図は縮尺1/60を基本とした。その他、各スケールを参照されたい。
8. 基本層の表記は表土層からローマ数字を用いた。
9. 遺構名の登録として、以下の略号を使用した。

SA:区画施設、SB:掘立柱建築跡、SD:溝跡、SE:井戸跡、SK:土坑・土壤、SX:性格不明遺構、P:ピットを使用した。これらの遺構の中に埋まっている土を「埋土（まいど）」とした。
10. 遺構名は、遺構ごとに「調査区名称一番号」の名称を付けた。
11. 調査区の面積は測量用ソフトを使用して算出した。遺構の面積は、タマヤテクニクス株式会社のPLANIX7を使用して算出した。
12. 遺構の主軸方位は、掘立柱建築跡は桁行を主軸方位とし、その他の遺構に関しては長軸の方位を主軸方位とした。
13. 遺物の登録には、以下の略号を使用した。

D:クロコ形の土師器、E:須恵器、G:土師質土器、H:瓦、I:陶器、J:磁器、K:石器・石製品、L:木製品、N:金属製品、P:土製品
14. 遺構平面図・断面図中では、以下の略号を用いて遺物を表記した。

B:骨、M:金属、P:土器、S:石、W:木
15. 遺物実測図は原則として縮尺1/3で表示した。
16. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で表した。中心線が一点傾線のものは、転回し、図上復元したものである。内面黒色処理を施したものについては一部にトーンをかけた。また、石器の磨面にもトーンをかけた。
17. 遺物観察表において、() 内数値は図上復元値を示し、土器類の「口」は口縁部、「頸」は頸部、「体上」は体部上半部、「体下」は体部下半部、「底」は底部を示す。
18. 遺物の出土量は、FNシリーズの平箱32(外寸: 440×600×150mm)で換算した。
19. 第2次調査および第3次調査のピットの分類を以下のようにした。



第2次調査

第3次調査

中野高柳遺跡 目次

口絵写真 序文 例言 凡例

第1章 調査概要	1
第1節 調査の経緯	
第2節 遺跡の位置と環境	
第3節 調査の概要	
第4節 基本層序	
第5節 遺跡の概説	
第2章 第1次調査	21
第1節 調査概要と基本層序	
第2節 検出遺構と出土遺物	
第3節 まとめ	
第3章 第2次調査	123
第1節 調査概要と基本層序	
第2節 検出遺構と出土遺物	
第3節 まとめ	
第4章 第3次調査	181
第1節 調査概要と基本層序	
第2節 検出遺構と出土遺物	
第3節 まとめ	
第5章 第4次調査	325
第1節 調査概要と基本層序	
第2節 検出遺構と出土遺物	
第3節 まとめ	
第6章 第5次調査	357
第1節 調査概要と基本層序	
第2節 検出遺構と出土遺物	
第3節 まとめ	
第7章 自然科学分析	391
第1節 中野高柳遺跡放射性炭素年代測定	
第2節 中野高柳遺跡出土木製品の樹種同定	
第3節 中野高柳遺跡第3次調査SK311土坑、SK315 土坑出土の人骨（歯）について	
第4節 中野高柳遺跡第3次調査SD320溝跡、SE309 井戸跡出土炭化米のDNA分析	
第5節 中野高柳遺跡第3次調査SD320溝跡、SE309 井戸跡出土炭化米のDNA分析	
第8章 総括	403
第1節 出土遺物	
第2節 遺構群の変遷	

第1章 - 調査概要 -

本文目次

第1節 調査の経緯	1	第3節 調査の概要	3
1. 土地[区画整理事業地内遺跡	1	1. 発掘調査	3
2. 事業地内遺跡と中野高柳遺跡	1	2. 整理作業	5
第2節 遺跡の位置と環境	1	第4節 基本層序	6
1. 地形的環境	1	第5節 調査成果の概説	8
2. 歴史的環境	2		

挿図目次

第1図 中野高柳遺跡位置図	11	第6図 グリッド配置図	16
第2図 事業地内遺跡分布図	11	第7図 遺跡範囲と調査区	17
第3図 仙台平野中北部微地形分類図	12	第8図 基本層序柱状模式図作成地点位置図	18
第4図 仙台平野北部微地形分類図	13	第9図 基本層序柱状模式図・基本層序略図	19
第5図 周辺の道路図	14		

挿表目次

第1表 遺跡地名表	15	第3表 中野高柳遺跡検出遺構数量表	20
第2表 中野高柳遺跡時期区分・遺構確認面対応表	20	第4表 中野高柳遺跡出土遺物数量表	20

第1章 調査概要

第1節 調査の経緯

1. 土地区画整理事業地内遺跡

平成2年11月16日に宮城県が都市計画決定(平成3年7月23日事業計画決定)した仙台港背後地土地区画整理事業の区域には、発掘調査の対象となる遺跡として高柳A遺跡、高柳B遺跡、沼向遺跡(遠藤館跡を含む)などがあった(第1・2図)。そのため、平成2年度から土地区画整理を担当する宮城県土木部と文化財行政を担当する宮城県文化財保護課及び仙台市文化財課との間で、事業と遺跡の調査等について協議が重ねられた。そして、協議の一環として、周知されていた高柳A遺跡、高柳B遺跡、竹ノ内遺跡、沼向遺跡、中野曲田板碑・耳取觀音堂板碑等について、平成2年度に、宮城県文化財保護課、仙台市文化財課及び宮城県国際港都市整備課の三者で、改めて分布調査を行なった。平成3年度から5年度にかけては、分布調査の結果を受けて、高柳A・B遺跡と竹ノ内遺跡の確認調査を宮城県文化財保護課、沼向遺跡の確認調査を仙台市文化財課が実施した。

平成5年9月7日、確認調査の報告会を開催、遺跡範囲を確定し、本発掘調査範囲を文化財側から説明した。この時に高柳A遺跡と高柳B遺跡を中野高柳遺跡と一本化し、その範囲も他の遺跡同様、若干変更している。これにより、事業地内遺跡として、中野高柳遺跡、竹ノ内遺跡、沼向遺跡が本発掘調査の対象となった。

それを受け、中野高柳遺跡の本調査は、平成7年度から平成12年度までを仙台市教育委員会、平成6年度と平成7年度、平成12年度から平成17年度までを宮城県教育委員会が行なった。

2. 事業地内遺跡と中野高柳遺跡

事業地の總事業面積は約260haに及ぶ。中野高柳遺跡は、事業地内の遺跡のなかでは最も西側に位置し(第2図)、範囲は、東西約150m、南北約400m、面積約5haである。宮城県教育委員会によって行われた調査は、その面積が約40000m²と、遺跡の大半に及び、すでに報告書が刊行されている(宮城県教育委員会2003~2006)。それによると、遺跡の時代幅は平安時代の中頃から近世までと長く、平安時代は生産域:水田域・畑域、中世~近世は居住域として土地利用がなされている。こうした成果は、仙台市教育委員会の調査(面積約5600m²)でも確認されており、ここでは、宮城県教育委員会が設定した遺構群の時期別変遷:第I期(平安時代)~第VII期(近世)に沿って、第1~5次調査の報告を行っていくことにする。

第2節 遺跡の位置と環境

1. 地形的環境

中野高柳遺跡は宮城県仙台市の北東部、宮城野区中野字高柳に位置し(第2図)、自然堤防に立地する(第3・4図)。JR仙石線中野栄駅の南西約1kmの地点である。現況における標高は、約3.0~4.0mである。

この遺跡の地形的環境については、すでに松本秀明・野中奈津子(2006)による研究成果が、宮城県教育委員会の報告書に発表されており、また、今年度刊行される『沼向遺跡第4~34次調査』(仙台市教育委員会)には、平野北部の微地形環境の復元想定図が掲載されている。それによると、七北田川下流域は、縄文時代以降、潟湖が広く形成される地形環境にあり、中野高柳遺跡付近の自然堤防の形成時期には、10世紀前半の灰白色火山

灰降下前後以降と、以前の2時期が推定されている。そして、その「骨格を構成する河床起源の堆積物は後者(灰白色火山灰降下以前)であり、 1480 ± 70 yrBPの年代値が得られている。また、この河床起源の堆積物がもたらした洪水河道は、…旧河道埋積堆積物下底の年代が示すように 1400 ± 80 yrBPにはその機能を失っていたと考えられる。したがって、高柳付近の自然堤防地形は、約 1500 年前後の比較的短期間にその概形が形成されたものと考えられる。」(松本・野中 2006)とあり、5世紀から6世紀の年代幅はあるが、出花付近でも 1520 yrBPの年代値が得られている。この年代は、中野高柳遺跡の北東方 2.5km、同じ事業地内ある沼向遺跡において、遺跡北東部にポケット状の後背湿地が形成された時期を含んでおり、七北田川を起源とする洪水流が、その堆積物によって潟湖に自然堤防を形成した後に、浜堤列の陸側の一部を侵食して後背湿地を形成したと推定されている。

七北田川下流域の地形環境は、七北田川の供給する堆積物が比較的小ないことから、上述のような短期間の洪水流による微地形形成を除くと、海水準の微変動が、潟湖の水域の変化に影響を与えやすい条件下にあったと考えられる。その点では、中野高柳遺跡は、平安時代の中頃以降、安定した地形環境にあったといえる。

2. 歴史的環境

中野高柳遺跡の歴史的環境については、すでに宮城県教育委員会(2006)の報告のなかで、奈良・平安時代から中世にかけて、遺跡周辺の歴史が概観されている。そのため、ここでは、近距離にありながら、立地が異なり、標高がやや低い沼向遺跡との関連性を含めながら見ておきたい(第5図、第1表)。

中野高柳遺跡に生産域が形成される10世紀前葉には、沼向遺跡では、すでに集落は廃絶している。その理由としては、海水準の微変動が上昇傾向にあり、潟湖東岸にあって、浜堤列の遺構面の標高が 1.0m 前後と低く、居住には適さない土地条件になっていたことが考えられている。潟湖北岸でも、市川橋遺跡や山王遺跡多賀前地区などでは、一部、湿地化の進行や、居住域あるいは畠城から水田城への土地利用の変更がみられるようになる。その点、遺構面の標高が 3.0m 前後と、やや標高の高い中野高柳遺跡には、そうした直接的な影響は認められない。しかし、この頃には、915(延喜 15)年の降灰と推定される十和田a火山灰(灰白色火山灰)が、仙台平野にも広く認められており、七北田川中流域の赤生津遺跡や名取川下流域の山口遺跡などでは、水田跡が火山灰に覆われ、中野高柳遺跡では、畠跡の畝間に火山灰が堆積して、それぞれ廃絶する被害が確認される。沼向遺跡では、灰白色火山灰は、埋没過程にある遺構の凹地にレンズ状に堆積している。

この時期を含めて、平安時代には、潟湖沿岸部の自然堤防、浜堤列に、比較的多く遺跡が分布しており、中野高柳遺跡周辺にも、福田町遺跡、鶴巻 I 遺跡、牛小舎遺跡、沼向遺跡などがあるが、その後、中世には遺跡数が減少し、大日南遺跡(多賀城市教育委員会 1998)が確認される程度であり、沼向遺跡でも遺構の検出はなく、多くは、潟湖北岸の山王遺跡から岩切城跡にかけての自然堤防に分布し、鴻ノ巣遺跡、新田遺跡、洞ノ口遺跡などがある。こうした遺跡の分布傾向は、板碑の分布にも通じるところがあり、中世には、潟湖周辺の標高の低いところは、居住には適さない環境になっていたと推定される。その理由として、この頃までは、七北田川が、現在とは異なり、潟湖に西方へ北方から流入しており、海水準の微変動が、遺跡立地に反映されやすい地形環境にあったことが考えられる。

近世になると、慶長年間(1596~1615)と、1670~1673(寛文 10~13)年の二度にわたる土木工事で、七北田川下流域では、大代運河、舟入堀、舟引堀の開削、七北田川の流路を現在の位置に付け替えが行なわれ、水運の整備とともに、可耕地の拡大がはかられた(佐藤 2007、渡辺 2001)。これによって、新田開発が進められていくことになり、中野高柳遺跡周辺では、自然堤防に立地する竹ノ内遺跡、大日北遺跡や、浜堤列に立地する沼向遺跡(遠藤館跡)、大町屋敷跡、田母神屋敷跡、和田織部館跡など、遺跡数の増加がみられるようになる。

このように、七北田川下流域では、潟湖周辺における平安時代以降の遺跡分布を見ると、北岸の山王遺跡などを除くと、中世、近世を通して、居住域が形成されていた中野高柳遺跡の継続性が高いことが知られる。

第3節 調査の概要

1. 発掘調査

(1) 調査方法

i) 調査区Gridの設定

Gridの設定は、第3次調査区の基軸ラインとした日本測地系(平面直角座標系X)X=-191.920km、Y=+12.920kmを同様に基軸ラインとするものである。Y軸は基点から北へ 0A・0B・0C・0D……、南へA・B・C・D……Z・AA・AB、X軸は基点から東へ1・2・3・4……、西へ01・02・03・04……とする 10m×10mGridを使用した。Gridの細分は、1Gridを四分割して 5m×5mGridとし、北西のGridをa、北東のGridをb、南東のGridをc、南西のGridをdとした。さらに、遺構の位置を示す詳細表記は、日本測地系(平面直角座標系X)の数値を直接記入した(第6図)。

ii) 遺構名称

遺構名の略語に関しては凡例で提示した。遺構番号については、第1次調査1号溝跡はSD101、第2次調査1号溝跡はSD201のように頭に調査次数を付け、遺構の分類毎に通し番号で01から表記している。なお、調査中に欠番となった遺構については整理作業においても欠番のままとした。

iii) 遺構実測

平成 11年度の第4次調査から、遺構の平面実測に、日本測地系にもとづくトータルステーションを、業務委託して導入した。その理由は、中野高柳遺跡及び沼向遺跡の発掘調査の増加が予測されたために、それに対応できる調査方法を必要としたことにより、これによって、遺構調査の効率化がはかられ、遺構図面をデータとして管理する事が可能となった。この方法は、野外調査では、自動追尾式トータルステーションにCG平板システムを連動させており、調査区の壁断面図の作成や、遺物出土地点の測量などにも用いられた。また、室内整理では、手実測でとった遺構断面図との整合を確認し、各遺構をデータ化する作業も平行して行った。

(2) 調査の経過

中野高柳遺跡の調査は、平成 7 年度から平成 12 年度にかけて、5 次にわたって行われた。調査面積は 5619.9 m²である。また、前述のように、中野高柳遺跡の調査は、宮城県教育委員会によっても行なわれている(第7図)。

遺跡名	中野高柳遺跡
所在地	仙台市宮城野区中野字高柳・福室字境地内
調査原因	仙台港背後地内土地区画整理事業
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課
調査期間	平成7年9月 25 日～平成 12 年5月 11 日
調査面積	5,619.9 m ²
調査次数	第1次調査～第5次調査

平成7年度

調査次数	第1次調査
調査期間	平成7年8月1日～8月25日(試掘) 平成7年9月25日～12月19日
調査面積	1,088.7 m ² (福室字境四番32他)
調査員	佐藤甲二、神成浩志、竹田幸司
作業員	72名

平成8年度

調査次数	第2次調査
調査期間	平成8年4月11日～7月26日
調査面積	813.4 m ² (中野字高柳27-1他)
調査員	佐藤甲二、本多裕聰
作業員	54名

平成9年度

調査次数	第3次調査
調査期間	平成9年6月3日～12月10日、平成10年2月23日～3月19日
調査面積	2,489.9 m ² (中野字高柳34-2他)
調査員	佐藤甲二、渡部紀
作業員	37名

平成11年度

調査次数	第4次調査～第5次調査
調査期間	平成11年9月17日～11月30日
調査面積	1,018.5 m ²
調査員	佐藤甲二、根本光一
作業員	48名
第4次調査	(平成11年9月17日～11月30日) 688.0 m ² (福室字境3-140他)
第5次調査	(平成11年9月17日～11月30日) 330.5 m ² (中野字高柳42-1)

平成12年度

調査次数	第5次調査
調査期間	平成12年4月11日～5月11日
調査面積	209.4 m ² (中野字高柳42-1)
調査員	佐藤甲二、斎野裕彦
作業員	64名

2. 整理作業

(1)方法

平行して行なった沼向遺跡の報告書作成作業に合わせて、編集はデータで行うこととした。遺構図版の作成や遺物実測図のトレースなど、可能なところは業務委託を導入した。また、編集の効率化をはかるため、本文中に遺構図や写真図版などは組み込まないようにし、本文の後ろに図版、表をまとめた。

(2)経過

中野高柳遺跡の報告書作成作業は、平成17年度から平成21年度にかけて行った。

作業は、遺物の基礎整理と遺構図版の作成から始めた。遺構図版作成は、各調査区の個別遺構図作成と全体図作成を、平成9年度までの遺構図のデータ化を含めて、業務委託で行った。遺物については、水洗、ネーミング、接合の後は、陶磁器は実測からトレースまでを業務委託、クロロ土師器、須恵器、木製品、石製品など、他の遺物はトレースを業務委託した。これらの作業と平行して、遺物写真的撮影、遺構及び遺物写真図版、遺物図版の作成、原稿執筆作業を進めた。なお、作業員は、平行して行なった沼向遺跡の報告書作成作業も兼務している。

平成17年度(報告書作成1年目)

整理期間	平成17年4月11日～平成18年3月23日
調査員	斎野裕彦、藤井勝哉、太宰明
派遣調査員	田口雄一、高橋直崇、多ヶ谷香理(隸四門)
作業員	64名

平成18年度(報告書作成2年目)

整理期間	平成18年4月10日～平成19年3月22日
調査員	斎野裕彦、太宰明
派遣調査員	田口雄一、高橋直崇、多ヶ谷香理(隸四門)
作業員	33名

平成19年度(報告書作成3年目)

整理期間	平成19年4月10日～平成20年3月19日
調査員	斎野裕彦、佐伯修一
派遣調査員	田口雄一、高橋直崇、多ヶ谷香理(隸四門)
作業員	22名

平成20年度(報告書作成4年目)

整理期間	平成20年4月10日～平成21年3月19日
調査員	斎野裕彦、佐伯修一
派遣調査員	多ヶ谷香理(隸四門)
作業員	12名

平成21年度(報告書作成5年目)

整理期間 平成21年4月10日～平成21年3月19日

調査員 斎野裕彦、佐伯修一

派遣調査員 多ヶ谷香理(第4回)

作業員 3名

第1～5次調査発掘調査作業員 143名

永野ぐみ子、大泉照美、青山こく、武田典子、千葉恒男、小林實、加藤友治、藤江勝子、相原妥各子、阿部美香、大友とし子、後藤靖子、金野静子、佐竹志女子、佐藤弘子、鈴木ちさ子、只木恵美子、津谷貞子、中村アサ子、西鉢代、芳賀恵子、服部和恵、本田光子、本間しづえ、谷津和子、渡辺かほる、大山のり子、橋英子、峯岸きみえ、佐藤てる子、井鳥喜久代、菅原晶子、遠藤清子、宮武典子、大谷基、金野節子、遠藤せい子、三浦祐子、佐藤薰、小野辰夫、植野武重、松田京子、武田雄次郎、石川守夫、佐藤八重子、丸森淑弘、岡田牧子、信清博、坪田孝子、二本木年男、加藤儀三郎、高橋多美子、小松千代子、鈴木みよ子、高橋早映、伊藤和江、山並明夫、相沢芳巳、佐々木洋介、横山美智子、根岸ゆみ、相沢あい子、水戸智、虎井優子、結城葉子、小澤洋子、今野順子、阿部孝子、千葉志津子、似内幸子、佐々木洋子、山田憩次、鈴木恵子、工藤敦子、野村孝子、星芳子、名越由美子、鈴木幸子、加藤君夫、佐藤キヨミ、奥山妙子、奥山祐子、菊田親男、武藤季鷹、門間あさよ、横尾由記子、庄子弘子、原田由美子、関谷栄子、官城富子、大槻明美、菅谷裕子、大内さくえ、岩間郁雄、長田源七、大島武雄、佐藤久栄、佐藤ゆう子、千葉恭子、小林篤夫、飯塚稔、鈴木美代子、山寺文司、吉田やよえ、内田節子、阿部松雄、嘉村征機、奥山美華、小田島武弘、赤井信、阿部憲夫、鈴木由美子、及川弘美、木村孝基、木村孝子、菊田ぐら子、宍戸友之、中田福美、小野二千男、萱場美枝子、浅野登、大黒洋一郎、佐々木紘、佐伯真紀子、岡田正嗣、富山克明、結城元、武田真理子、伊藤信、加藤長司、菊地信裕、永沼けいこ、佐藤あや子、高橋太、高橋俊介、小林和子、杉本節子、小林正彦、加藤恵美子、中村公祐、虹川紀子

整理作業員 64名

永野ぐみ子、大泉照美、相原妥各子、阿部美香、佐竹志女子、佐藤弘子、只木恵美子、津谷貞子、服部和恵、本田光子、本間しづえ、谷津和子、大山のり子、橋英子、虎井優子、阿部孝子、千葉志津子、佐々木洋子、鈴木恵子、工藤敦子、星芳子、佐藤悦子、高橋弘子、相沢美佐子、菅谷裕子、奥山美華、佐々木和江、小野寺美伊子、菊田ぐら子、佐藤てる子、清藤智子、三浦喜代、飯田君江、大黒洋一郎、虹川紀子、青木浩典、熱海千鶴、阿部節子、阿部千加子、安藤みえ子、石川好枝、岩崎洋子、岩瀬節、大森紀子、高橋志保、小澤綾子、小幡和美、小幡則子、小幡みえ子、片倉環、川合哲、小上紀久美、斎藤美也子、鈴木朝子、中沢由紀子、畠山昌子、三浦綾子、山口恵、板谷美佐子、大金幸子、大友千代子、伊藤竜子、茂泉真由美、小松美樹

第4節 基本層序

基本層序は大別10層、細別29層を確認した。造構はⅢ層上面、Ⅳ層上面、Ⅴ層上面、Ⅵ層上面で検出している(第8図・第9図)。

I層 Ia層、Ia'層、Ib層、Ic層の4層に細別される。現代の畑・水田耕作土及び整地層である。第2次～第5次調査では細分している。

I a層 第2次、第3次、第4次、第5次調査で確認した。黒褐色または黄褐色のシルトである。現代の畑耕作土及び整地層で、炭化物、草根を含む。

I a'層 第3次調査で確認した。褐色の粘土とシルト質粘土である。現代の水田耕作土、整地層で、炭化物、酸化鉄斑紋を含む。

I b層 第3次、第4次調査で確認した。灰色の粘土とシルト質粘土である。現代の水田耕作土で、炭化物、酸化鉄斑紋を含む。I a'層以前及びI a層の烟跡転用前の層である。

I c層 第3次、第4次調査で確認した。オリーブ灰色のシルト質粘土である。水田耕作土で、炭化物、酸化鉄斑紋を含む。

II 層 II a層、II b層の2層に細分される。いずれも自然堆積である。第3次調査でだけ確認した。

II a層 第3次調査で確認した。にぶい黄褐色のシルトである。炭化物粒少量、III・IV層ブロック(径5mm)を多量に含む。

II b層 第3次調査区で確認した。にぶい黄褐色のシルトである。炭化物粒、III・IV層ブロック(径5mm)を多量に含む。

III 層 III a層、III a1層、III a2層、III b層、III c層の5層に細分される。自然堆積層、水田耕作土、人為的埋土である。

III a層 第2次、第4次調査で確認した。黒褐色の粘土質シルトである。炭化物、IV層ブロックを少量含む。

III a1層 第3次調査で確認した。黒褐色の粘土質シルトである。炭化物、IV層ブロック(径0.5~1cm)を含む。第3次調査ではIII a1層とIII a1'の2層に細分した。

III b層 第3次、第4次調査で確認した。灰黄褐色のシルト質粘土である。にぶい黄橙色シルト、黒褐色粘土ブロック(径2~3cm)を多量、マンガン斑紋(径1cm)を多量に含む。人為的埋土である。

III c層 第3次調査で確認した。にぶい黄橙色の粘土である。下部に下層ブロック、炭化物、マンガン斑紋(径5mm)を多量に含む。下面に鉄分集積斑紋がみられ、ややグライ化している。水田耕作土である。

IV 層 IV a層、IV b層、IV c層、IV c'層、IV d層、IV d'層、IV e層、IV e'層の8層に細分した。自然堆積層及び畑耕作土である。第1次調査ではIV a層とIV b層を細分せず、IV a・IV b層とした。

IV a層 第1次~第4次調査で確認した。にぶい黄褐色のシルトである。IV b層にIII層ブロック多量、マンガン粒斑紋を含む。

IV b層 第1次~第4次調査で確認した。にぶい黄橙色のシルトである。マンガン粒斑紋、褐灰色粘土ブロック(径2cm)を少量含む、畑耕作土と考えられる。

IV c層 第1次~第3次調査で確認した。にぶい黄褐色のシルトである。マンガン粒斑紋、細砂ブロック、褐灰色粘土ブロック(径2cm)を含む。畑耕作土である。第3次調査では、IV c1層とIV c2層に細分した。

IV c'層 第3次調査区で確認した。にぶい黄褐色のシルト質粘土である。細砂ブロックを含む。自然堆積層である。

IV d層 第1次~第3次調査で確認した。灰黄褐色及び黒褐色の砂である。炭化物、マンガン粒斑紋、褐灰色粘土ブロック(径2cm)を含む。

IV d'層 第2次調査で確認した。にぶい黄橙色及びにぶい黄褐色のシルトである。マンガン粒斑紋を含む。

IV e層 第3次調査で確認した。灰黄褐色、灰黄褐色、暗緑灰色の砂と粘土の互層である。炭化物、植物遺体少量を含む。

IV e'層 第2次調査で確認した。灰黄褐色、にぶい黄褐色、暗褐色のシルト質砂とシルト、シルト質砂である。火山灰粒、砂粒ブロックを含む。

V層 V_a層、V_b層の2層に細分される。

V_a層 第1次～第3次調査で確認された。灰色及び灰白色の粘土である。薄い水性二次堆積火山灰と粘土の互層である。互層が乱れる部分もあり、褐色粘土ブロック(径2cm)、酸化鉄斑紋を含む。

V_b層 第1次～第3次、第5次調査で確認された。灰白色火山灰の層である。

VI層 VI_a層、VI_{a'}層、VI_b層、VI_c層の4層に細分した。畑及び水田の耕作土である。

VI_a層 第1次、第3次調査で確認した。にぶい黄褐色及び灰黄色のシルトと砂質シルトである。炭化物粒、上部の火山灰粒、マンガン粒、酸化鉄斑紋を含む。畑耕作土である。

VI_b層 第3次調査で確認した。にぶい黄橙色及びにぶい黄色のシルトと砂質シルトである。炭化物粒、上部火山灰粒、マンガン粒、酸化鉄斑紋を含む。畑耕作土の母材層と非耕作部分である。

VI_{a'}層 第2次調査で確認した。灰黄褐色及び暗灰黄色の粘土とシルト質粘土である。炭化物粒、上部火山灰粒、マンガン粒、酸化鉄斑紋を含む。

VII層 第1～第3次で確認した。暗灰黄色及び灰黄褐色の粘土と砂質シルトである。上部火山灰粒、黄褐色砂ブロック(径5mm)、炭化物粒、マンガン粒、酸化鉄斑紋を多量に含む。自然堆積層である。

VIII層 VIII_a層、VIII_b層、VIII_c層の3層に細分した。いずれも自然堆積層であり、第3次調査でだけ確認した。

VIII_a層 第3次調査で確認した。褐色の粘土である。炭化物粒、酸化鉄斑状を含む。

VIII_b層 第3次調査で確認した。灰黄褐色の粘土である。酸化鉄斑紋を含む。

VIII_c層 第3次調査で確認した。褐色の粘土である。炭化物粒、酸化鉄斑状を含む。

IX層 第2次～第3次調査で確認した。にぶい黄橙色の粘土である。植物遺体少量、マンガン粒、酸化鉄斑紋を含む。

X層 第2次～第3次調査で確認した。暗褐色の砂、灰黄褐色の粘土、にぶい黄橙色の砂の互層である。炭化物、植物遺体、マンガン斑紋、酸化鉄斑紋を多量に含む。

第5節 調査成果の概説

中野高柳遺跡では、平安時代から近世までの遺構が検出されている。宮城県教育委員会(2003～2006)の報告書はすでに刊行されており、検出された遺構群の時期別変遷として、第Ⅰ期から第Ⅷ期を設定している。当教育委員会で検出した遺構群にも同じような変遷が確認されることから、ここでは、宮城県教育委員会の時期区分にもとづき、Ⅰ期～Ⅷ期として報告をする。また、第2表には、宮城県教育委員会との遺構検出面の対応関係を示した。

I期: 10世紀前葉(平安時代)である。烟跡、溝跡、河川跡が検出されている。溝跡は第1次、第3次、第5次調査、河川跡は第1次～第3次、第5次調査で検出されている。烟跡は第3次調査、性格不明遺構は第5次調査で検出されている。これらの遺構は10世紀前葉に降下した灰白色火山灰によって埋没している。主な遺物は、ロクロ土師器である。

II期: 10世紀中葉(平安時代)である。小溝状遺構群だけ検出され、そのほかの遺構の検出はない。第1次、第3次調査で小溝状遺構群が各1群検出されている。主な遺物はロクロ土師器である。

III期: 12世紀(平安時代～鎌倉時代)である。検出された遺構及び出土遺物はない。

IV期: 13世紀～14世紀(鎌倉時代～室町時代)である。道路跡、溝跡、河川跡、土坑が検出されている。第1次調査で、SD102が検出されている。SD102は、県SX1600につながる道路跡である。溝跡は第2次～第4次調査、河

川跡は第4次調査で検出されている。第1次調査の土坑から、ほぼ完形の橋が1点出土している。主な遺物は、常滑産・山茶碗系窯陶器、竜泉窓・景德鎮窓の磁器、木製品(橋)である。

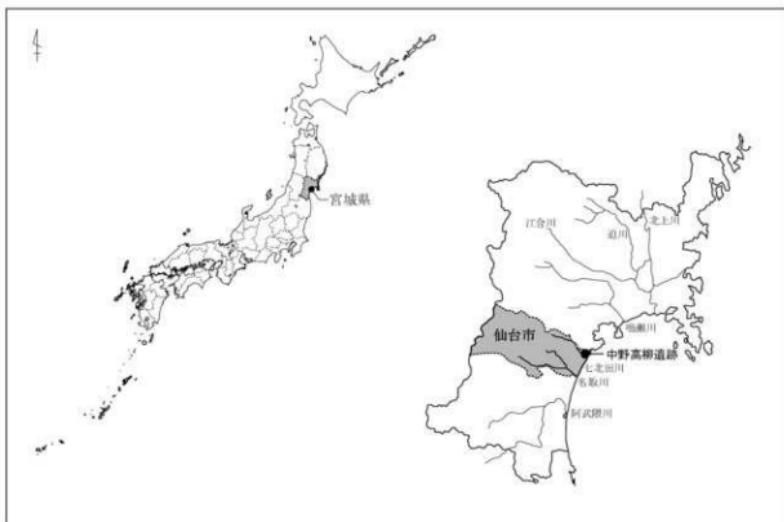
V期:15世紀～16世紀後半(室町時代～戦国時代)である。掘立柱建物跡、溝跡が検出されており、屋敷跡を構成している。掘立柱建物跡は第3次調査、溝跡は第1次、第3次、第5次調査で検出された。主な遺物は、瀬戸美濃産陶器、在地産の土器である。

VI期:16世紀後半～17世紀前半(安土・桃山時代～近世初頭)である。掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土壙墓が検出されており、屋敷跡を構成している。掘立柱建物跡と溝跡は第1次、第3次調査、井戸跡は第1次調査、土壙墓は第3次調査で2基検出された。主な遺物は、瀬戸美濃産陶器、鉄製品(刀子・釘)、銭貨である。

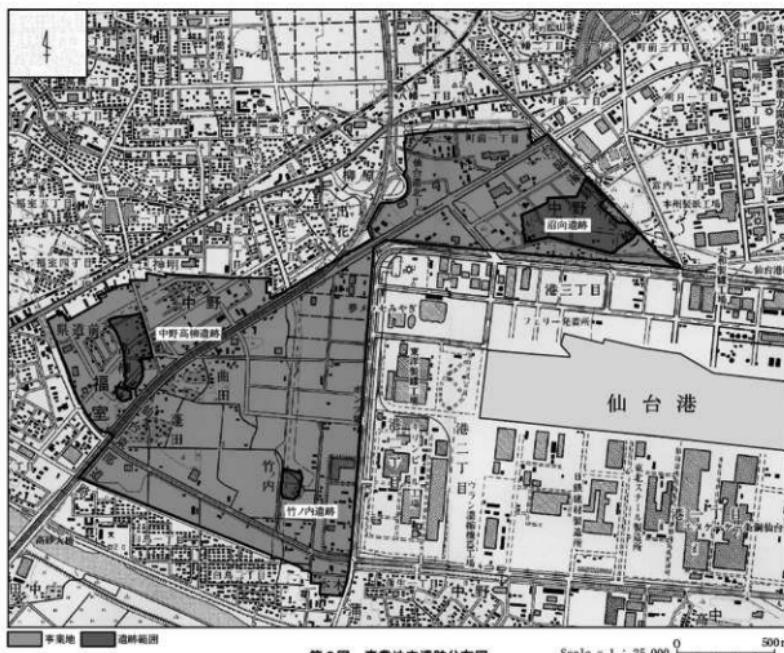
VII期:17世紀後半～19世紀(近世前葉～後葉)である。掘立柱建物跡、土坑が検出されており、屋敷跡を構成している。掘立柱建物跡、土坑とも第2次調査でだけ検出されている。主な遺物は、肥前・丹波・京都・常滑・岸窯系・大堀相馬産陶器、肥前・瀬戸美濃産磁器である。

文献

- 佐藤昭典 2007 『利水・水運の都 仙台』仙台・江戸学叢書 2
- 多賀城市教育委員会 1998 『大日北遺跡－近世墓の調査報告書』多賀城市文化財調査報告書 49
- 松本秀明・野中奈津子 2006 「七北田川下流沖積低地における完新世後期の湖沼埋積と自然堤防の形成』『中野高柳遺跡IV』宮城県文化財調査報告書 204
- 宮城県教育委員会 2003 『中野高柳遺跡I』 宮城県文化財調査報告書 194
- 宮城県教育委員会 2004 『中野高柳遺跡II』 宮城県文化財調査報告書 197
- 宮城県教育委員会 2005 『中野高柳遺跡III』 宮城県文化財調査報告書 201
- 宮城県教育委員会 2006 『中野高柳遺跡IV』 宮城県文化財調査報告書 204
- 渡辺信夫 2001 「交通体系の成立」『仙台市史通史編3 近世I』仙台市編さん委員会

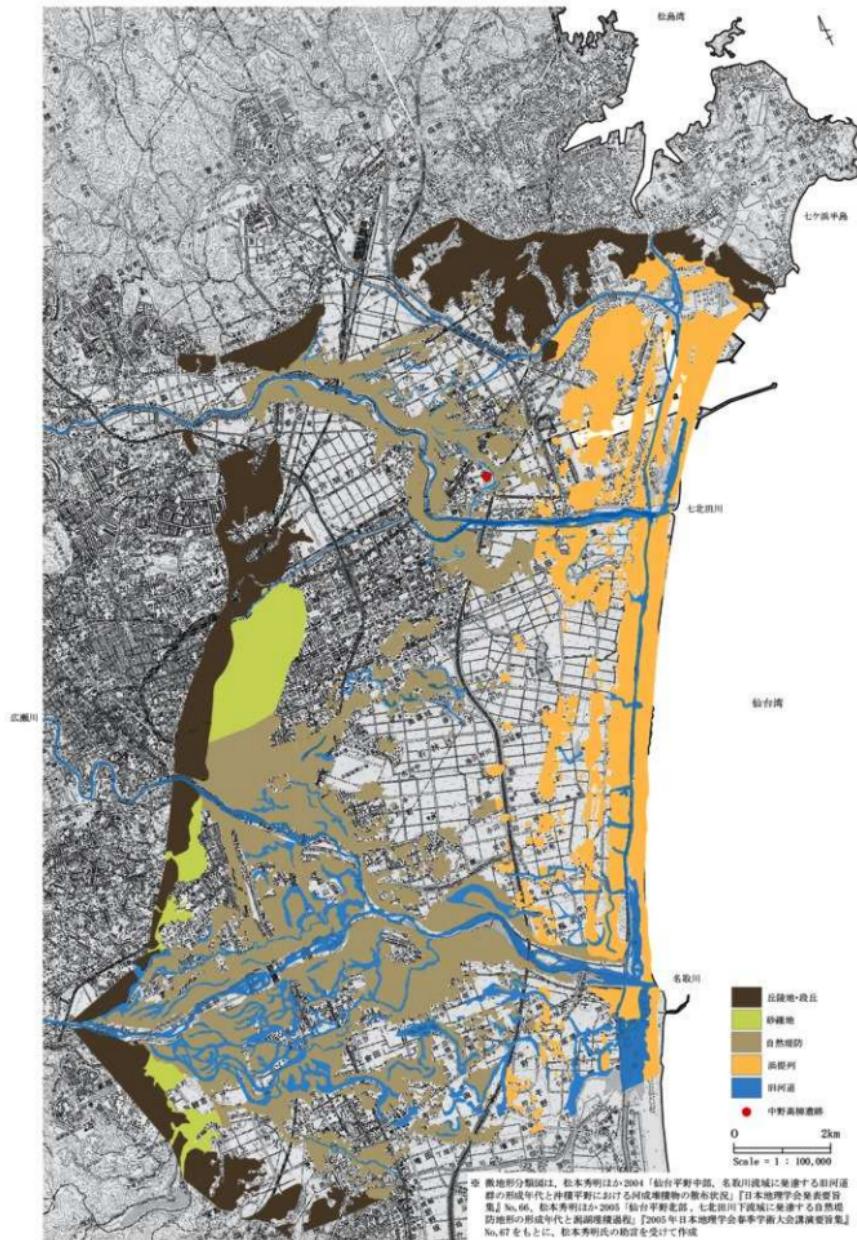


第1図 中野高柳遺跡位置図

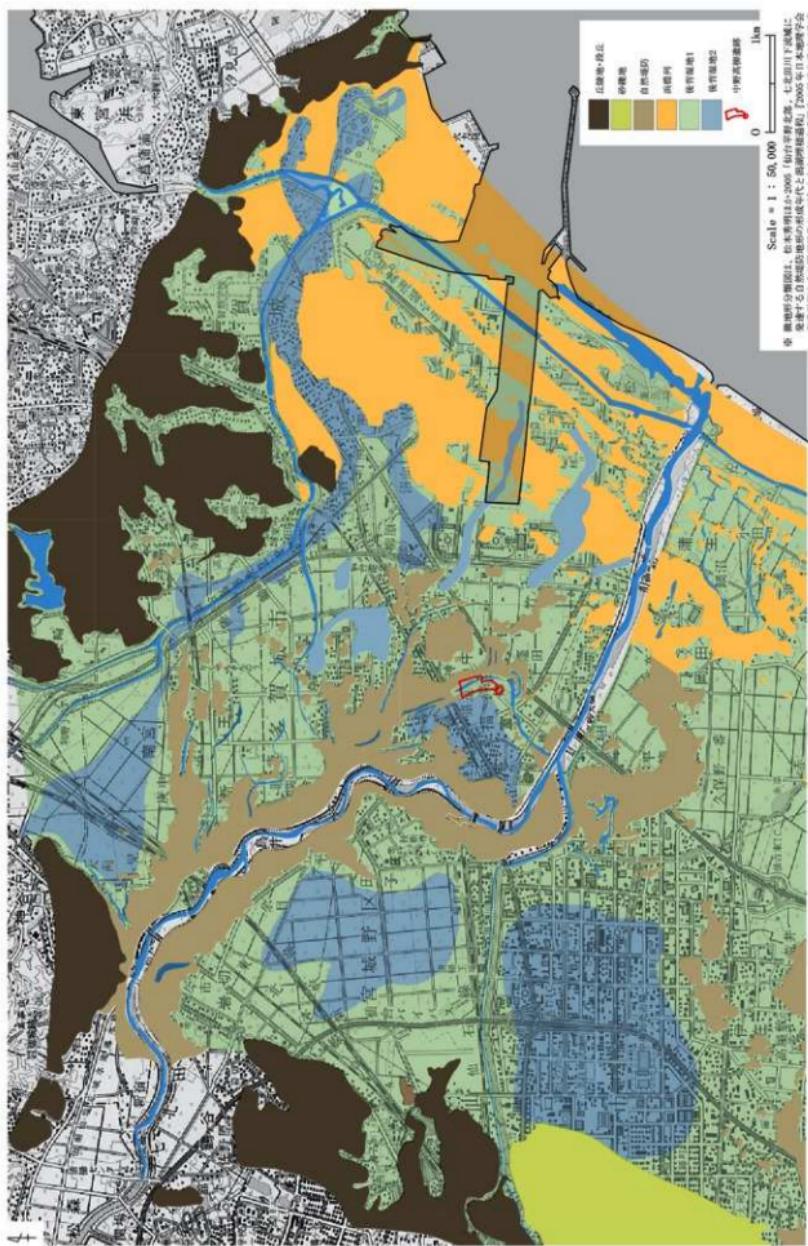


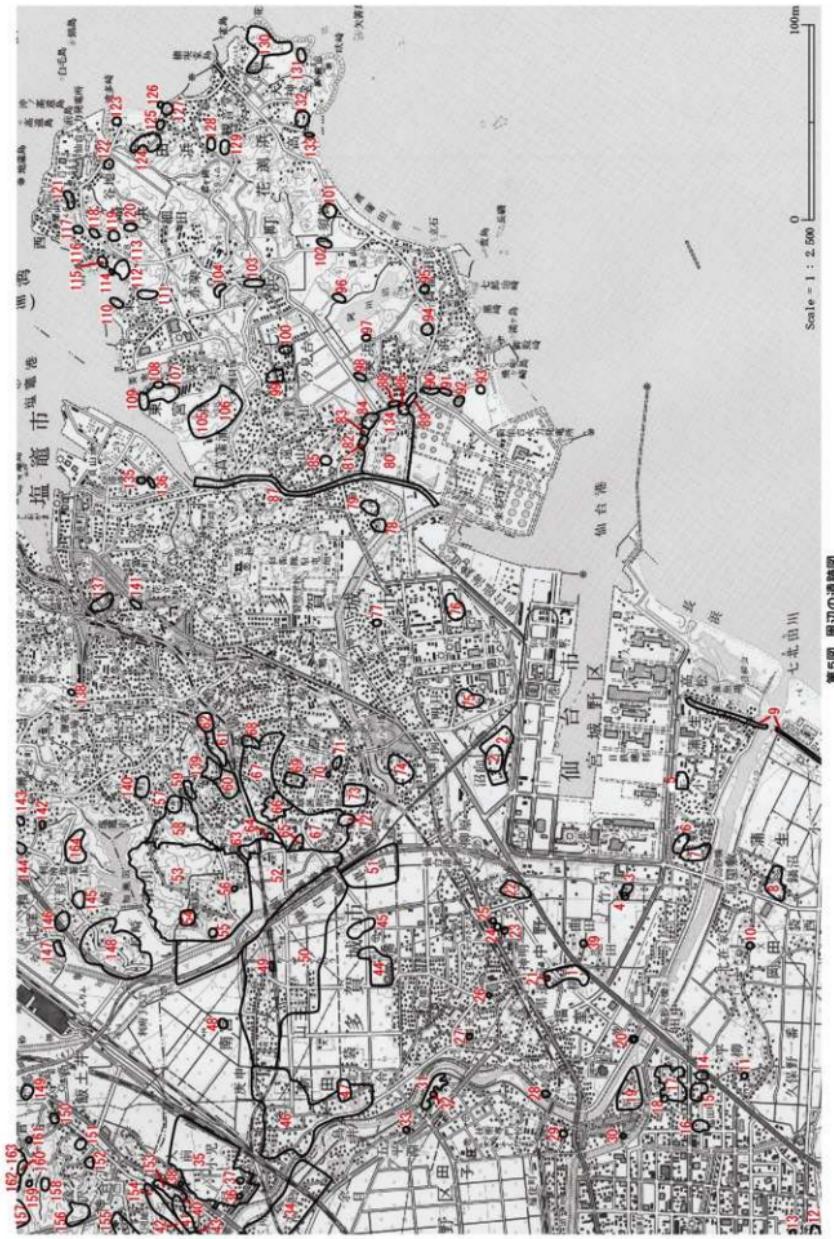
第2図 事業地内遺跡分布図

Scale = 1 : 25,000 0 500m



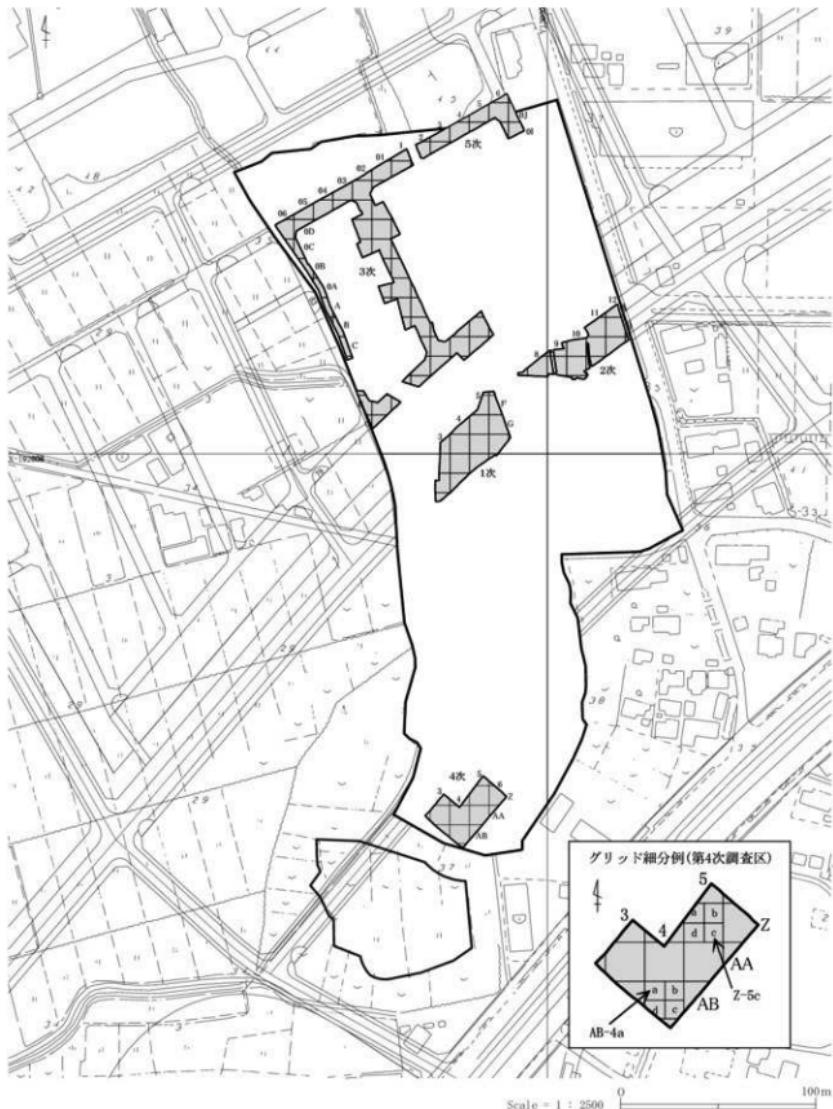
第3図 仙台平野中北部微地形分類図



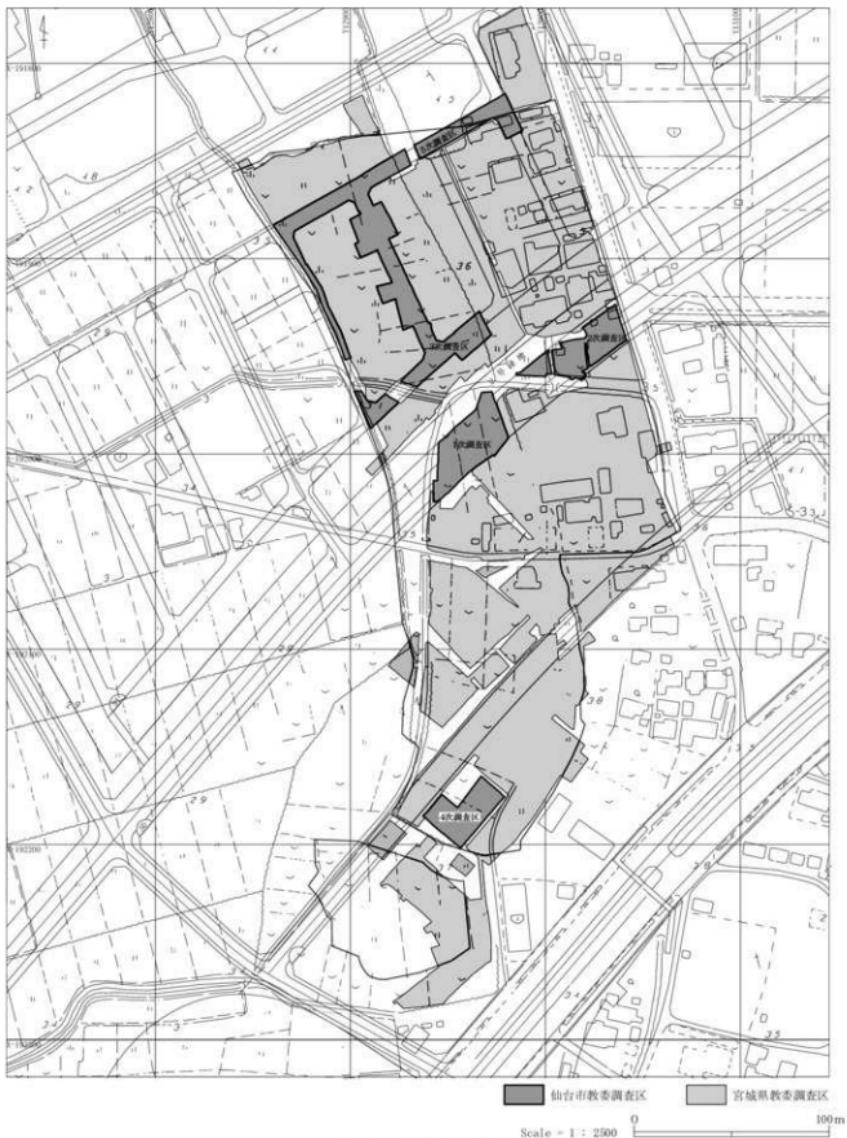


第1表 遺跡地名表

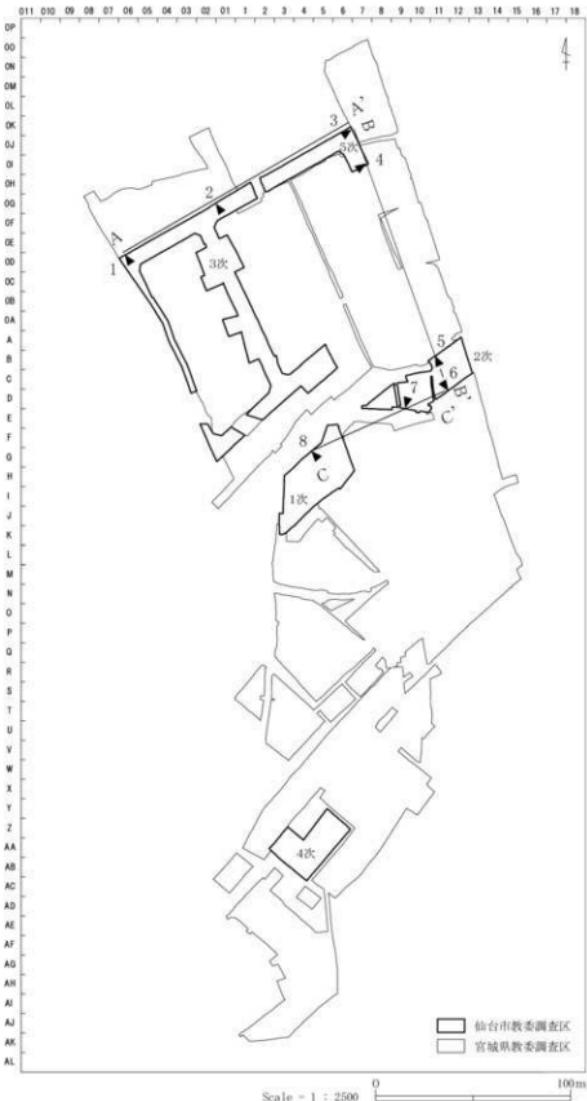
No.	遺跡名	種別	立地	時代	No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	中野高瀬遺跡	集落・城壁・水田跡	自然堆塗	平安・中世	83	本園横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	縄文・古墳
2	沼向遺跡	古墳・集落・水田跡	堤堰・後背堆塗	平安・近世	84	大代山遺跡(本園日出原)	貝塚・製塩場	丘陵斜面	縄文・古墳・古代
3	竹ノ井遺跡	散布地	高地	平安	85	前大通跡	散布地・製鐵	丘陵斜面	古代
4	耳環鏡音堂碑群	板碑	自然堆塗	中世	86	西御前貝塚	貝塚・製塩場	丘陵斜面	縄文・弥生・古墳
5	西御前遺跡	散布地	自然堆塗	奈良・平安	87	前山塚	高地	現闇庵地	近世
6	牛之合造跡	散布地	自然堆塗	奈良・平安	89	砂山遺跡墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳
7	和泉郡御詔跡	知敷	高地	近世	90	葛原穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳後
8	田口神居跡	知敷	自然堆塗	近世	91	弁人火造跡	散布地	南北	古代
9	尚川駅	運河	高地	近世	92	弁人火造跡	散布地	丘陵	古代
10	岡山神明社板碑群	板碑	自然堆塗	中世	93	弁人火造跡	散布地	南北	古代
11	延喜式吉神社板碑群	板碑群	自然堆塗	中世	94	蟹山遺跡	貝塚・製塩場	丘陵斜面	縄文・弥生
12	地藏造遺跡	散布地	自然堆塗	中世	95	伽藍跡・社前跡	散布地・製塩場	丘陵	縄文・古墳
13	六丁目北町振跡	板碑	自然堆塗	中世	96	鬼の山横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳
14	小道遺跡	散布地	自然堆塗	平安	97	阿川山貝塚	貝塚	丘陵斜面	縄文・弥生
15	鶴見日造跡	散布地	自然堆塗	平安	98	林崎山貝塚	貝塚	丘陵階段・海岸	縄文・弥生
16	出上遺跡	散布地	自然堆塗	平安	99	野山遺跡	製塩場	丘陵斜面	縄文・弥生
17	鶴見I遺跡	散布地	自然堆塗	平安	100	鬼の山野山貝塚	貝塚・製塩場	丘陵斜面	縄文・弥生・奈良
18	鶴見野山神社板碑群	板碑	自然堆塗	中世	101	長須賀遺跡	貝塚・製塩場	丘陵	縄文・平安
19	屈輪山遺跡	散布地	自然堆塗	平安	102	東原山遺跡	散布地	低地	古墳
20	八幡神社板碑群	板碑	自然堆塗	中世	103	下山遺跡	製鐵場	丘陵斜面	不明
21	中野柳原板碑群	板碑	自然堆塗	中世	104	三谷分山遺跡	製鐵場	丘陵斜面	不明
22	出井遺跡	散布地	自然堆塗	平安	105	大木山遺跡	城跡	丘陵	中世
23	出元一丁目板碑群	板碑群	自然堆塗	中世	106	大木山貝塚	貝塚	丘陵	縄文以前～後
24	出元二丁目板碑群	板碑群	自然堆塗	中世	107	左近遺跡	散布地	丘陵	古代
25	出元安室神社板碑群	板碑群	自然堆塗	中世	108	小糸川遺跡	貝塚	丘陵	縄文・弥生・古墳
26	智頭安寺板碑群	板碑	自然堆塗	中世	109	左近山遺跡	貝塚	丘陵	鬼の山・平安
27	西吉田板碑群	板碑	自然堆塗	中世	110	山田山遺跡	散布地・製塩場	丘陵	鬼の山・平安
28	雁坂庚板碑群	板碑	自然堆塗	中世	111	小友川遺跡	散布地・製塩場	丘陵	鬼の山・古代
29	鬼坂庚板碑群	板碑	自然堆塗	中世	112	木戸山遺跡	貝塚・製塩場	丘陵	鬼の山・古代
30	内宮御靈音板碑群	板碑	自然堆塗	中世	113	水谷山遺跡	散布地・製塩場	丘陵	鬼の山・平安
31	尾ノ井遺跡	散布地	自然堆塗	平安	114	水谷山第六墓群	横穴墓	南北	古墳
32	尾ノ井碑群	板碑	自然堆塗	中世	115	土佐川貝塚	貝塚	丘陵	鬼の山・古代
33	五石塚板碑群	板碑群	自然堆塗	中世	116	土田貝塚	貝塚・製塩場	丘陵	鬼の山・平安
34	湯ノ足遺跡	集落	自然堆塗	鬼の山・中世	117	清水木戸貝塚	集落	丘陵	鬼の山・平安
35	洞ノ口遺跡	集落・城壁・水田跡	自然堆塗	奈良・平安・中世・近世	118	清水木戸遺跡	貝塚・製塩場	丘陵斜面	古代
36	洞ノ口板碑群	板碑	自然堆塗	中世	119	峯山貝塚	貝塚・製塩場	丘陵斜面	縄文・古墳
37	洞ノ口板碑群	板碑	自然堆塗	中世	120	穴ノ上遺跡	貝塚	丘陵	縄文・古墳
38	所那御靈音板碑群	板碑	自然堆塗	中世	121	影山山遺跡	貝塚	丘陵	平安
39	中野魚田板碑群	板碑	自然堆塗	中世	122	神宮跡	散布地	丘陵	古代
40	化粧城跡	城跡	丘陵	中世	123	沢尻遺跡	貝塚	南北	縄文・弥生・平安
41	羽根原板碑群	板碑群	丘除・御厨	中世	124	二日市貝塚(現植木貝塚)	貝塚	丘陵	縄文・弥生・平安
42	羽根原遺跡	城跡・遺跡・城館	丘除	中世	125	吉田山遺跡	散布地	丘陵斜面	古代
43	吉田山遺跡	遺跡	丘除・奈良道跡	中世	126	吉田山貝塚	貝塚	丘陵	縄文・古墳
44	大内南遺跡	集落・城壁	自然堆塗	平安・中世・中世	127	吉田山城跡	城跡	丘陵	中世?
45	大内北遺跡	散布地	自然堆塗	丘除・中世	128	夢ノ水遺跡	貝塚	丘陵	元治・中世
46	新井遺跡	集落・城壁	自然堆塗	中世	129	新・洞ノ貝塚	貝塚	丘陵斜面	縄文・中世
47	安佐今造跡	寺院	自然堆塗	古代末～中世	130	花園山遺跡	城跡	散布地	平安・中世
48	内宮御靈音	城跡	自然堆塗	中世	131	桑原山寺跡	散布地	丘陵	古代
49	山田山手刈田地区	集落・都市・城壁・知敷	貝塚	鬼の山・近世	132	夷川山遺跡	貝塚	低地	平安
50	山田遺跡	集落・都市・城壁・知敷	貝塚	鬼の山・近世	133	高木山第六墓群	横穴墓	丘陵	古墳後
51	六丁目遺跡	遺跡	貝塚	鬼の山・中世	134	新田山遺跡	貝塚・製塩場	丘陵	古代
52	市街地遺跡	都市	自然堆塗	鬼の山・平安	135	一本木貝塚	貝塚・製塩場	丘陵	縄文・平安
53	仲村中央・多賀城跡	城跡	自然堆塗	鬼の山・平安	136	一本木横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古代
54	金屋貝塚	貝塚	自然堆塗	鬼の山・平安	137	塙山貝塚跡	城跡	丘陵	中世
55	五石塚遺跡	集落	自然堆塗	鬼の山・中世	138	延喜式吉神社遺跡	散布地・製塩場	丘陵斜面	縄文・平安
56	田代横浜穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳後	139	袖野山遺跡	散布地	丘陵斜面	奈良・平安
57	辻谷遺跡	城跡・寺院	丘陵斜面	古代	140	辻ノ門遺跡	散布地	丘陵	平安
58	西御前遺跡	集落	自然堆塗	古代・中世	141	野町山第六墓群	横穴墓	丘陵斜面	奈良?
59	高瀬遺跡	集落	自然堆塗	古代・中世	142	十二・一本木遺跡	塙	丘陵	古代
60	小坂山遺跡	集落	自然堆塗	古代・中世	143	十二・一本木遺跡	散布地	丘陵斜面	古代
61	野ノ井遺跡	城跡	丘除・城館	古代・中世	144	姫女山遺跡	散布地・製塩場	丘陵斜面	縄文・中世
62	穴ノ口・相浦	散布地・城跡	丘除	古代・中世	145	稚鹿山遺跡	散布地	丘陵	古代
63	御前遺跡	城跡	丘除	中世	146	大内遺跡	散布地	丘陵	古代
64	今宿住宅地	農家	丘除	近世	147	北佐野遺跡	散布地	丘陵	縄文・古墳
65	高瀬占塗跡	丘除	占塗地	古墳中・後	148	加賀原山遺跡	散布地	丘陵	自然堆塗
66	多賀城跡今塚跡	寺院	丘除	奈良・平安	149	伊勢北次・鬼の山	城跡	丘陵	平安
67	高瀬遺跡	集落・都市・城館	丘除	奈良・平安・中世	150	能野山遺跡	散布地	丘陵	古墳・平安
68	留・谷遺跡	城跡	丘除	古代・中世	151	西大寺遺跡	散布地	丘陵	古墳
69	御前御靈音	城跡	丘除	中世	152	塙元山遺跡	内塙	丘陵	古墳
70	裕殿遺跡	城跡	丘除	古墳後	153	細ノ内遺跡	岐跡	丘陵	中世
71	桜井指標	城跡	丘除	中世	154	羽黒山遺跡	宗教遺跡	丘陵	中世
72	東山中住前遺跡	城跡・城館	丘陵斜面	古代・中世	155	羽黒山遺跡	岐跡	丘陵	中世
73	志引遺跡	城跡・城館	丘除	古代・中世	156	北伏木第六墓群	横穴墓	丘陵	古墳
74	八幡松遺跡	城跡・城館	丘除	古代・中世	157	菅谷山遺跡	岐跡	丘陵	平安・中世
75	八幡山遺跡	集落	自然堆塗	古代・中世	158	笠置山遺跡	散布地	丘陵	古代
76	東御前遺跡	集落	高地	古代	159	穴ノ水遺跡	散布地	丘陵	古代
77	松ノ井遺跡	城跡	丘除	中世	160	馬場山遺跡(南側)	貝塚	丘陵	古墳
78	西御前遺跡	散布地	自然堆塗	古代	161	馬場山遺跡(北側)	横穴墓	丘陵斜面	古代
79	元代遺跡	散布地	自然堆塗	古代	162	菅谷山寺跡・横穴墓	横穴墓	丘陵	古墳後
80	大内遺跡	散布地	丘除・製塩場	奈良・中世	163	菅谷谷第六墓群	横穴墓	丘陵	古墳後
81	大内御前跡	御前遺跡・貝塚・製塩場	海抜崖	奈良・中世	164	加賀原山貝塚	貝塚	丘陵斜面	縄文・中世
82	大代横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳後					



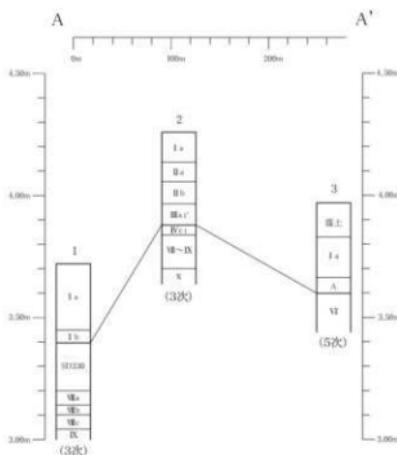
第6図 グリッド配図



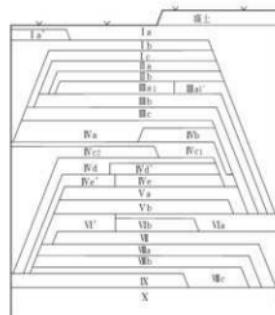
第7図 遺跡範囲と調査区



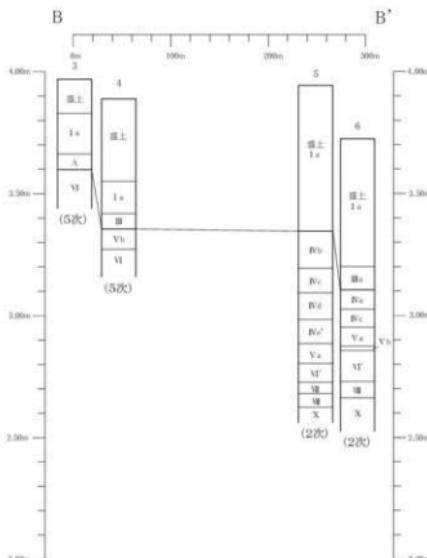
第8図 基本層序柱状模式図作成地点位置図



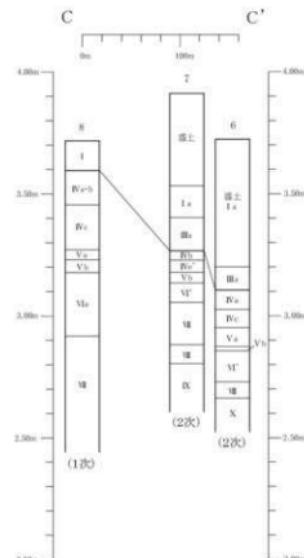
基本層序柱狀模式圖(1)



基本層序路圖



基本顺序性状模式图(2)



基本層序柱狀模式圖(3)

垂直方向 scale = 1:20
水平方向 scale = 1:2500

第9図 基本層序柱状模式図・基本層序略図

第2表 中野高柳遺跡時期区分・遺構確認面対応表

宮城県教育委員会		年代	時代	仙台市教育委員会	
時期	遺構確認面			遺構確認面	時期
第Ⅰ期	第VII層上面	10世紀前葉		VI層上面	I期
第Ⅱ期	第V層上面	10世紀中葉		V層上面	II期
第Ⅲ期		12世紀			III期
第Ⅳ期	第IV・V層上面	13～14世紀	鎌倉時代	IV層上面	IV期
第Ⅴ期		15～16世紀後半	南北朝・室町・戦国時代		V期
第Ⅵ期		16世紀後半～17世紀前半	安土・桃山時代		VI期
第Ⅶ期		17世紀後半～19世紀	近世	Ⅶ層上面	Ⅶ期

第3表 中野高柳遺跡検出遺構数量表

調査区	立地	遺構期	遺構数	SB 掘立柱 建物跡	SA 区画 施設	SD 溝跡	SR 河川跡	SE 井戸跡	SK 土坑	SX 性格不明 遺構	ピット	小溝 (群)	烟跡	小計
第1次	自然堤防	I期	709	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	4
		II期		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		III～VI期		11	0	12	0	11	31	0	639	0	0	704
		VII期		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2次	自然堤防	I期	138	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
		II期		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III～VI期		4	0	10	0	8	21	2	91	0	0	136
		VII期		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3次	自然堤防	I期	567	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	4
		II期		0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
		III～VI期		19	3	52	2	16	25	7	433	0	0	557
		VII期		0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
第4次	自然堤防	I期	156	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II期		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III～VI期		2	0	7	0	0	17	0	117	0	0	143
		VII期		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5次	自然堤防	I期	80	0	0	1	1	0	0	3	0	0	0	5
		II期		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III～VI期		0	0	8	1	0	4	11	50	0	0	74
		VII期		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
遺構総数			1650	36	3	100	8	35	98	23	1343	2	2	1650

第4表 中野高柳遺跡出土遺物数量表

調査区	ロクロ 土師器	須恵器	赤焼 土器	土師器 土器	陶器	磁器	瓦	土製品	石製品	金属 製品	木製品	織	炭化物	その他	小計
第1次	185	8	0	123	131	41	3	1	44	37	109	12	0	36	730
第2次	93	3	0	142	45	7	0	4	5	11	8	35	10	57	420
第3次	448	23	0	31	166	26	11	0	57	73	8	6	1	31	881
第4次	24	2	13	6	20	12	6	0	3	5	0	3	1	16	111
第5次	3	1	36	42	71	19	7	2	23	9	0	65	2	35	326
合計	753	37	49	344	433	105	27	7	132	135	125	121	14	175	2468

第2章 - 第1次調査 -

本文目次

第1節 調査概要と基本層序	21	3. VI層上面で検出された遺構と出土遺物	22
1. 調査概要	21	(1) S B 挖立柱建物跡	22
2. 基本層序	21	(2) S D溝跡	24
第2節 検出遺構と出土遺物	21	(3) S E 井戸跡	26
1. VI層上面で検出された遺構と出土遺物	21	(4) S K 土坑	27
(1) S D溝跡	21	(5) ピット	30
(2) S R 河川跡	22	4. その他の出土遺物	31
(3) 煙路	22	第3節 まとめ	31
2. V層上面で検出された遺構と出土遺物	22	1. I期～VII期の遺構と出土遺物	31
(1) 小溝状遺構群	22	2. 小結	31

挿図目次

第1-1図 第1次調査区位置図・等高線図・基本層序	33	第1-19図 IV層上面 S D溝跡全体図	51
第1-2図 第1次調査区土層断面図(1)	34	第1-20図 IV層上面 S D溝跡平面図(1)	52
第1-3図 第1次調査区土層断面図(2)	35	第1-21図 IV層上面 S D溝跡平面図(2)	53
第1-4図 第1次調査区VI層上面遺構全体図	36	第1-22図 IV層上面 S D溝跡断面図	54
第1-5図 VI層上面 S D溝跡・S R河川跡平面図	37	第1-23図 IV層上面 S E 井戸跡平面図・断面図(1)	55
第1-6図 VI層上面 S D溝跡・S R河川跡断面図	38	第1-24図 IV層上面 S E 井戸跡平面図・断面図(2)	56
第1-7図 VI層上面煙路平面図・断面図	39	第1-25図 IV層上面 S E 井戸跡平面図・断面図(3)	57
第1-8図 第1次調査区V層上面遺構全体図	40	第1-26図 IV層上面 S E 井戸跡平面図・断面図(4) S K	
第1-9図 V層上面小溝状遺構群平面図・断面図	41	土坑平面図・断面図(1)	58
第1-10図 第1次調査区IV層上面遺構全体図	42	第1-27図 IV層上面 S K 土坑平面図・断面図(2)	59
第1-11図 IV層上面 S B 1 0 1 挖立柱建物跡平面図・ 断面図	43	第1-28図 IV層上面 S K 土坑平面図・断面図(3)	60
第1-12図 IV層上面 S B 1 0 2・1 0 4 挖立柱建物跡平面 図・断面図	44	第1-29図 IV層上面 S K 土坑平面図・断面図(4)	61
第1-13図 IV層上面 S B 1 0 3 挖立柱建物跡平面図・ 断面図	45	第1-30図 IV層上面 S K 土坑平面図・断面図(5)	62
第1-14図 IV層上面 S B 1 0 6 挖立柱建物跡平面図・ 断面図	46	第1-31図 IV層上面 S K 土坑平面図・断面図(6)	63
第1-15図 IV層上面 S B 1 0 7・S B 1 0 8 挖立柱建物跡 平面図	47	第1-32図 IV層上面 S K 土坑平面図・断面図(7)	64
第1-16図 IV層上面 S B 1 0 9・S B 1 1 2 挖立柱建物跡 平面図	48	第1-33図 IV層上面 S K 土坑平面図・断面図(8)	65
第1-17図 IV層上面 S B 1 1 0 挖立柱建物跡平面図	49	第1-34図 IV層上面 S K 土坑平面図・断面図(9)	66
第1-18図 IV層上面 S B 1 1 1 挖立柱建物跡平面図	50	第1-35図 第1次調査区IV層上面ピット集中部全体図	67
		第1-36図 IV層上面ピット集中部平面図(1)	68
		第1-37図 IV層上面ピット集中部平面図(2)	69
		第1-38図 IV層上面ピット集中部平面図(3)	70
		第1-39図 IV層上面ピット集中部平面図(4)	71
		第1-40～54図 第1次調査出土遺物実測図	72～86

挿表目次

第1-1表 S B掘立柱建物跡観察表	87	第1-6表 ピット観察表	89
第1-2表 S D溝跡観察表	87	第1-7表 小溝状道構群観察表	101
第1-3表 S R河川跡観察表	87	第1-8表 烟跡観察表	101
第1-4表 S E井戸跡観察表	87	第1-9表 遺物出土数量表	101
第1-5表 S K土坑観察表	88	第1-10表 遺物観察表	102

写真図版目次

写真図版1~8 (遺構写真)	107~114	写真図版9~15 (遺物写真)	115~121
----------------	---------	-----------------	---------

第2章 第1次調査

第1節 調査概要と基本層序

1. 調査概要

第1次調査区は、中野高柳遺跡の中央部西側、E～K-1・3～6Gridに位置し、自然堤防に立地する(第1-1図)。調査面積は1088.7 m²である。調査区は第1-1図のように設定した。

調査区は後世の削平をほとんど受けておらず、遺構の遺存状態は良好である。

試掘調査は平成7年8月1日～8月25日まで実働13日間実施した。本調査は、平成7年9月25日に、表土の重機振削と遺構確認を開始し、12月9日までの実働50日間実施した。

遺構検出面は、基本層IV層上面、基本層V層上面、基本層VI層上面であった。

遺構は、I期(10世紀前葉)からVI期(16世紀後半～17世紀前半)にかけて、総数709基認められた。I期(10世紀前葉)の遺構は、VI層上面で溝跡2条、河川跡1条、畑跡が検出された。II期(10世紀中葉)の遺構は、V層上面で小溝状遺構群1群が検出された。III～VI期(12世紀～17世紀前半)の遺構は、IV層上面で掘立柱建物跡11棟、溝跡12条、井戸跡11基、土坑31基、ピット639基が検出された。

遺物は、平箱で9箱出土した。総点数は730点で、そのうち遺構出土が427点、基本層出土が303点である。各遺構及び基本層からの出土数量は第1-9表に示した。主な出土遺物はロクロ土師器、土師質土器、陶器、木製品である。これらの遺物のうち146点を図示した。

2. 基本層序

第1次調査区では、北壁の2箇所で基本層序の確認を行なった。基本層序は大別でI、IV、V、VI、VII層の5層、細別で、I、I'、IVa・b、IVc、IVd、Va、Vb、VIa、VII層の9層を確認した。

第2節 検出遺構と出土遺物

1. VI層上面で検出された遺構と出土遺物

(1) SD溝跡(第1-1-5～6図、第1-2表、写真図版1-6) 2条検出された。

SD110溝跡 (第1-5～6図、第1-2表、写真図版1-6-4) H-3bc・H-4d・I-4acd・J-4abdGridに位置するI期の遺構である。VI層上面で検出された。畑跡と同時存在である。VI層上面で検出された遺構との新旧関係はない。調査区を北西から南東へ縱断する溝で、北西側のSD1257溝跡(宮城県教育委員会調査4区)、南東側のSD1592溝跡(宮城県教育委員会調査A区)へ続く。壁面の立ち上がりは明瞭である。埋土はいずれも自然堆積である。埋土2層は灰黄褐色砂質シルトと灰白色火山灰が互層に堆積する。埋土3層は灰白色火山灰がレンズ状に堆積する。SD110は、SD113と共に畑跡を区画する区画溝と考えられる。出土遺物はない。

SD113溝跡 (第1-5～6図、第1-2表) H-4cd・H-5adGridに位置するI期の遺構である。VI層上面で検出された。VI層上面で検出された遺構との新旧関係はない。東西方向の溝で、両端は擾乱に削平される。壁面の立ち上がりは明瞭である。埋土1層から3層は、灰白色火山灰ブロックを含む。埋土5層は灰白色火山灰がレンズ状に堆積する。SD113は、SD110と共に畑跡を区画する区画溝と考えられる。出土遺物はない。

(2) SR河川跡(第1-5~6図、第1-3表、写真図版1-8) 1条検出された。

SR101河川跡 (第1-5~6図、第1-3表、写真図版1-8-7~8) F-5bcd・F-6ad・G-5abc・G-6a~d・H-5bc・H-6a~d・I-5b・I-6aGridに位置するⅠ期の遺構である。VI層上面で検出された。VI層上面で検出された畑跡より新しい。調査区を北から南へ縦断する河川跡である。SD1100河川跡(宮城県教育委員会調査D区)の一部である。底面まで調査を行なっていなかったため、断面形は不明である。壁の立ち上がりは明瞭である。灰白色火山灰である基本層Vb層が西壁の途中で途切れしており、下部では認められない。灰白色火山灰の基本層Va層は、河川の立ち上がり部分にも堆積が認められる。出土遺物はない。

(3) 畑跡(第1-3~6図、第1-8表、写真図版1-4~5-8)

畑跡 (第1-4~7図、第1-8表、写真図版1-4-5、5-1、8-3~6) H-5cd・I-4bc・I-5abd・I-6a・J-4bGridに位置するⅠ期の遺構である。VI層上面で検出された。SR101より古い。南側に続くSF1334畑跡(宮城県教育委員会調査4区)の一部である。東側はSR101に削平され、西側は搅乱に削平される。畑跡は、調査区中央部南側で、東西方向に直線的に平行する12本の畝間からなる。畝間の検出長は、1.8~15.4mである。上端幅は0.40~0.90m、下端幅0.10~0.60mである。遺構確認面からの深さは0.07~0.25mである。畝間の芯々距離は0.80~1.50mで、ややばらつきがある。底面はほぼ平坦である。畝間には、灰白色火山灰の基本層Va層と、Vb層が堆積していた。この畑跡の西側は、SD110に大きく区画され、SD113によって小さく区画されていたと考えられる。遺物は、埋土から砾石(No.01126)が出土している。

2. V層上面で検出された遺構と出土遺物

(1) 小溝状遺構群(第1-8~9図、第1-7表、写真図版1-5-8) 1群検出された。

小溝状遺構群 (第1-8~9図、第1-7表、写真図版1-5-1、8-3~5~6) H-4c・H-5cd・I-4b・I-5ab・I-6aGridに位置するⅡ期の遺構である。V層上面で検出された。V層上面で検出された遺構との新旧関係はない。北側に位置するSF1333畑跡(宮城県教育委員会調査3区・4区)の一部である。北西側と南西側の一部が削平される。小溝状遺構群は、調査区中央部南側で、東西方向に直線的に平行する5条の溝からなる。本来北側にも広がっていたと考えられる。小溝の検出長は、4.40~8.80mである。上端幅は0.30~0.70mである。遺構確認面からの深さは、0.03~0.20mである。走行方向はN-88°-E~N-90°-Eである。東側はSR101の手前で収束しており、SR101に区画されていたと考えられる。出土遺物はない。

3. IV層上面で検出された遺構と出土遺物

(1) SB掘立柱建物跡(第1-11~18・36~39図、第1-1表、写真図版1-5) 11棟検出された。

SB101掘立柱建物跡 (第1-11・36図、第1-1表、写真図版1-5-2~3) G-4bcdGridに位置するⅢ~VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SB102より古い。SD101の北側、調査区の中央に位置する桁行3間、梁行2間の掘立柱建物である。北西側は調査区外へ続く。平面規模は、桁行は南側柱列で7.08m、柱間は2.05~2.57mである。梁行は東側柱列で4.72m、柱間は2.22mと2.50mである。建物面積は、残存範囲で23.51m²、主軸方位はN-80°-Eである。柱穴の平面形は、隅丸方形が4基、不整円形が1基、円形が1基である。断面形は、開いた「U」字状が4基、「U」字状が2基である。埋土1層は柱痕跡、埋土2層は掘り方埋土である。出土遺物はない。

SB102掘立柱建物跡 (第1-12・36図、第1-1表、写真図版1-5-2~4) G-4bcGridに位置するⅢ~VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SB101、SD104より新しい。SD101の北側、調査区の中央に位置する、東西3間以上、

南北3間以上の掘立柱建物である。北西は調査区外へ続く。平面規模は、東側柱列は3.30m以上、柱間は0.75~1.03mである。南側柱列は4.15m以上、柱間は0.95~1.45mで、西側の間隔がやや大きく開く。建物面積は、残存範囲で6.63m²、主軸方位はN-89°-Eである。柱穴の平面形は、不整円形4基、隅丸方形が2基、不整形が1基である。断面形は、開いた「U」字状が4基、「U」字状が3基である。埋土1層は柱痕跡、埋土2・3層は掘り方埋土である。出土遺物はない。

SB103掘立柱建物跡（第1-13・36図、第1-1表）G-4c・H-a～dGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SB104より新しい。SD101の北側、調査区の中央に位置する桁行4間、梁行3間の掘立柱建物である。北西角と東辺の柱穴は、遺構確認面が削平されているため検出されなかった。平面規模は、桁行は東側柱列が4間で6.39m、柱間は1.35~1.75mで、南側の間隔がやや大きく開く。梁行は北側柱列が3間で5.21m、柱間は1.62~1.94mである。建物面積は33.08m²、主軸方位はN-60°-Eである。柱穴の平面形は、隅丸方形4基、梢円形4基、不整形方2基、円形1基、不整円形1基である。断面形は、開いた「U」字状が10基、「U」字状が1基、「コ」の字状が1基である。埋土1層は柱痕跡、埋土2・3層は掘り方埋土である。出土遺物はない。

SB104掘立柱建物跡（第1-12・36図、第1-1表、写真図版1-5-5）H-4a～dGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SB103より古い。SD101の北側、調査区の中央に位置する東西2間、南北2間の総柱の掘立柱建物である。平面規模は、北側柱列で2.70m、柱間は1.22mと1.48m、東側柱列は2.80m、柱間は1.35mと1.45mである。建物面積は7.51m²、主軸方位はN-6°-Eである。柱穴の平面形は、不整円形が7基、不整形が2基である。断面形は、開いた「U」字状が7基、「U」字状が1基、不明が1基である。埋土1層は柱痕跡、埋土2層は掘り方埋土である。出土遺物はない。

SB106掘立柱建物跡（第1-14・38・39図、第1-1表）I-4bcdGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD108、SK127より新しい。SD101の南側、調査区南東に位置する桁行4間、梁行3間の掘立柱建物である。平面規模は、桁行は西側柱列4間で9.43m、柱間は1.76m~2.96mで、東側柱列は3間で10.00m、柱間は1.50~4.85mである。梁行は北側柱列3間で6.22m、柱間は1.83~2.30mで、南側柱列は1間で6.51mである。本来、東側柱列は4間、南側柱列は3間であったが、柱穴は搅乱によって削平された可能性が高い。建物面積は62.19m²、主軸方位はN-45°-Eである。柱穴の平面形は、不整梢円形が8基、不整円形が3基である。断面形は、「U」字状が4基、開いた「U」字状が3基、「コ」の字状が1基、不明が3基である。埋土1層は柱痕跡、埋土2・3層は掘り方埋土である。出土遺物はない。

SB107掘立柱建物跡（第1-15・38・39図、第1-1表）I-4bcd・J-4abGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD108、SK127より新しい。SD101の南側、調査区南東に位置する東西2間、南北2間の掘立柱建物である。平面規模は、北側柱列は2間で6.30m、柱穴の芯々距離は0.92mと5.38mで、東側の間隔が大きく開く。南側柱列は2間で6.30m、柱穴の芯々距離は2.05mと4.25mで、西側の間隔がやや大きく開く。東側柱列は2間で4.30m、柱穴の芯々距離は1.30mと3.00mで、北側の間隔が大きく開く。西側柱列は1間で4.30mである。本来、東西南北の柱列は2間以上であったが、搅乱に削平された可能性がある。建物面積は26.79m²、主軸方位はN-52°-Eである。柱穴の平面形は、梢円形及び、円形、隅丸方形、不整円形、不整梢円形でまとまりはみられない。出土遺物はない。

SB108掘立柱建物跡（第1-15・36図、第1-1表）G-4cd・H-4abGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。SD101の北側、調査区中央に位置する桁行3間以上、梁行3間の掘立柱建物で、東面に庇を持つ。北側は調査区外へ続く。平面規模は、桁行は東側柱列3間以上で7.32m以上、柱穴の芯々距離は1.03m~2.40m、西側柱列は1間以上で3.85m以上、柱穴の芯々距離は2.40mである。

東面の庇は1間で、柱穴の芯々距離は2.98m、庇の出は1.80mである。梁行は南側柱列で4.00m、柱穴の芯々距離は0.55m～2.40mである。建物面積は、残存範囲で27.62 m²、主軸方位はN-52°-Eである。柱穴の平面形は、不整円形が9基、円形が1基である。遺物は、埋土から土師質土器が出土している。

SB109掘立柱建物跡（第1-16・36図、第1-1表） G-4c・H-4a～dGridに位置するVI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD101、SE139より新しい。調査区中央に位置する桁行3間、梁行1間の掘立柱建物である。平面規模は、桁行は東側柱列2間で6.22m、柱穴の芯々距離は2.15mと3.33m、西側柱列は3間で6.22m、柱穴の芯々距離は1.30m～3.63mである。梁行は北側柱列、南側柱列ともに4.89mである。建物面積は29.11 m²、主軸方位はN-31°-Eである。柱穴の平面形は、不整円形が4基、不整橢円形が2基、隅丸方形が1基である。出土遺物はない。

SB110掘立柱建物跡（第1-17・36・37図、第1-1表） G-4c・G-5ad・H-4bc・H-5abGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SB111、SK133、SK135より新しい。SD101の北側、調査区中央に位置する桁行4間、梁行2間の掘立柱建物で、室内整理の段階で図上復元したものである。平面規模は、桁行は北側柱列が3間で9.27m、柱穴の芯々距離は1.72m～4.22m、南側柱列は4間で9.27m、柱穴の芯々距離は1.30m～4.57mである。梁行は東側柱列が1間で7.92m、西側柱列は2間で7.90m、柱穴の芯々距離は1.75m～6.15mである。建物面積は75.35 m²、主軸方位はN-75°-Eである。柱穴の平面形は、不整円形が7基、不整方形が2基、橢円形が1基である。出土遺物はない。

SB111掘立柱建物跡（第1-18・36・37図、第1-1表） G-4c・G-5ad・H-4b・H-5abGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SB110より古い。SD101の北側、調査区中央に位置する桁行6間、梁行3間の掘立柱建物で、東柱を持つ。平面規模は、桁行は北側柱列が5間で10.55m、柱穴の芯々距離は0.70m～3.70m、南側柱列は6間で10.58m、柱穴の芯々距離は0.63m～4.08mである。北面の庇は5間で、柱穴の芯々距離は1.08m～2.27m、庇の出は0.85mである。梁行は東側柱列が3間で7.60m、柱穴の芯々距離は1.80m～3.46m、西側柱列は2間で7.60m、柱穴の芯々距離は1.72mと5.88mである。建物面積は86.40 m²、主軸方位はN-74°-Eである。柱穴の平面形は、不整円形が10基、不整方形が8基、円形が6基、不整橢円形が4基、橢円形が1基、不整方形が1基である。出土遺物はない。

SB112掘立柱建物跡（第1-16・36～37・39図、第1-1表） H-5cd・I-5abGridに位置するVI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD101、SE120より新しい。調査区中央に位置する桁行2間、梁行1間の掘立柱建物である。北東隅柱は梁行から0.25m北へ振れ、南西隅柱は梁行から0.35m南へ振れる。平面規模は、桁行は東側柱列が7.50m、柱穴の芯々距離は3.30mと4.03m、西側柱列は7.48m、柱穴の芯々距離は3.30mと3.88mである。梁行は北側柱列が6.20m、南側柱列は6.30mである。建物面積は44.75 m²、主軸方位はN-7°-Eである。柱穴の平面形は、不整円形が3基、不整橢円形が2基、不整方形が1基である。遺物は、埋土から鉄鏃(No01001)が出土している。

(2) SD溝跡(第1-5～6・20～22図、第1-2表、写真図版1-6) 12条検出された。

SD101溝跡（第1-20～22図、第1-2表、写真図版1-6～1-2） G-6c・H-3c・H-4cd・H-5a～d・H-6abd・H-7a・I-3b・I-4abGridに位置するV期の遺構である。IV層上面で検出された。SB109、SB112、SD105、SD106、SD109、SD111、SK130より古く、SE120、SE139、SK128、SK135、SK137、SK138、SK140より新しい。調査区を東西に横断する溝で、東側のSD1650(宮城県教育委員会調査D区)へ続く。西側は調査区外へ続く。溝は中央付近で途切れ、区画溝の入り口になると考えられる。壁面の立ち上がりは明瞭で、南側の一部で屈曲してテラス状になる。埋土1層と2層は炭化物と焼土粒を含み、一部で薬材を検出した。遺物は、埋土から土師質土器皿2点(No01002～No01003)、陶器の中皿(No01004: 濱戸美濃産)、大甕4点(No01005、No01007～No0109: 常滑産)、瓶子(No01006: 濱戸美濃産)と、磁器中碗(No01010: 竜泉窯)、陶器の大甕を転用した砥石(No01011: 常滑産)、刀子(No01012)、鉄鏃(No01013)、釘(No.

01014)、錢貨(No.01015)、加工材(No.01016)が出土している。

SD102溝跡 (第1-21~22図、第1-2表) J-3ab・K-3abGridに位置するIV期の遺構である。IV層上面で検出された。SK103、SK113、SK131より古い。調査区を南北に縱断する溝で、北側へ続くSX1600道路(宮城県教育委員会調査4区)、南側へ続くSX1600道路(宮城県教育委員会調査A区)の一部である。壁面の立ち上がりは明瞭で、両側で屈曲し開く。東側は南北でテラス状になる。遺物は、埋土から土師質土器皿(No.01017)が出土している。

SD103溝跡 (第1-21~22図、第1-2表) I-3cd・J-3bGridに位置するIII~VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SK101より古い。北西~南東方向の溝で、やや蛇行する。北西側は調査区外へ続き、南西側は他遺構に削平される。出土遺物はない。

SD104溝跡 (第1-20~22図、第1-2表) G-4b・G-5abGridに位置するIII~VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SB102、SK119、SK121より古い。北東~南西方向の溝で、南西側は調査区外へ続く。壁面の立ち上がりは明瞭で、南側の一部で屈曲し開く。出土遺物はない。

SD105溝跡 (第1-20~22図、第1-2表) F-5c・F-6d・G-5b・G-6ad・H-6acdGridに位置するVI期の遺構である。IV層上面で検出された。SE132、SK130、SK136より古く、SD101、SD106、SD109より新しい。北西~南東方向の溝で、南側のSD2138溝跡(宮城県教育委員会調査A区)へ続く。底面は北部が溝状に落ち込む。遺物は、埋土からロクロ土師器が出土している。

SD106溝跡 (第1-20~22図、第1-2表) F-5bc・F-6ad・G-6ad・H-6a~dGridに位置するVI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD105、SK104、SK130、SK136より古く、SD101より新しい。北西~南東方向の溝で、南側のSD2138溝跡(宮城県教育委員会調査A区)へ続く。西側の立ち上がりの大半を他遺構に削平される。壁面の立ち上がりは明瞭である。出土遺物はない。

SD107溝跡 (第1-21~22図、第1-2表) J-3bc・J-4abdGridに位置するIII~VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SK131より古く、SD108より新しい。北東~南西方向の溝で、北東側は調査区外へ続き、南西側は他遺構に削平される。壁面の立ち上がりは緩やかである。遺物は、埋土から土師質土器が出土している。

SD108溝跡 (第1-21~22図、第1-2表、写真図版1-6-3) I-4a~d・J-4abGridに位置するIII~IV期の遺構である。IV層上面で検出された。SB106、SB107、SD107、SK128より古い。南北方向の溝で、両端は他遺構に削平される。北端は、西側へ膨らみ溝幅が広がる。壁面の立ち上がりは緩やかで、底面は起伏する。出土遺物はない。

SD109溝跡 (第1-20~22図、第1-2表) G-6d・H-6acdGridに位置するVI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD105、SK130より古く、SD101より新しい。北西から南東方向の溝で、南側のSD2138溝跡(宮城県教育委員会調査A区)へ続く。北東は他遺構に削平される。東側の立ち上がりは他遺構に削平される。壁面の立ち上がりは明瞭である。出土遺物はない。

SD110溝跡 (第1-5~6図、第1-2表、写真図版1-6-4) H-3bc・H-4d~l・4acd・J-4abdGridに位置するI期の遺構である。VI層上面で検出された。VI層畑跡と同時存在である。VI層上面で検出された遺構との新旧関係はない。調査区を北西から南東へ縦断する溝で、北西側のSD1257溝跡(宮城県教育委員会調査4区)、南東側のSD1592溝跡(宮城県教育委員会調査A区)へ続く。壁面の立ち上がりは明瞭である。埋土はいずれも自然堆積である。埋土2層は灰褐色砂質シルトと灰白色火山灰が互層に堆積する。埋土3層は灰白色火山灰がレンズ状に堆積する。SD110は、SD113と共にVI層畑跡を区画する区画溝と考えられる。出土遺物はない。

SD111溝跡 (第1-20~22図、第1-2表) G-6c・G-7d・H-6b・H-7aGridに位置するV期の遺構である。IV層上面で検出された。SD101、SK137より新しい。北西から南東方向の溝で、東壁面の立ち上がり部分を検出した。東側のSD1650溝跡(宮城県教育委員会調査D区)、南側のSD1650溝跡(宮城県教育委員会調査A区)へ続く。遺物は、埋土

から陶器大甕(No01018:常滑窯)が出土している。

SD112溝跡 (第1-20図、第1-2表) F-5bGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。東西方向の溝で、西側は調査区外へ続く。出土遺物はない。

SD114溝跡 (第1-20～22図、第1-2表) H-6bcGridに位置するIII～V期の遺構である。IV層上面で検出された。SK130より古い。南北方向の溝で、北側は他遺構に削平され、南側のSD2144溝跡(宮城県教育委員会調査A区)へ続く。壁面の立ち上がりは明瞭である。出土遺物はない。

(3)SE井戸跡(第1-22～26図、第1-4表、写真図版1-6～7) 11基検出された。

SE108井戸跡 (第1-23図、第1-4表、写真図版1-6～5) G-5c・G-6d・H-5b・H-6aGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。SD101の北側、調査区中央で検出された素掘りと考えられる井戸である。平面形は、上面は不整梢円形で、底面は不整円形である。底面はほぼ平坦で、深さは1.82mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、高位で屈曲し開く。埋土1層から3層は人為堆積で、2層は炭化物を主体とした層である。埋土4層と5層は自然堆積である。遺物は、埋土から土師質土器皿3点(No01019～No01021)が出土している。

SE109井戸跡 (第1-23図、第1-4表) H-5aGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SE134より新しい。SD101の南側、調査区中央で検出された素掘りと考えられる井戸である。平面形は、上面は不整梢円形で、底面は不整円形である。底面は平坦で、深さは1.34mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、高位で屈曲し開く。南西は屈曲部分がテラス状になる。埋土はいずれも人為堆積である。遺物は、埋土から陶器片口鉢(No01022:山茶碗系窓)が出土している。

SE114井戸跡 (第1-23図、第1-4表、写真図版1-6～6) G-5d・H-5aGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SE134より新しい。SD101の北側、調査区中央で検出された。掘り方の平面形は、上面は不整円形で、底面は方形である。底面はほぼ平坦で、深さは1.71mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、中位で屈曲し開く。井戸枠は一辺0.55～0.65mで、径約1cmの竹を横桟の外側に縦方向に立てている。横桟は2段確認した。隅柱(No.01023～No.01026)は芯持材を使用しており、枘穴は方形である。横桟(No.01027、No.01029～No.01032、No.01034)は、樹皮が付いたままの芯持材を使用している。埋土は1層と2層が人為堆積で、井戸枠抜き取り後に埋め戻されたと考えられる。埋土3層と4層は井戸枠内埋土である。埋土5層と6層は、掘り方埋土である。遺物は、井戸枠材のほかに埋土から木製品の底板(No.01035)、加工材3点(No.01028、No.01036～No.01037)が出土している。掘り方から加工材(No.01033)が出土している。

SE116井戸跡 (第1-23図、第1-4表) H-4bGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。SD101の北側、調査区中央で検出された素掘りと考えられる井戸である。平面形は、上面と底面とも不整円形である。底面はほぼ平坦で、深さは1.60mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、高位で屈曲し開く。埋土1層は人為堆積である。埋土2層は自然堆積である。出土遺物はない。

SE117井戸跡 (第1-24図、第1-4表) G-5dGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。SD101の北側、調査区中央で検出された素掘りと考えられる井戸である。平面形は、上面と底面とも不整梢円形である。底面はほぼ平坦で、深さは1.50mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、東は高位で屈曲し、西は中位で屈曲し開く。埋土1層と2層は人為堆積である。埋土3層と4層は自然堆積である。遺物は、埋土から陶器が出土している。

SE120井戸跡 (第1-24図、第1-4表) H-5a～dGridに位置するIII～IV期の遺構である。IV層上面で検出された。SB112、SD101より古い。調査区中央で検出された、素掘りと考えられる井戸である。平面形は、上面は不整円形で、

底面は橢円形である。底面は平坦で、深さは1.76mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、中位で屈曲し開く。遺物は、埋土から土師質土器が出土している。

SE126井戸跡（第1-24図、第1-4表、写真図版1-6-7）I-4aGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。SD101の南側、調査区西部で検出された。丸太刳り抜き材を井戸枠とした井戸である。平面形は、上面は不整円形で、底面は円形である。底面は平坦で、深さは1.25mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、中位で屈曲し開く。井戸枠は長軸0.55m、短軸0.50mで、丸太刳り抜き材を使用している。刳り抜き材は、残存部で高さ0.73m、最大径0.60mである。内面は被熱している。埋土1層から5層は井戸枠内埋土で、いずれも自然堆積である。埋土6層は井戸枠の痕跡である。埋土7層から9層は人為堆積で、掘り方理士である。埋土10層は、掘り方底面から壁面の立ち上がりの屈曲部分で確認した。層厚は0.01～0.02mで硬くしまっており、掘り方掘削の後、人為的に敷かれた可能性がある。遺物は、埋土から下駄の歯（No.01038）、加工材5点（No.01039～No.01043）が出土している。

SE129井戸跡（第1-25図、第1-4表）I-4bGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。SD101の南側、調査区中央で検出された素掘りと考えられる井戸である。平面形は、上面と底面とも不整円形である。底面は平坦で、深さは1.13mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、中位で屈曲し開く。埋土1層から3層は人為堆積である。3層下部と4層は自然堆積である。遺物は、埋土から瓦（No.01044）が出土している。No.01044は平瓦で、凸面は斜縫叩き、凹面は布目である。

SE132井戸跡（第1-25図、第1-4表）G-5c・G-6dGridに位置するVI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD105より新しい。SD101の北側、調査区東部で検出された素掘りと考えられる井戸である。平面形は、上面は不整橢円形で、底面は不整円形である。底面はほぼ平坦で、深さは1.67mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、東は高位で屈曲し開く、西は中位で屈曲して開き、屈曲部分はテラス状になる。埋土1層と2層は人為堆積で、3層と4層は自然堆積である。出土遺物はない。

SE134井戸跡（第1-25図、第1-4表）H-5aGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SE109、SE114より古い。SD101の北側、調査区中央で検出された素掘りと考えられる井戸である。平面形は、上面と底面とも不整円形である。底面はほぼ平坦で、深さは1.58mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、低位及び中位で2度屈曲し開く。屈曲部分はテラス状になる。埋土はいずれも人為堆積である。遺物は、埋土から土師質土器が出土している。

SE139井戸跡（第1-26図、第1-4表、写真図版1-6-8、7-1）H-4bc・H-5adGridに位置するIII～IV期の遺構である。IV層上面で検出された。SB109、SD101より古い。調査区中央で検出された。掘り方の平面形は、上面は南北がSD101に削平され不整形で、底面は円形である。底面はほぼ平坦で、深さは1.54mである。壁面の立ち上がりは明瞭で、東は低位と中位で2度屈曲して開き、西は中位で屈曲し開く。井戸枠の平面形は方形である。井戸枠の規模は、南北0.60m、東西0.70mである。径約1cmの竹材を横桟（No.01051～No.01058）の周囲に縦方向に立てている。横桟は2段確認した。横桟は芯持ち材を使用している。横桟の東面、西面を枠として、南面、北面の横桟の枠穴に組み込んでいる。並べた竹の東面外側上部に曲物（No.01046～No.01047）を巡らしていた。南面には板材（No.01048）を縦方向に1枚、西面には縦方向に2枚設置していた。西側は上段に板材（No.01049）を横方向に設置し、No.01049を支える状態で板材（No.01050）が斜めに設置されていた。井戸枠内部からは、枘（No.01061～No.01062）と枘穴（No.01059～No.01060）が加工された芯持ち材4本が折れた状態で出土しており、横桟は本来3段であった可能性がある。埋土1層は井戸枠内埋土で、埋土2、3層は掘り方理士である。遺物は、井戸枠の他に埋土から漆器皿（No.01045）、加工材（No.01063）が出土している。

(4) SK土坑（第1-26～34図、第1-5表、写真図版1-7～8）31基検出された。

SK101土坑 (第1-26図、第1-5表) J-3bGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD103より新しい。平面形が不整橢円形の土坑である。壁面は底面から緩やかに立ち上がり、中位で垂直に近い角度で屈曲し開く。底面と壁面の立ち上がりの境はやや不明瞭である。遺物は、埋土から釘(№01064)が出土している。

SK102土坑 (第1-26図、第1-5表) J-3cGridに位置するVI期の遺構である。IV層上面で検出された。SK131より新しい。平面形が不整方形の土坑である。壁面は底面から明瞭に立ち上がり、中位で垂直に近い角度で屈曲し開く。底面と壁面の立ち上がりの境は明瞭である。遺物は、埋土から釘(№01065)が出土している。

SK103土坑 (第1-27図、第1-5表) J-3cd-K-3abGridに位置するV～VI期の遺構である。VI層上面で検出された。SD102より新しい。平面形が不整橢円形の土坑である。西側の壁面は、底面から垂直に近い角度で立ち上がる。東側の壁面は、底面から緩やかに立ち上がり、高位で屈曲し開く。遺物は、埋土から釘(№01066)が出土している。

SK104土坑 (第1-27図、第1-5表、写真図版1-7-2～3) F-5b-F-6adGridに位置するVI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD106より新しい。平面形が不整橢円形の土坑である。壁面の立ち上がりは明瞭で、中位で緩やかに屈曲し開く。埋土は大別6層、細別8層が確認された。埋土3b層は植物遺体を多量に含む。埋土4b層の上面、遺構の中央から藁材が出土した。藁材は4b層の全面に敷き詰められていた可能性がある。埋土5層と6層は人為堆積である。遺物は、埋土から陶器大甕(№01067:常滑産)が出土している。

SK105土坑 (第1-27図、第1-5表、写真図版1-7-4) F-5cGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。平面形が不整円形の土坑である。壁面の立ち上がりは明瞭である。埋土1層から3層は人為堆積である。埋土2層は炭化物を主体とする層である。埋土4層は基本層IV層の崩落土である。遺物は、埋土から磁器大碗(№01068:竜泉窯)が出土している。

SK106土坑 (第1-28図、第1-5表、写真図版1-7-4～5) F-5cGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。平面形が不整橢円形の土坑である。壁面の立ち上がりは明瞭である。埋土1層から4層が人為堆積で、5層は自然堆積である。遺物は、埋土から土師質土器皿(№01069)が出土している。

SK107土坑 (第1-28図、第1-5表、写真図版1-4-6) F-4a5c-G-5bGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。平面形が不整橢円形の土坑である。壁面の立ち上がりは明瞭である。埋土はいずれも人為堆積である。遺物は、埋土から陶器が1点出土している。

SK110土坑 (第1-28図、第1-5表) I-5aGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。平面形が不整橢円形の土坑である。壁面の立ち上がりは緩やかである。埋土1層から3層は自然堆積である。埋土4層の上面、ほぼ全面で炭化した藁材が出土した。埋土4層は人為堆積で、上部には藁材が炭化したと考えられる炭化物が帯状に確認された。遺物は、埋土から陶器大鉢(№01070:常滑産)が出土している。

SK111土坑 (第1-28図、第1-5表) J-4aGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。平面形が不整円形の土坑である。壁面は垂直に近い角度で立ち上がる。遺物は、埋土から陶器大甕(№01071～№01072:常滑産)が2点出土している。

SK112土坑 (第1-29図、第1-5表) I-5a～dGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。南側のSD2130溝跡(宮城県教育委員会調査A区)へ続く。平面形が不明の土坑である。遺物は、埋土から磁器の中碗(№01073:肥前産)、五寸皿(№01074:肥前(波佐見)産)が出土している。

SK113土坑 (第1-29図、第1-5表、写真図版1-7-7) J-3a～dGridに位置するV～VI期の遺構である。VI層上面

で検出された。SD102、SK131より新しい。平面形が不整橿円形の土坑である。壁面は底面から緩やかに立ち上がり、南は垂直に近い角度で立ち上がる。出土遺物はない。

SK115土坑 (第1-29図、第1-5表) G-5dGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SK141より新しい。平面形が不整円形の土坑である。遺物は、埋土から磁器小皿(No01075:肥前(波佐見)産)が出土している。

SK118土坑 (第1-29図、第1-5表) G-5bGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。平面形が不整橿円形の土坑である。埋土2層は基本層IV層の崩落土である。出土遺物はない。

SK119土坑 (第1-29図、第1-5表) G-5abGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD104より新しい。平面形が不整円形の土坑である。壁面の立ち上がりは明瞭である。遺物は、埋土から土師質土器皿(No01076)が出土している。

SK121土坑 (第1-30図、第1-5表) G-4bGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD104より新しい。平面形が不整橿円形の土坑である。出土遺物はない。

SK122土坑 (第1-30図、第1-5表) H-4dGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。平面形が不整方形の土坑である。出土遺物はない。

SK123土坑 (第1-30図、第1-5表) H-3c・H-4dGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。平面形が不整橿円形の土坑である。出土遺物はない。

SK124土坑 (第1-30図、第1-5表) J-3c・J-4dGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。平面形が不整円形の土坑である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。埋土3層壁面は、湧水による崩落と考えられる。遺物は、埋土から陶器の小皿(No01077:瀬戸美濃産)、中碗(No01078:中国産)、磁器中碗(No01079:肥前産)が出土している。

SK127土坑 (第1-30図、第1-5表) I-3c・I-4d・J-3b・J-4aGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SB106、SB107より古い。平面形が不整橿円形の土坑である。壁面の立ち上がりは明瞭である。遺物は、埋土から陶器大碗(No01080:瀬戸美濃産)が出土している。

SK128土坑 (第1-31図、第1-5表、写真図版1-7-7) H-4cd・I-4abGridに位置するIV期の遺構である。IV層上面で検出された。SD101より古く、SD108より新しい。遺構上面の北半部分を他遺構に削平され、平面形は不明である。壁面の立ち上がりは明瞭で、北側は屈曲し開く。遺物は、埋土から土師質土器皿(No01081)、磁器の中碗(No01082:竜泉窯)、小皿(No01083:景德鎮窯)、刀子(No01086)、木製の橋(No01084)、底板(No01085)が出土している。No01084は、埋土中層から底面を上にした逆位の状態で出土した完形の橋で、5枚の板材からなる。平面形は長方形である。外寸は、長さ20.6cm、幅19.5cm、高さ9.6cm、内寸は、長さ18.4cm、幅17.4cm、高さ8.4cmであり、容量は約2689cm³である。底板と側板の樹種はすべてスギである。橋は凹凸2箇所の切り込みが非対称の位置にある側板を相欠きで組み合わせ、底板と側板を木釘で留めている。底板内面の一部に被熱を受けた跡と、底板、側板の内外面に直線的な傷が認められる。この傷から、俎板としての使用の後に橋として再利用された可能性がある。また、端、角の部分が擦れて丸くなっていることから、橋として長期間の使用が考えられる。

SK130土坑 (第1-32図、第1-5表、写真図版1-7-8、8-1～2) G-6cd・H-6abcGridに位置するVI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD101、SD105、SD106、SD109、SD114より新しい。平面形が不整円形の土坑である。壁面の立ち上がりは明瞭で中位で屈曲し開く。底面は平坦で、壁面の立ち上がりとの境は明瞭である。埋土は大別4層、細別で20層確認され、土質はシルト質粘土が多い。埋土1層と2a層は焼土粒、炭化物を含む。埋土2c層から動物

遺体(骨)が多く出土した。埋土3c層、3e層、3g層、3h層は藁材を含み、3e層から動物遺体(骨)、埋土3i層から動物遺体(貝)が多く出土した。遺物は、埋土から土師質土器皿2点(№01087、№01089)、陶器の丸皿(№01090:瀬戸美濃産)、瓶子(№01092:瀬戸美濃産)、磁器大碗(№01094:竜泉窯)、石鉢(№01095)、砥石(№01096)、硯(№01098)、刀子2点(№01099～№01100)、漆器皿2点(№01101～№01102)、漆器椀2点(№01104～№01105)、下駄3点(№01107～№01109)、底板(№01110)、杭2点(№01116～№01117)、加工材2点(№01111、№01115)が出土している。埋土4層から、土師質土器(№01088)、陶器の大甕(№01093:常滑産)、瓶子(№01091:瀬戸美濃産)、漆器椀(№01103)、下駄(№01106)、砥石(№01097)、加工材4点(№01112～№01114、№01118)が出土している。

SK131土坑 (第1-31図、第1-5表) J-3bcdGridに位置するV～VI期の遺構である。VI層上面で検出された。SK102、SK113より古く、SD102、SK107より新しい。平面形が不整形の土坑である。壁面の立ち上がりは緩やかである。遺物は、埋土から磁器碗(№01119:竜泉窯)が出土している。

SK133土坑 (第1-31図、第1-5表) G-5adGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SB110より古い。平面形が不整円形の土坑である。壁面の立ち上がりは明瞭で、高位で屈曲し開く。底面から壁面の立ち上がりは緩やかである。遺物は、埋土から土師質土器、陶器が各1点出土している。

SK135土坑 (第1-33図、第1-5表) H-4bcGridに位置するIII～IV期の遺構である。IV層上面で検出された。SB110、SD101より古い。南側は他遺構に削平され、平面形は不明である。底面から壁面の立ち上がりは緩やかである。出土遺物はない。

SK136土坑 (第1-33図、第1-5表) F-6dGridに位置するVI期の遺構である。IV層上面で検出された。SD105、SD106より新しい。平面形が梢円形の土坑である。壁面の立ち上がりは明瞭である。出土遺物はない。

SK137土坑 (第1-33図、第1-5表) G-7d・H-6b・H-7aGridに位置するIII～IV期の遺構である。IV層上面で検出された。SD101、SD111より古い。東側は調査区外へ続くため、平面形は不明である。壁面の立ち上がりは明瞭である。遺物は、埋土から骨片が出土している。

SK138土坑 (第1-33図、第1-5表) H-6adGridに位置するIII～IV期の遺構である。IV層上面で検出された。SD101より古い。遺構上面の大半を他遺構に削平され、平面形は不明である。壁面の立ち上がりは明瞭である。埋土1層は人為堆積で、2層と3層は自然堆積である。埋土3層は一部で基本層IV層の崩落土を含む。遺物は、埋土から加工材2点(№01120～№01121)が出土している。

SK140土坑 (第1-33図、第1-5表) H-4dGridに位置するIII～IV期の遺構である。IV層上面で検出された。SD101より古い。遺構上面を他遺構に削平され、平面形は不明である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物はない。

SK141土坑 (第1-34図、第1-5表) G-5dGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。SK115より古い。平面形が不整梢円形の土坑である。遺構上面を他遺構に削平されている。壁面の立ち上がりは明瞭である。出土遺物はない。

SK142土坑 (第1-33図、第1-5表) H-4adGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。平面形が不整円形の土坑である。壁面の立ち上がりは明瞭で、中位で屈曲する。出土遺物はない。

SK143土坑 (第1-34図、第1-5表) H-6dGridに位置するIII～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。IV層上面で検出された遺構との新旧関係はない。北側は削平され、平面形は不明である。壁面の立ち上がりは明瞭である。遺物は、埋土から加工材が出土している。

(5)ビット(第1-36～39図、第1-6表) 639基検出された。ビットは、いずれもIII期～VI期の遺構である。IV層上面で検出された。

4. その他の出土遺物

IV期(12世紀～13世紀): 陶器を3点図示した(No.01136～No.01138)。3点ともに大甕で、産地は常滑である。

V期(15世紀～16世紀後半): 陶器を3点図示した(No.01129～No.01131)。No.01129は瀬戸美濃産大碗、No.01130～No.01131は瀬戸美濃産中碗である。

VII期(17世紀後半～19世紀): 磁器を2点図示した(No.01139～No.01140)。No.01139～No.01140は肥前(波佐見)産中碗である。

IV～VII期(13世紀～19世紀): 陶器4点(No.01132～No.01135)、磁器2点(No.01141～No.01142)、石製品1点(No.01143)、銭貨3点(No.01144～No.01146)を図示した。陶器は器種に片口鉢、擂鉢、甕が認められ、産地は丹波、常滑、岸窯系と考えられるものである。磁器は器種に五寸皿が認められ、産地は肥前である。石製品は石鉢である。銭貨は熙寧元宝(No.01144)、元豐通寶2枚(No.01145～No.01146)である。

そのほか、ロクロ土師器を2点図示した(No.01127～No.01128)。ロクロ土師器の器種は壺であり、内面は黒色処理が施されている。

第3節 まとめ

1. I期～VII期の遺構と出土遺物

I期(10世紀前葉): 溝跡2条(SD110、SD113)、河川跡1条(SR101)、畑跡が検出された。出土遺物はない。

II期(10世紀中葉): 小溝状遺構群1群が検出された。出土遺物はない。

III期(12世紀): 遺構の検出はない。

IV期(13世紀～14世紀): 溝跡1条(SD102)、土坑1基(SK128)が検出された。出土遺物には、陶器の大甕(常滑産)・瓶子(瀬戸美濃産)・片口鉢(山茶碗系窯)、磁器の大碗・中碗・碗(竜泉窯)・小皿(景德鎮窯)、木製品の橋が認められる。

V期(15世紀～16世紀後半): 溝跡2条(SD101、SD111)が検出された。出土遺物には、陶器の大碗(瀬戸美濃産)・中碗(中国)・中皿・丸皿(瀬戸美濃産)・片口鉢(常滑)が認められる。

VI期(16世紀後半～17世紀前半): 挖立柱建物2棟(SB109、SB112)、溝跡3条(SD105、SD106、SD109)、井戸跡1基(SE132)、土坑4基、ピット34基が検出された。出土遺物はない。

VII期(17世紀後半～19世紀): 遺構の検出はない。出土遺物には、陶器の小皿(瀬戸美濃産)・大鉢(常滑産)・擂鉢(丹波産・岸窯系)、磁器の中碗(肥前産)・五寸皿・小皿(肥前(波佐見)産)が認められる。

2. 小結

第1次調査区は、中野高柳遺跡の中央部西側に位置し、自然堤防に立地する。調査面積は1088.7 m²である。

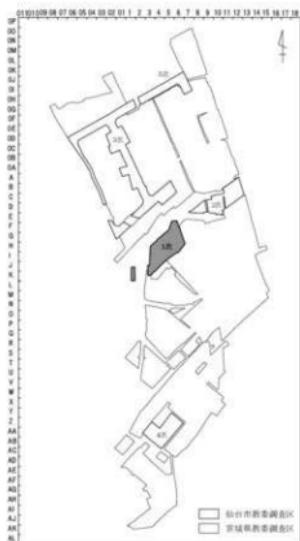
遺物は、主にIV期(13世紀～14世紀)からVII期(17世紀後半～19世紀)に認められ、中世の陶器、近世の陶磁器の出土が多い。

遺構は、I期(10世紀前葉)の溝跡2条、河川跡1条、畑跡、II期(10世紀中葉)の小溝状遺構群、IV期(13世紀～14世紀)の溝跡1条、土坑1基、V期(15世紀～16世紀後半)の溝跡2条、VI期(16世紀後半～17世紀前半)の掘立柱建物跡2棟、溝跡3条、井戸跡1基、土坑4基、ピット34基が検出されている。このほか、III期～VI期(12世紀～17世紀前半)の掘立柱建物跡9棟、溝跡6条、井戸跡10基、土坑26基、ピット605基が検出された。

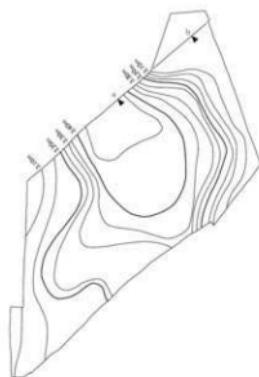
宮城県教育委員会が検出した遺構とのつながりは、I期(10世紀前葉)及びII期(10世紀中葉)の生産域: 畑跡、IV期

第3節 まとめ

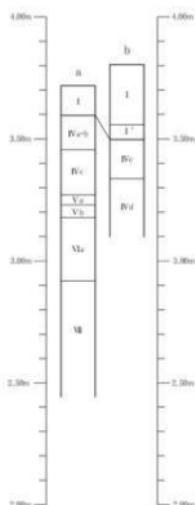
(13世紀～14世紀)の道路、V期(15世紀～16世紀後半)の屋敷の区画溝で確認された。



第1次調査区位置図 scale = 1:5000



等高線図・柱状模式図作成地点位置図 scale = 1:750

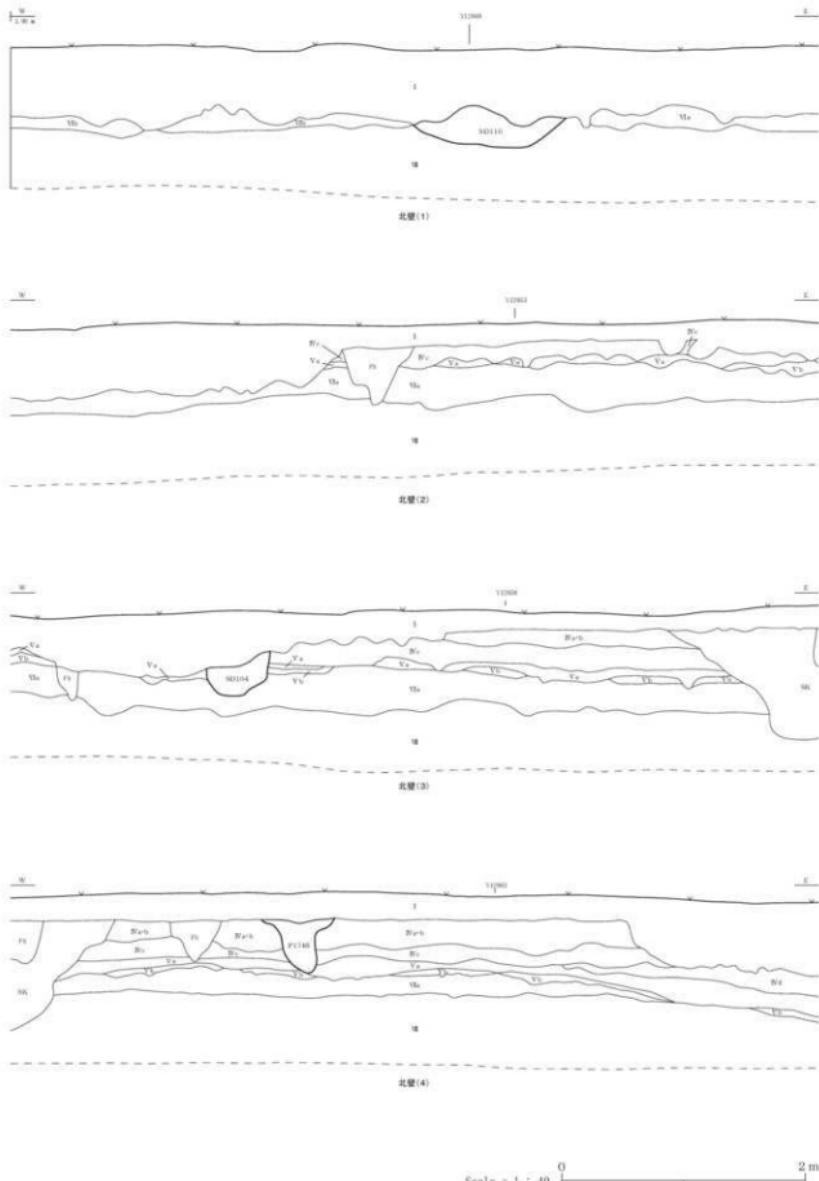


基本層序柱状模式図

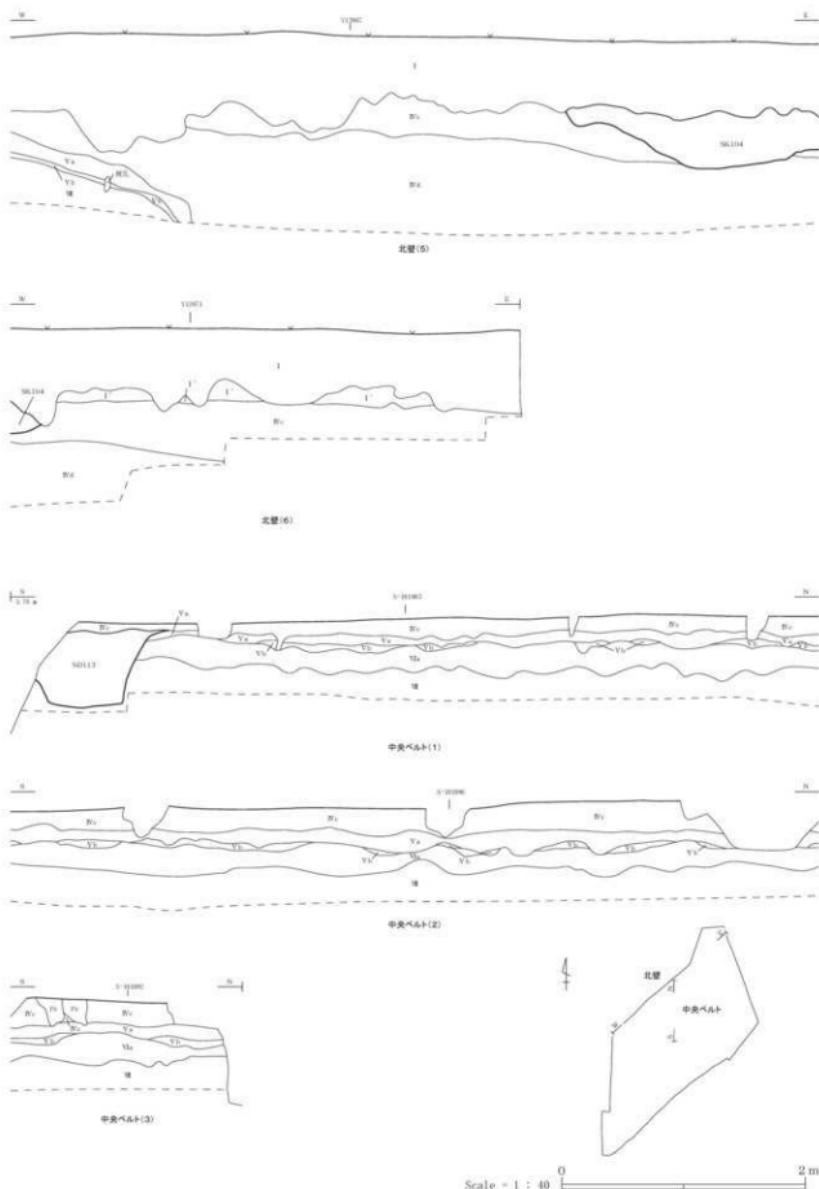


基本層序図

第1-1図 第1次調査区位置図・等高線図・基本層序



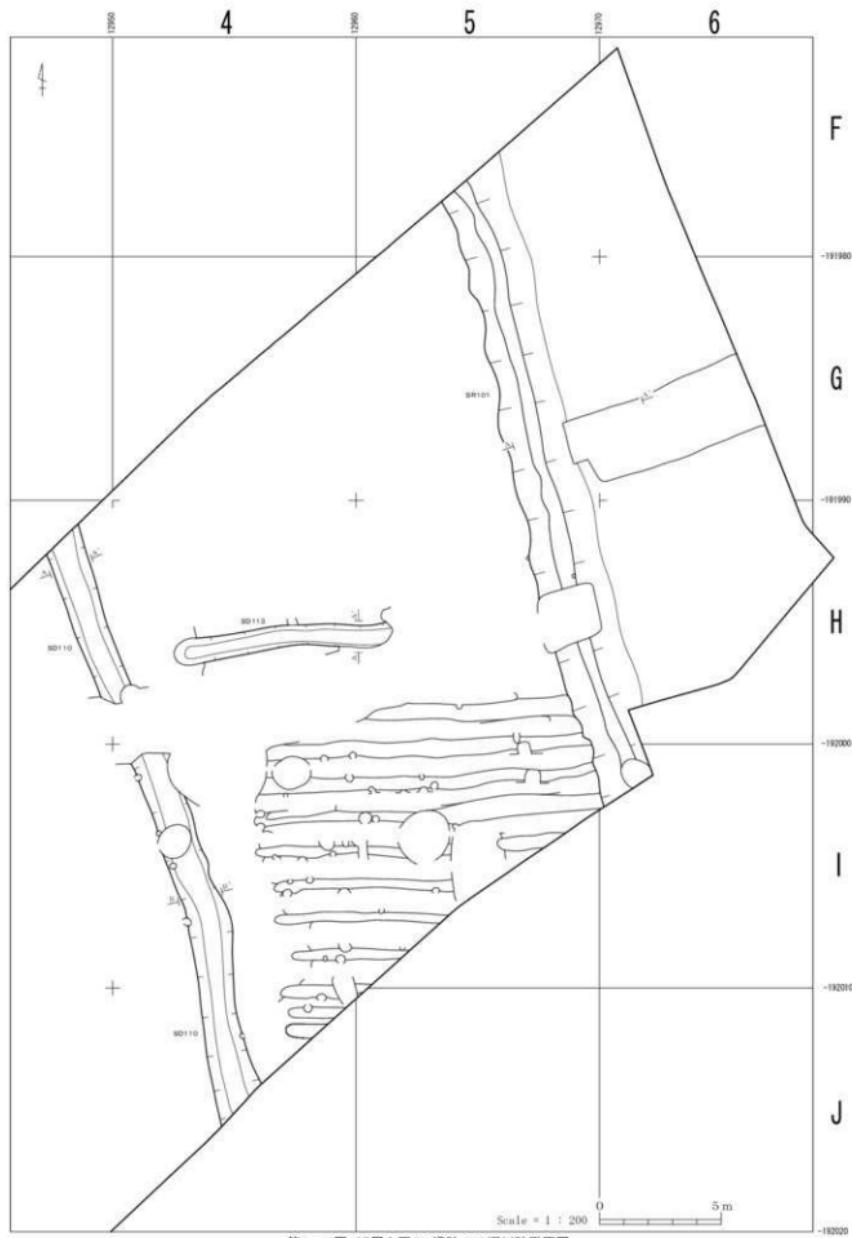
第1-2回 第1次調査区土壠断面図(1)



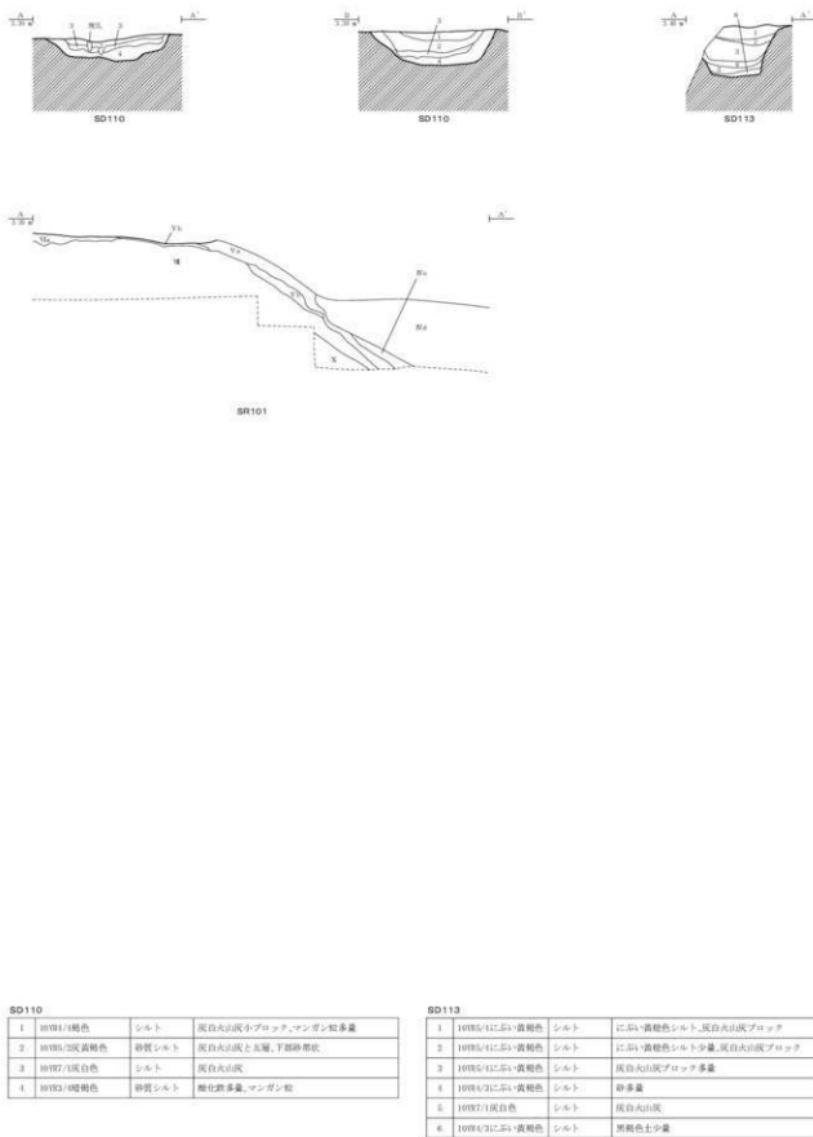
第1-3図 第1次調査区土層断面図(2)



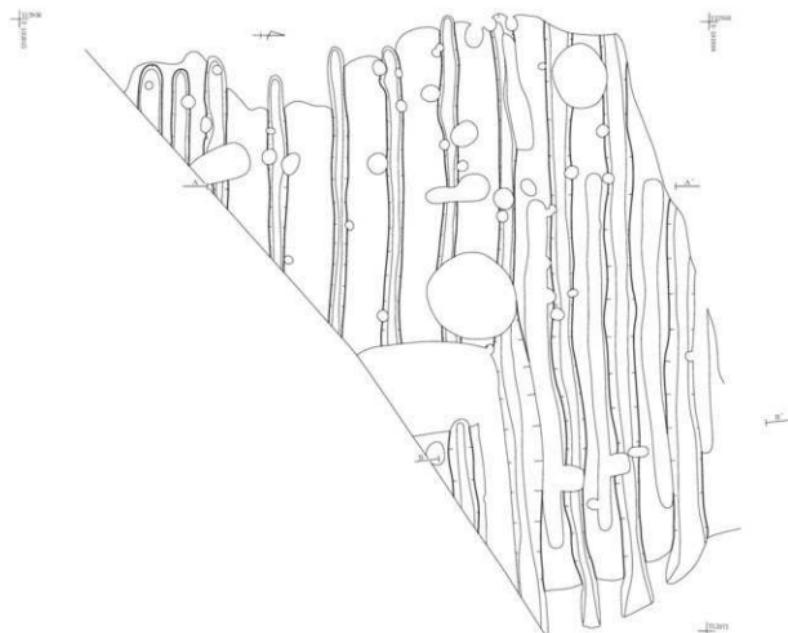
第1-4図 第1次調査区VI層上面造構全体図



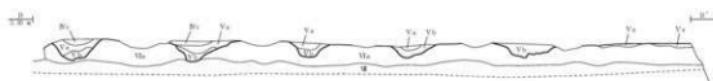
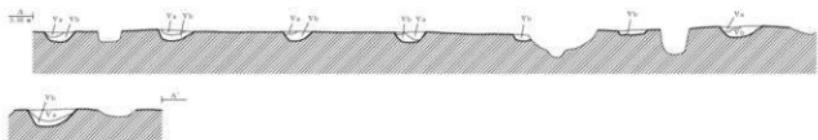
第1-5図 VI層上面SD溝跡・SR河川跡平面図



第1-6図 VI層上面SD溝跡・SR河川跡断面図

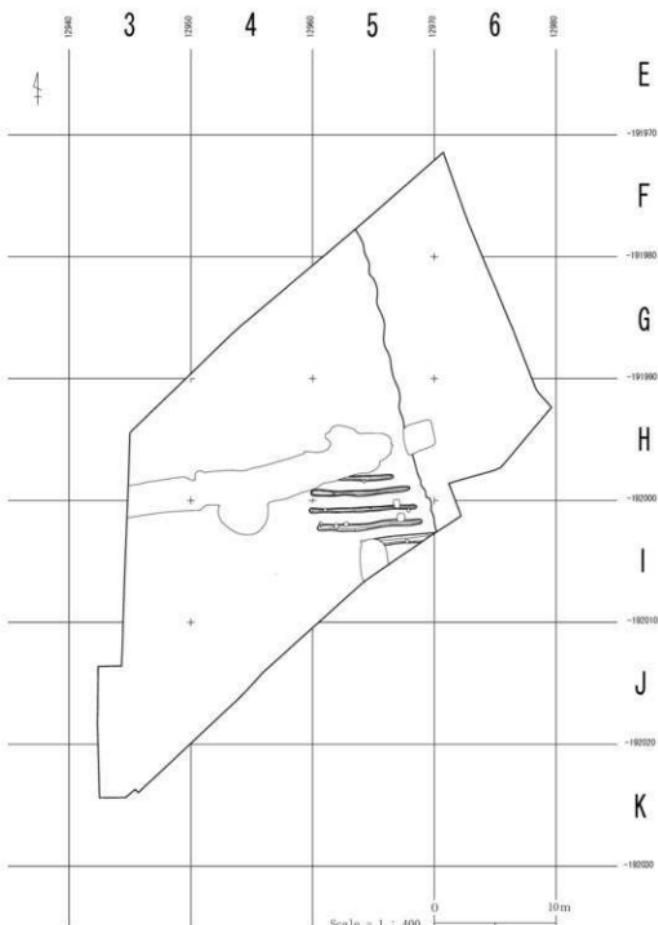


Scale = 1 : 120 0 5 m

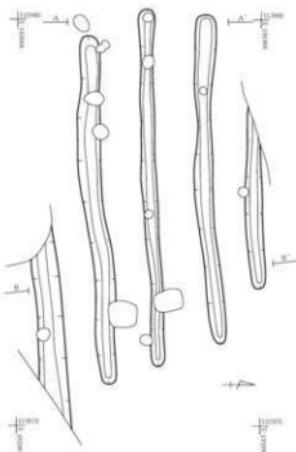


Scale = 1 : 60 0 2 m

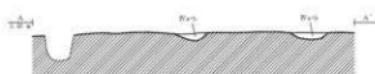
第1-7図 VI層上面・断面図



第1-8図 第1次調査区V層上面造構全体図

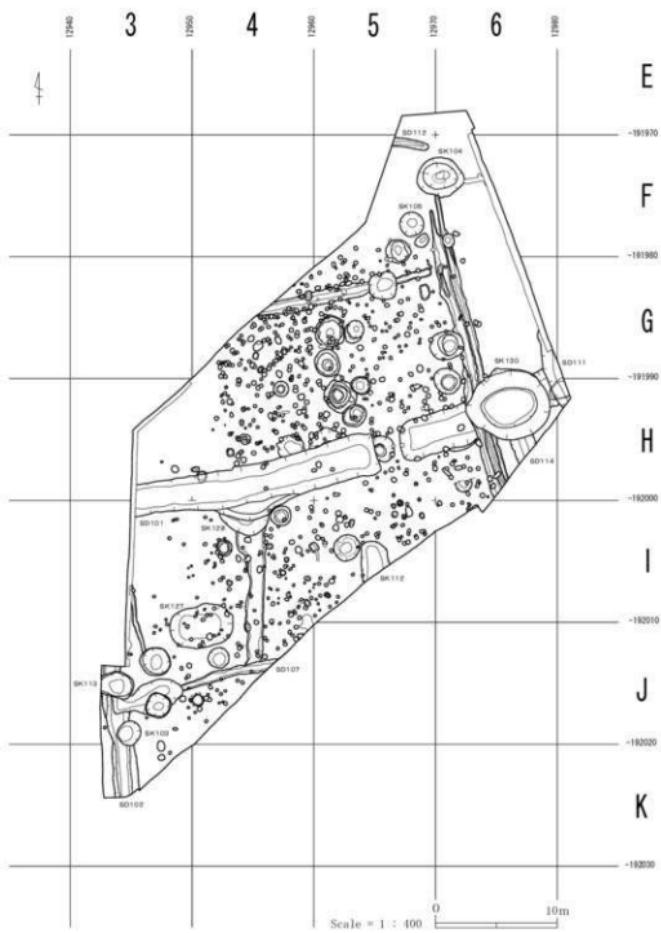


Scale = 1 : 120 0 5 m

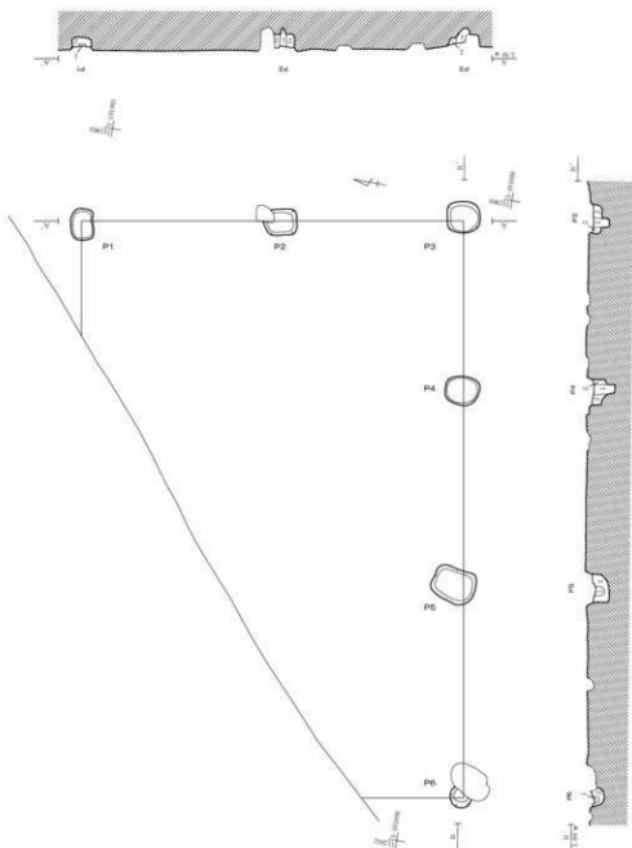


Scale = 1 : 60 0 2 m

第1-9図 V層上面小溝状造模群平面図・断面図



第1-10圖 第1次調查區IV層上面遺構全體圖

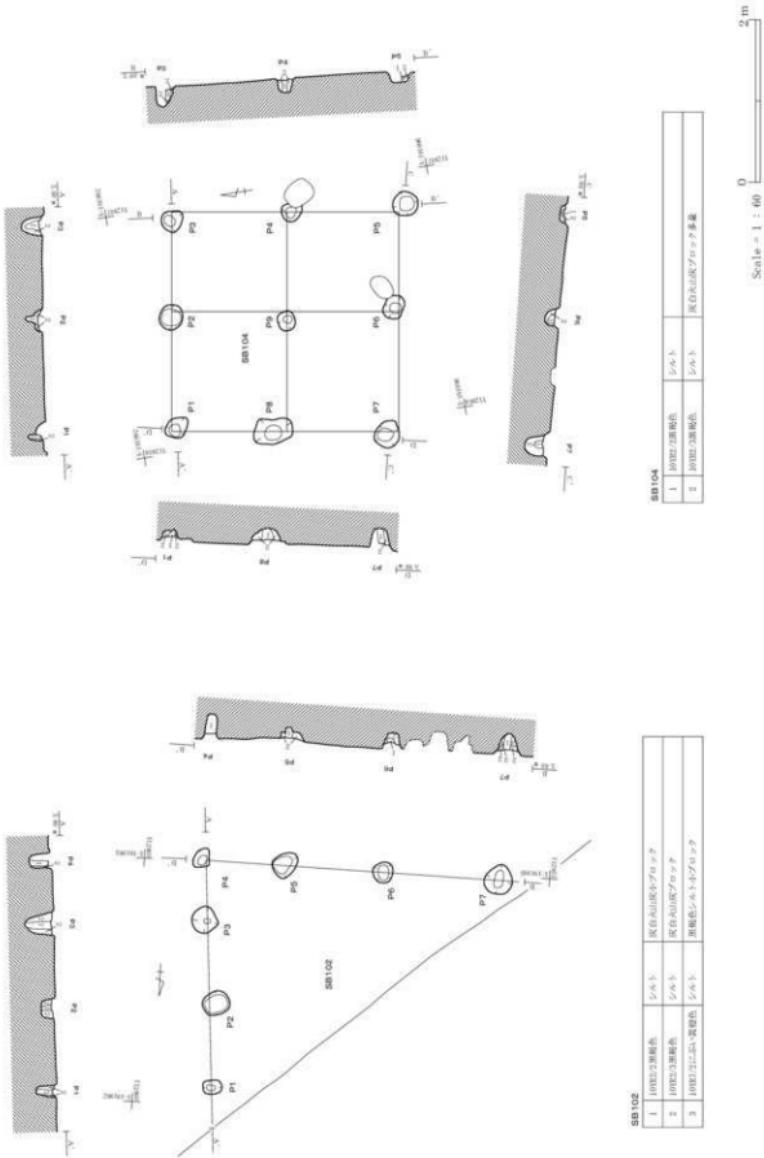


SB101

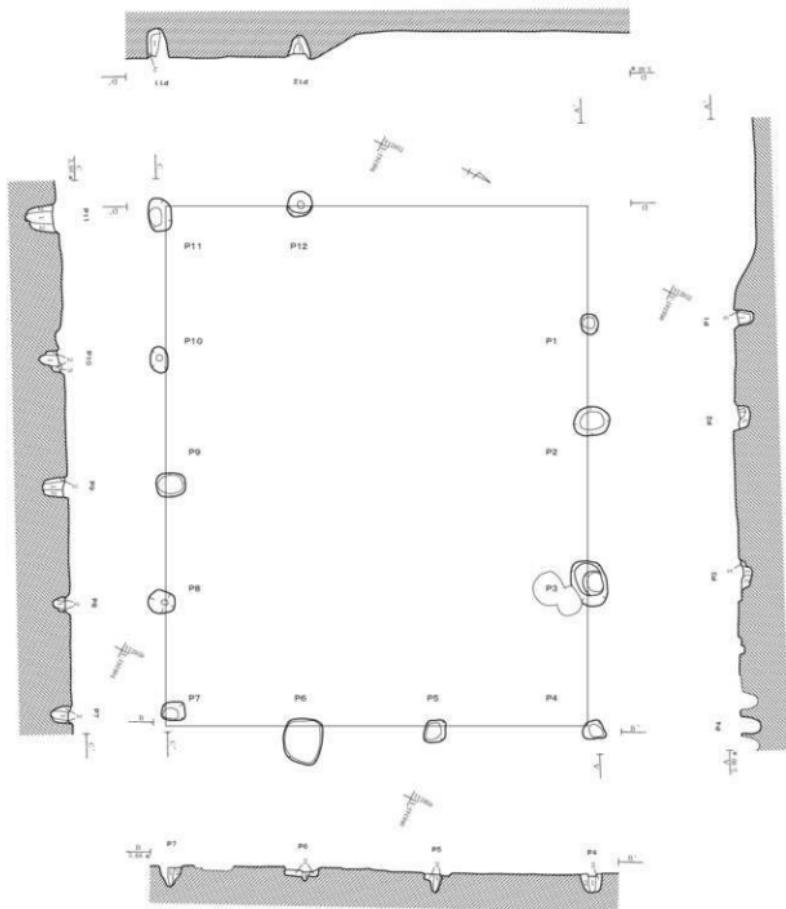
1	HVRC/2黑色	シルト	
2	HVRC/2黑色	シルト	黄褐色シルト小ブロック

Scale = 1 : 60 0 2 m

第1-11図 IV層上面SB101掘立柱建物跡平面図・断面図



第1—12圖 IV層上面SB102·104掘立柱建物跡平面圖·斷面圖

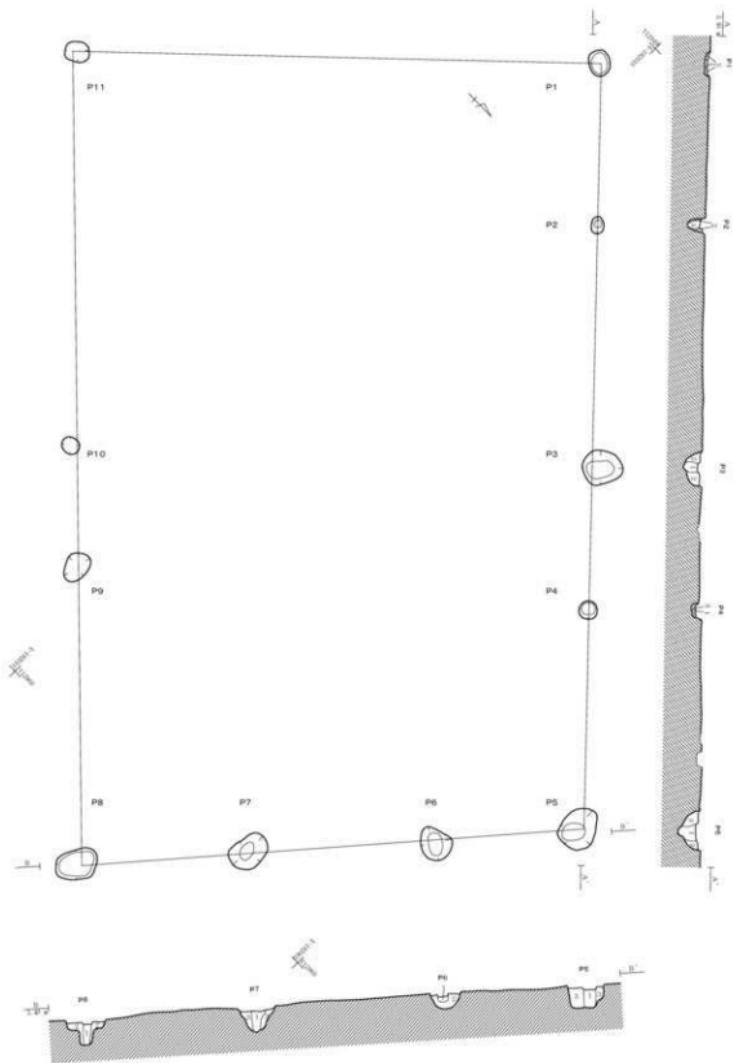


SB103

1	10VR2/2黒褐色	シルト	
2	10WL/2黒褐色	シルト	黄褐色シルト小ブロック、灰白火山灰小ブロック 少量
3	10WL/2c.5A・黄褐色	シルト	灰白火山灰小ブロック少量

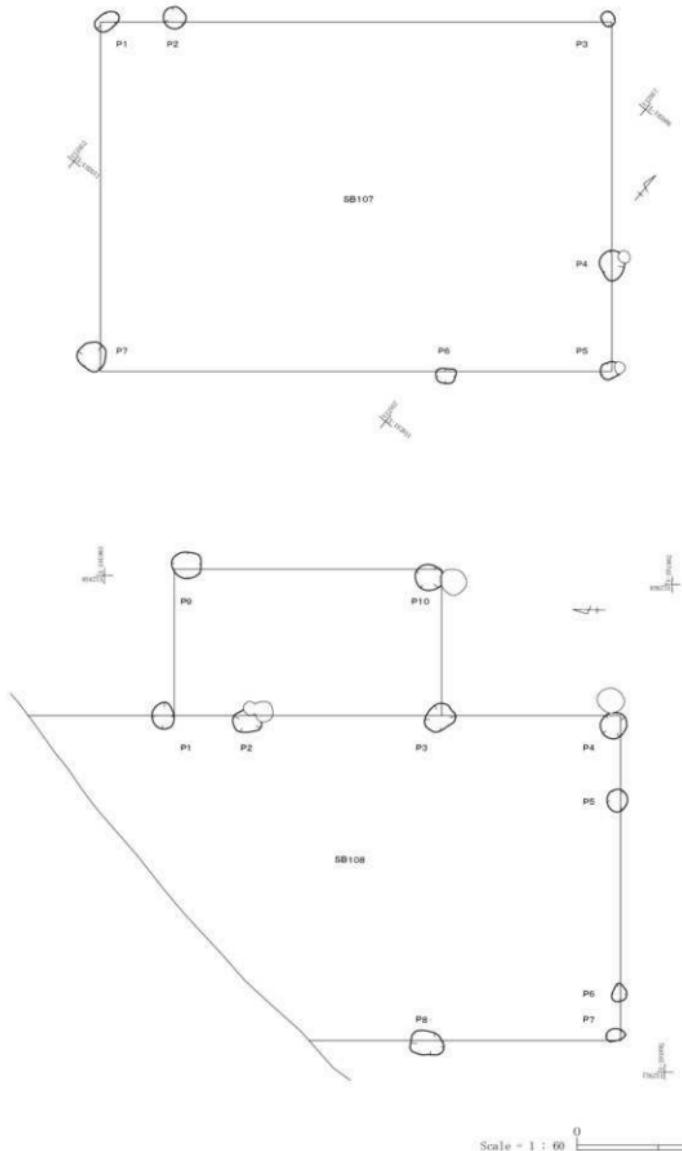
Scale = 1 : 60 0 2 m

第1-13図 IV層上面SB103掘立柱建物跡平面図・断面図

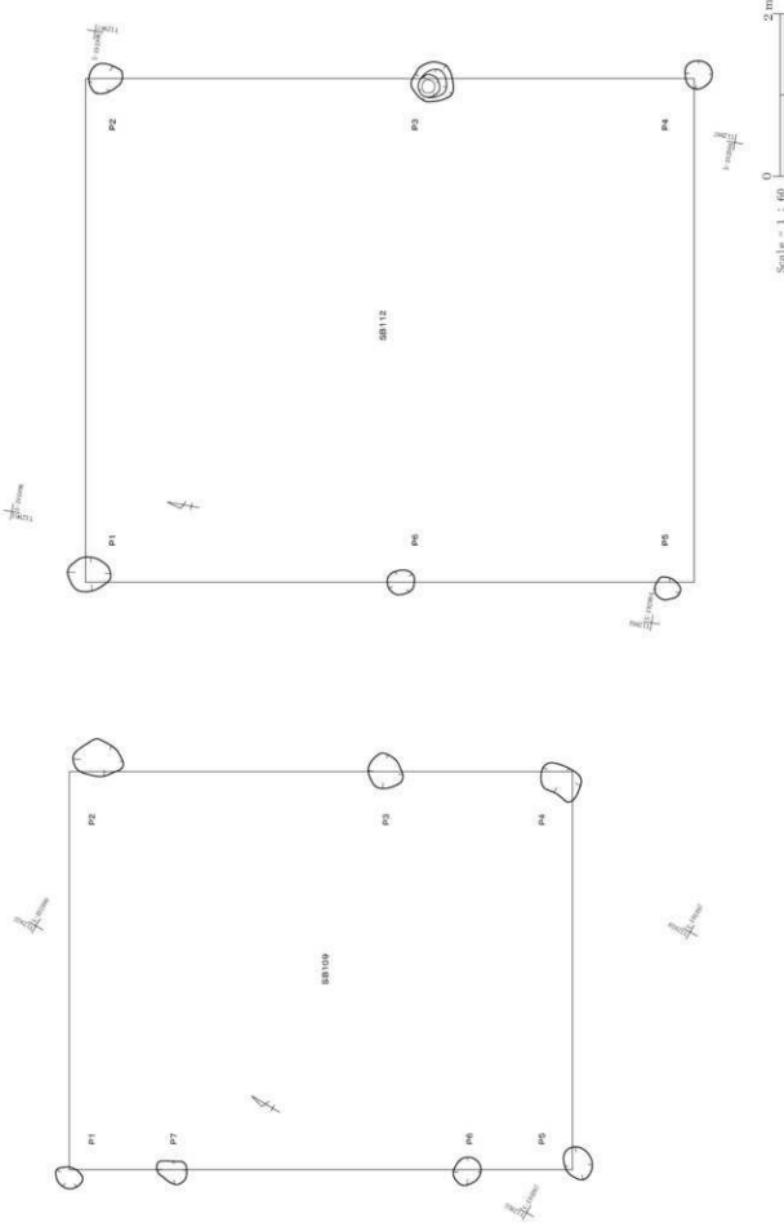


SB106			
	10WR2/2黒開色	シルト	
	10WR2/3黒財色	シルト	裏黒開色シルト小プロック
	10WR2/3黒財色	シルト	裏白山虎小プロック

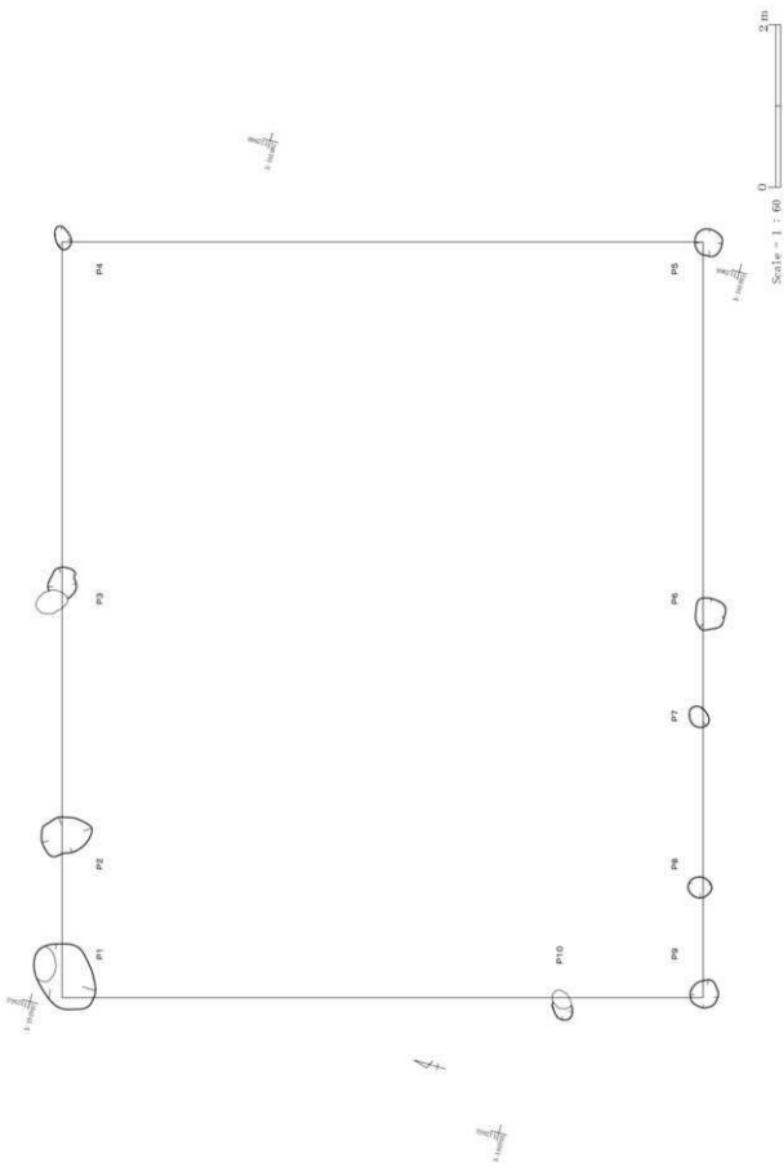
第1-14図 IV層上面SB106掘立柱建物跡平面図・断面図



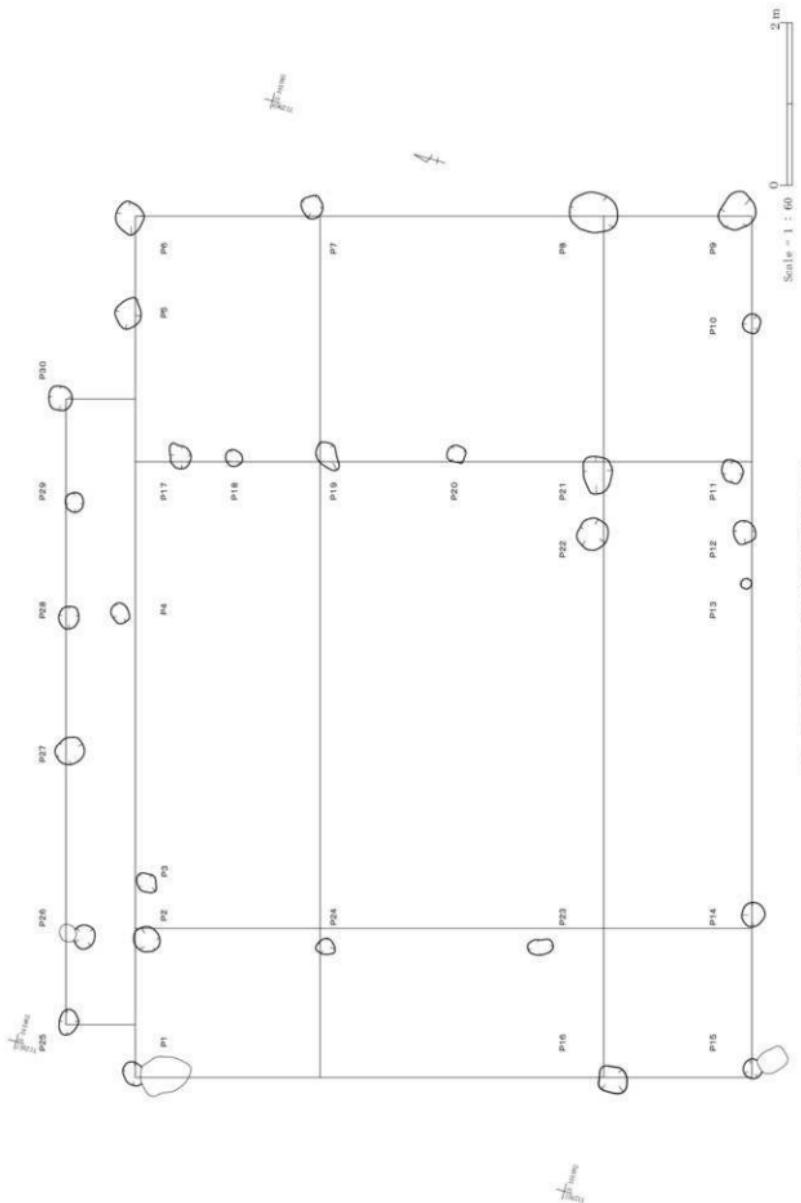
第1-15図 IV層上面SB107・SB108掘立柱建物跡平面図



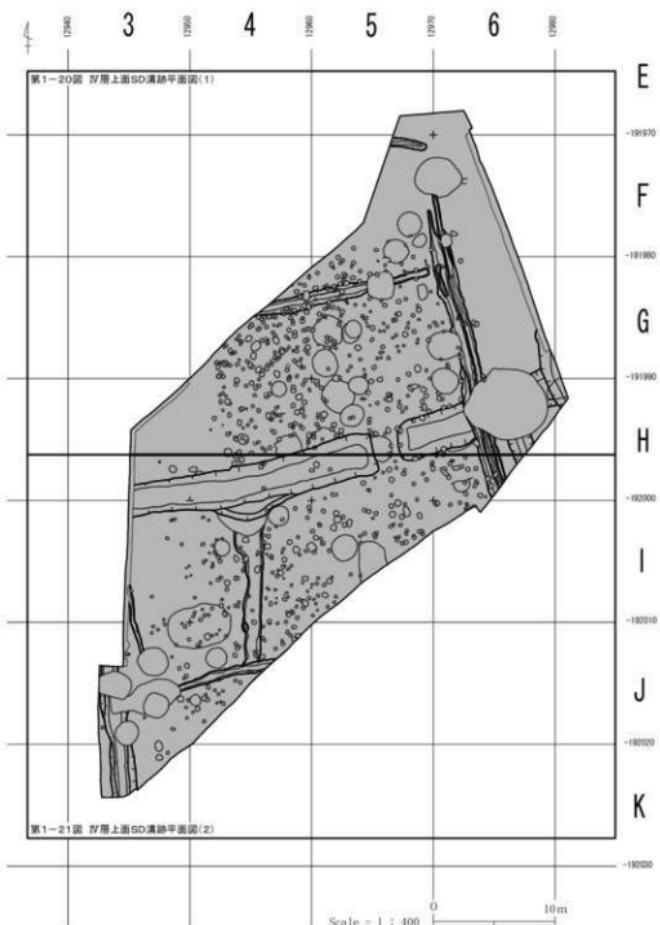
第1—16图 IV層上面SB109-SB112獨立柱建築物平面圖



第1—17圖 IV'層上面SB110樁立柱植物論平面圖

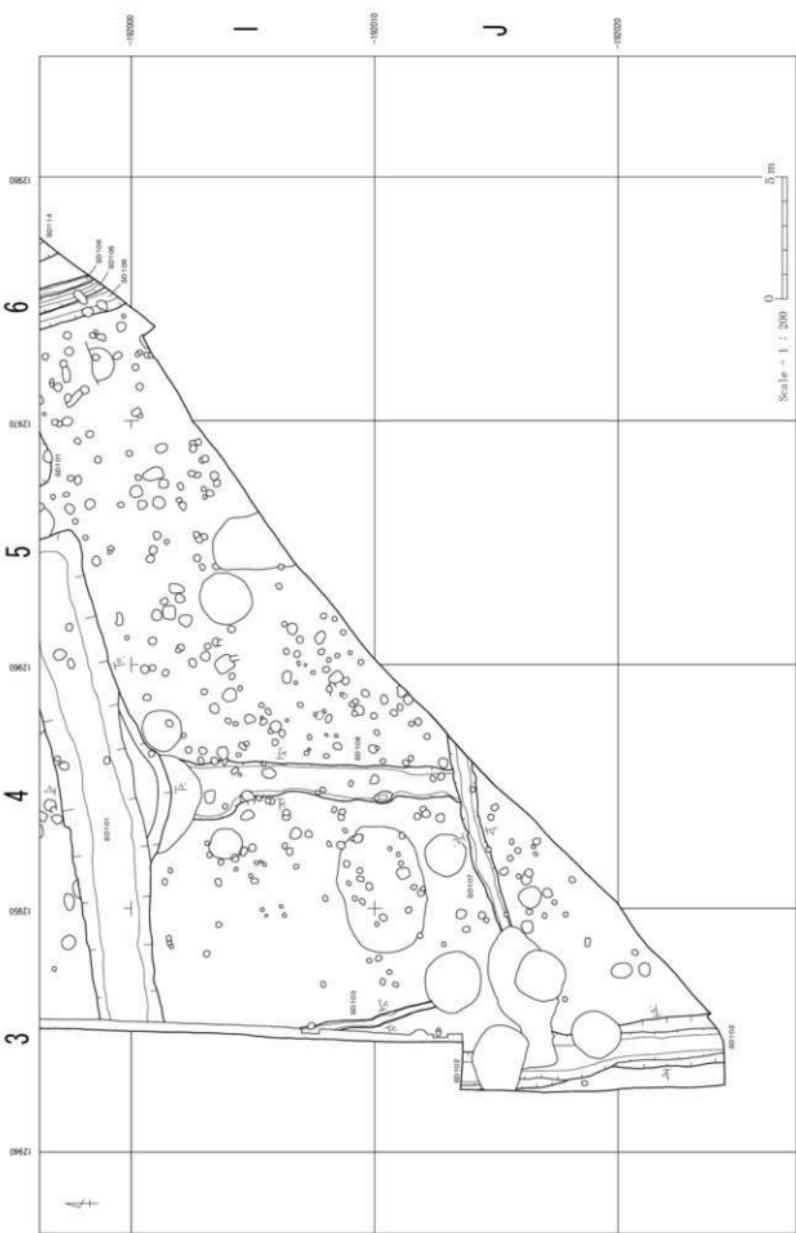


第1-18図 IV層上面SB111根立柱建物平面図

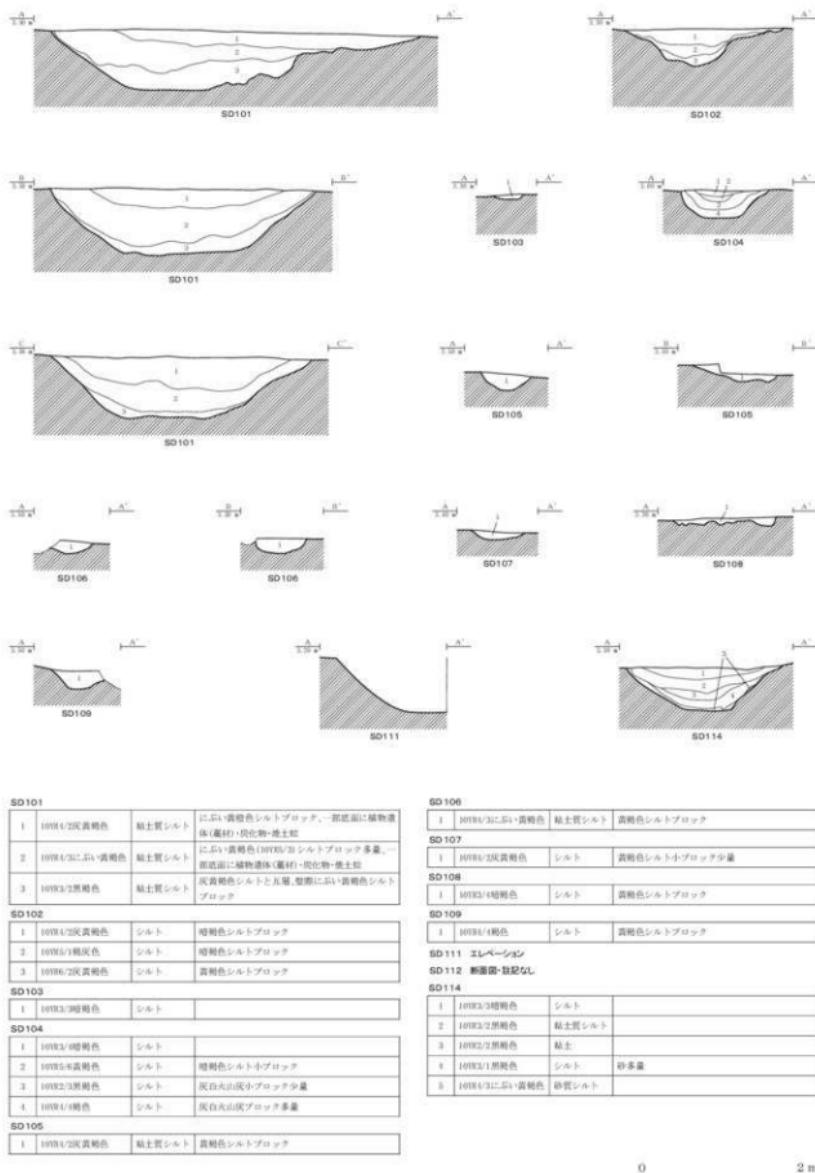


第1-19図 IV層上面SD溝跡全体図



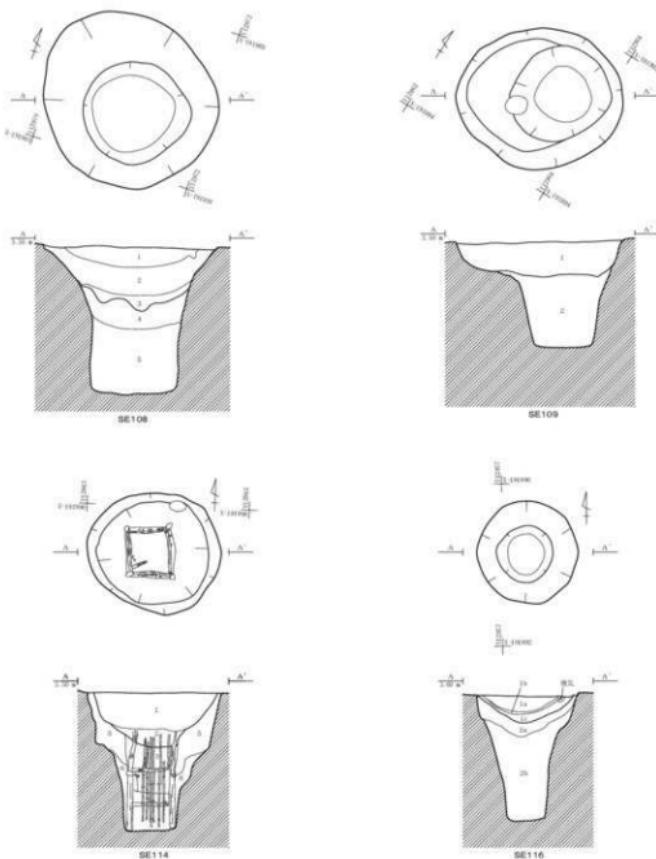


第1-21図 IV-1面 SD溝断面図(2)



第1-22図 IV層上面SD溝跡断面図

Scale = 1 : 60 0 2 m



SE108

1	10YR3/2暗褐色	シルト	に、5m・黄褐色新質シルトブロック
2	10YR1.7/1黒色	粘土質シルト	に、5m・黄褐色新質シルト層, 硬化物多量, 地 上付
3	10YR4/6に, 5/1・黄褐色	シルト	暗褐色シルト・に、5m・黄褐色シルトと互層
4	2. 10YR4/6C/5/1・黄色	シルト	褐灰色シルト・黒褐色シルトと互層
5	2. 10YR4/6C/5/1・黄色	シルト	黒褐色シルト

SE114

1	10YR4/3C/5/1・黄褐色	シルト	に、5m・黄褐色シルト・黒褐色粘土質シルト・ブロッ ク多量
2	10YR4/2暗黃褐色	粘土質シルト	に、5m・黄褐色シルト・黒褐色粘土質シルト互層
3	2. 10YR3/1付/7・灰褐色	粘土	
4	2. 10YR3/1暗緑灰褐色	粘土	
5	10YR4/3C/5/1・黄褐色	粘土シルト	灰白火山灰ブロック
6	10YR2/2黒褐色	粘土	に、5m・黄褐色粘土質シルト

SE109

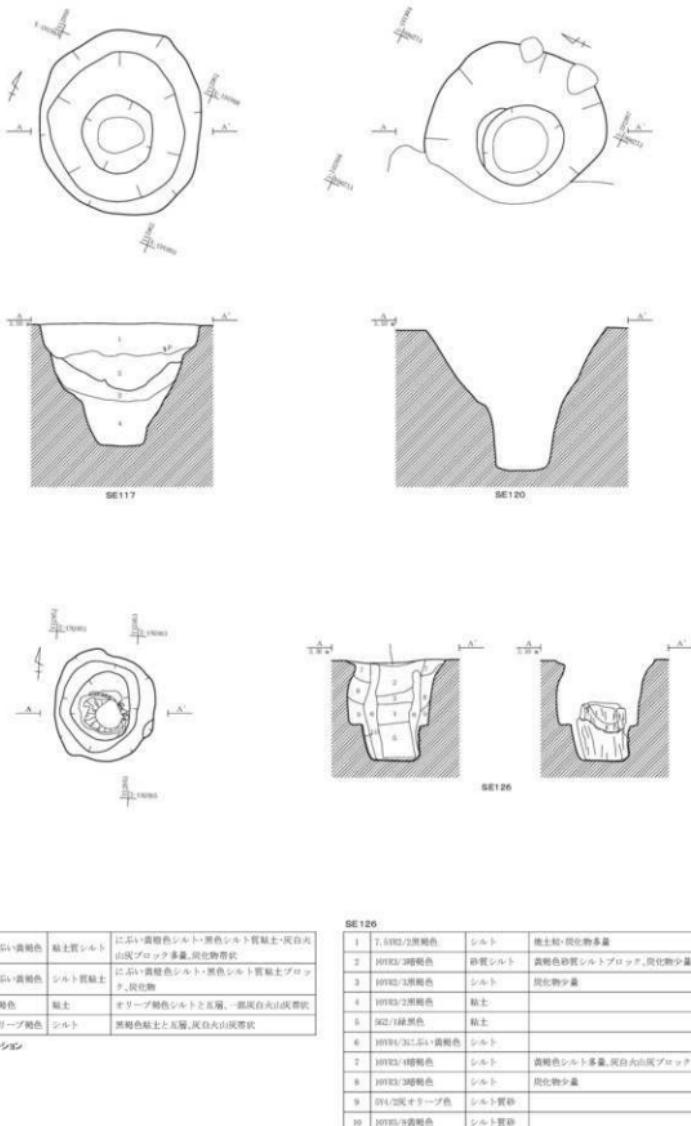
1	10YR2/2暗褐色	シルト質粘土	に、5m・黄褐色シルトブロック, 灰白火山灰ブロッ ク, 粘土粒・硬化物少量
2	10YR2/2暗褐色	シルト質粘土	粘土粒・硬化物少量

SE116

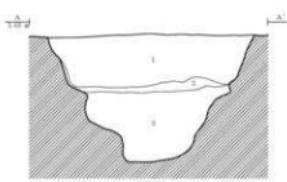
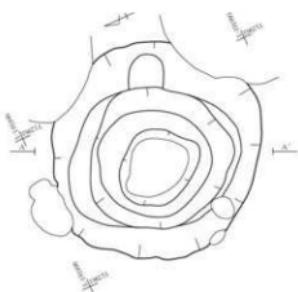
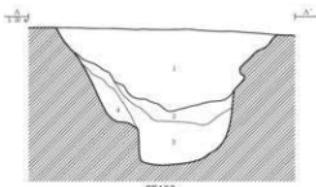
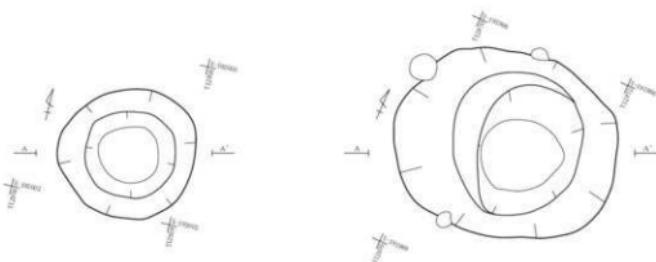
1a	10YR3/3暗褐色	シルト	明黃褐色シルト, 粘土粒, 硬化物
1b	10YR2/1黑色	粘土質シルト	
1c	10YR3/2暗褐色	シルト	明黃褐色シルトと互層
2a	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	明黃褐色シルトと互層
2b	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	に、5m・黄褐色シルトと互層, 灰白火山灰帶狀

Scale = 1 : 60 0 2 m

第1-23図 IV層上面SE井戸跡平面図・断面図(1)



第1-24図 IV層上面SE井戸跡平面図・断面図(2)



SE129

1	10YR5/3C-5a・黄褐色	粘土質シルト	に近い黄褐色シルト状、炭化物、酸化鉄
2	10YR3/2暗褐色	シルト	に近い黄褐色シルト・黒褐色シルト質粘土斑状
3	10YR3/2暗褐色	シルト	に近い黄褐色シルトと互層
4	10YR5/3C-5a・黄褐色	シルト	暗褐色シルト斑状

SE134

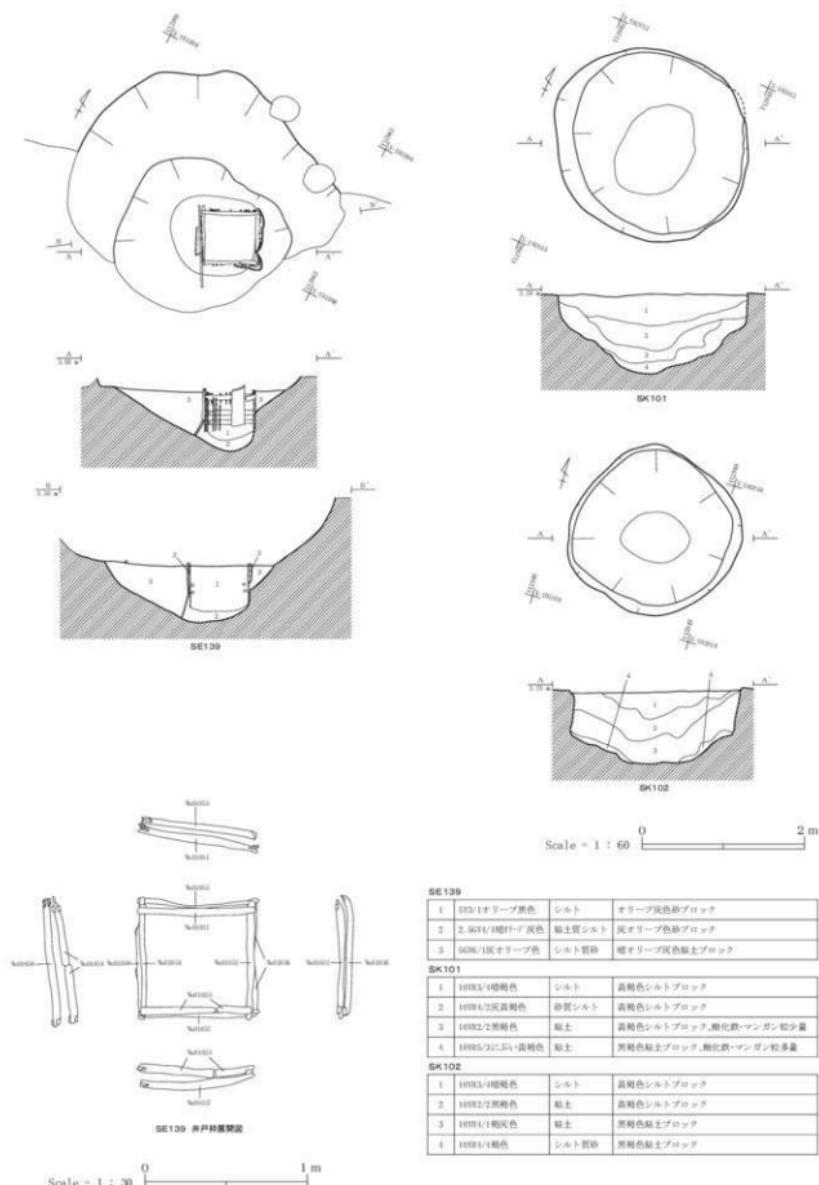
1	10YR2/3黒褐色	シルト	褐色シルトブロック多量
2	10YR4/2灰黃褐色	粘土	
3	10YR2/3黒褐色	シルト	褐色シルトブロック

SE132

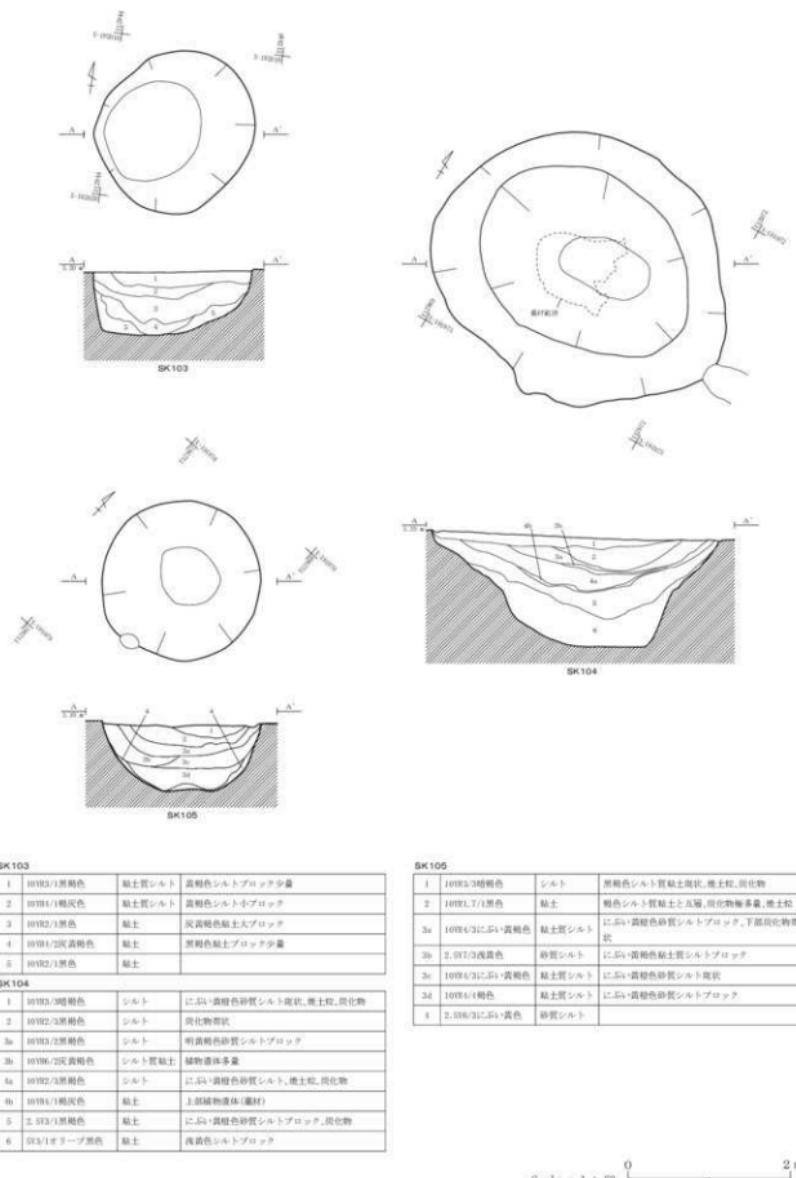
1	10YR5/2暗褐色	シルト	暗褐色シルトブロック多量
2	10YR1/1褐灰色	粘土	
3	10YR1/2灰褐色	粘土	褐色粘土と互層
4	10YR1/1褐灰色	粘土	褐色粘土ブロック

Scale = 1 : 60 0 2 m

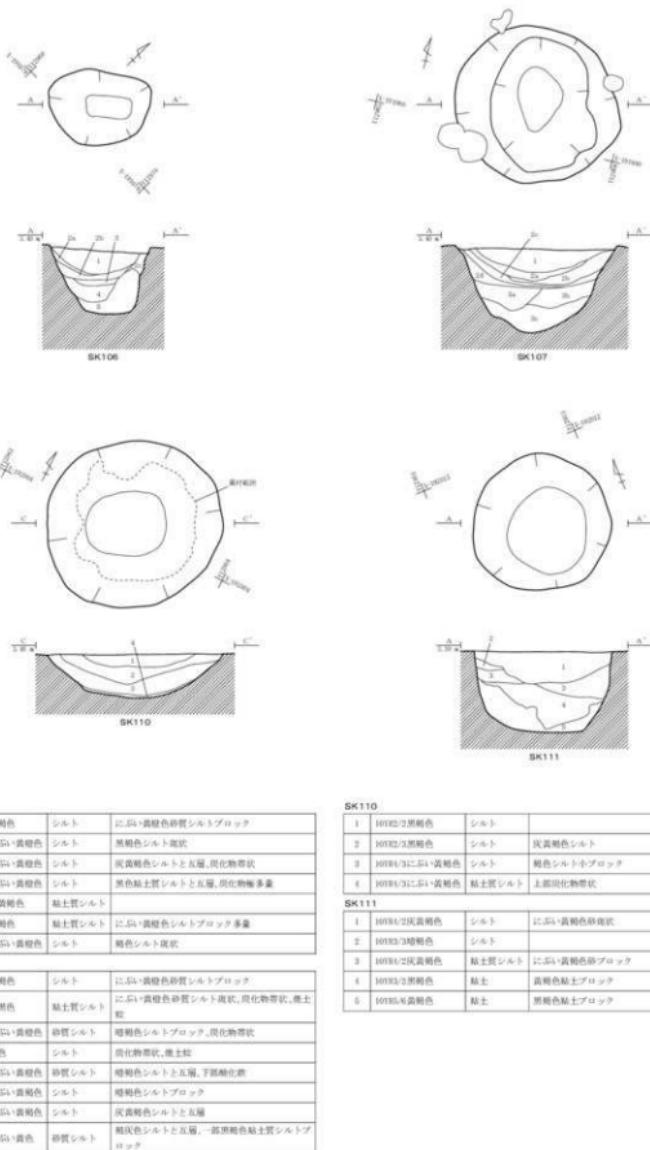
第1-25図 IV層上面SE井戸跡平面図・断面図(3)



第1-26図 IV層上面SE井戸跡平面図・断面図(4) SK土坑平面図・断面図(1)

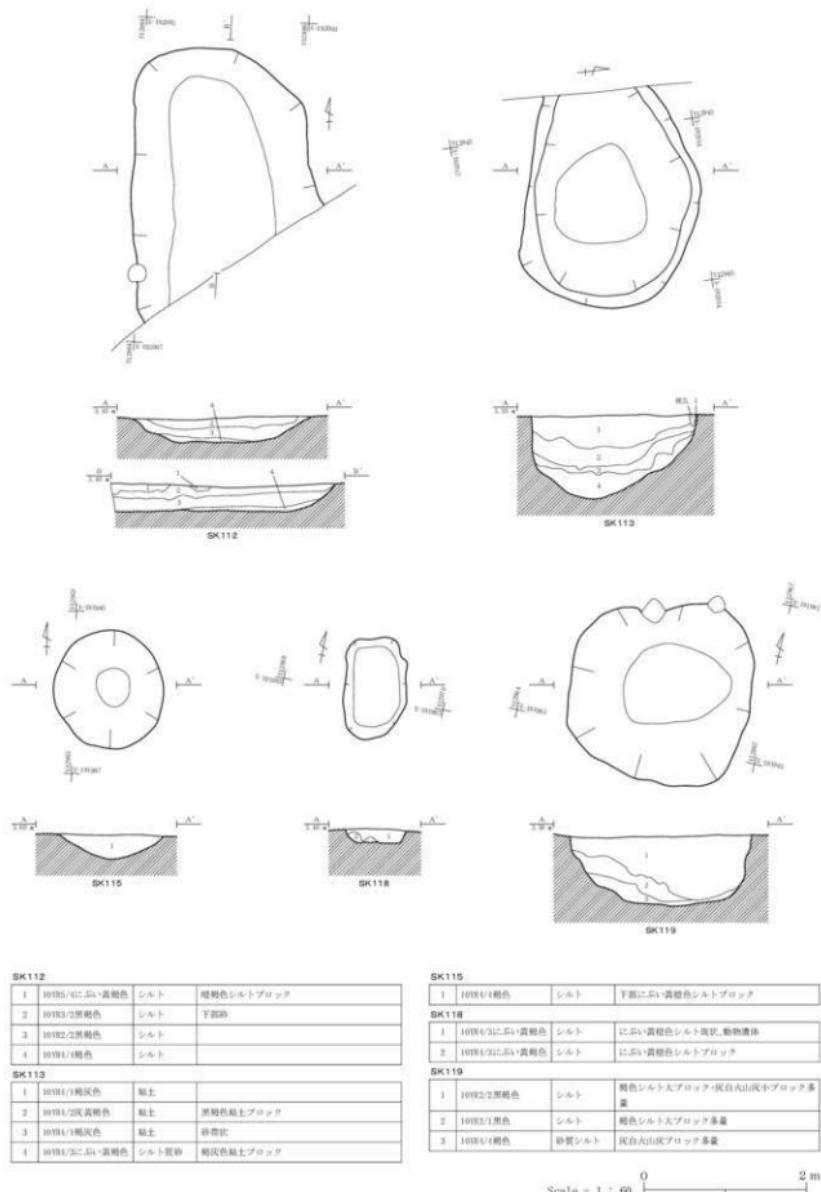


第1-27図 IV層上面SK土坑平面図・断面図(2)

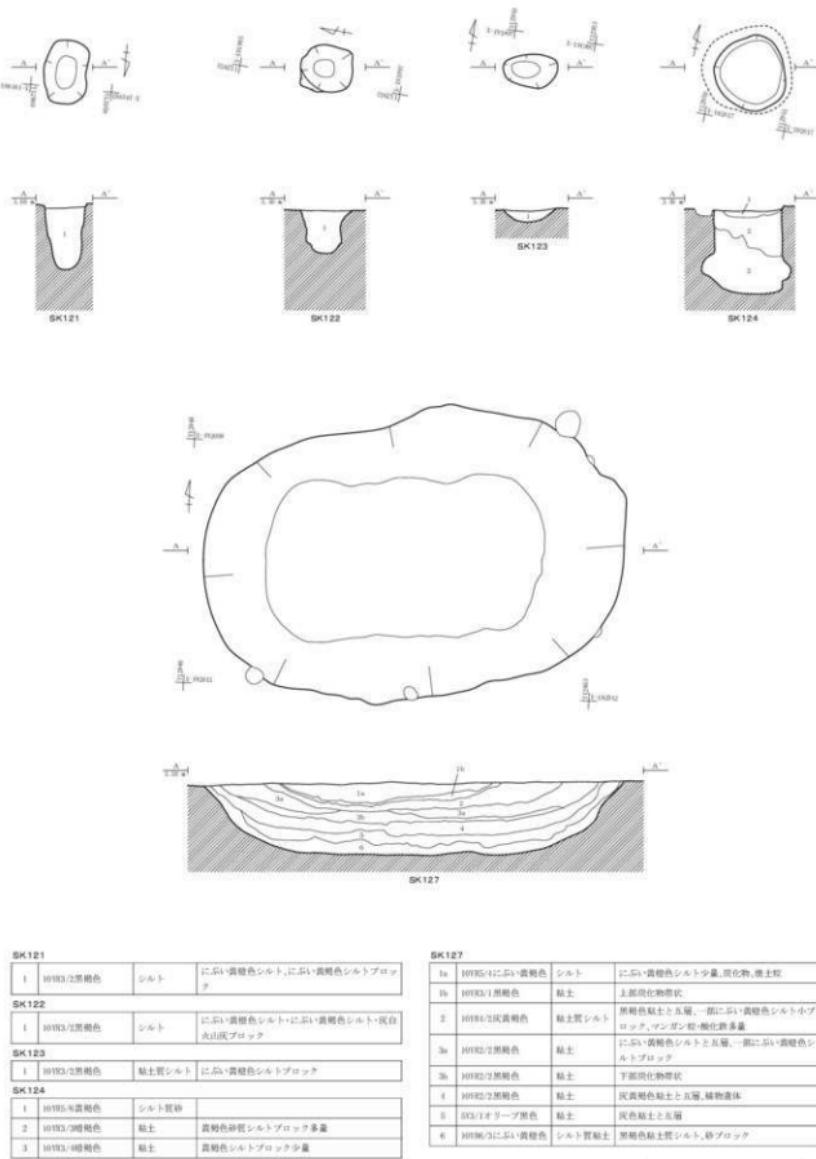


第1-28図 IV層上面SK土坑平面図・断面図(3)

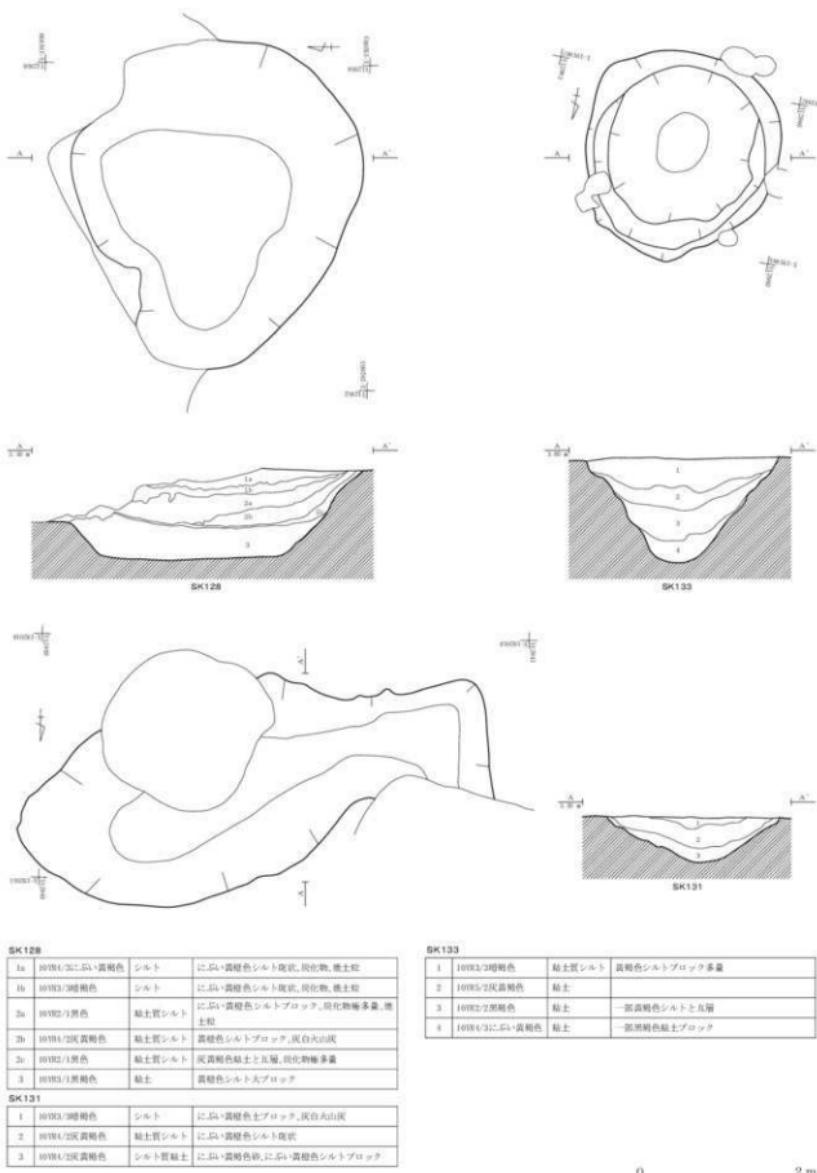
Scale = 1 : 60 0 2 m



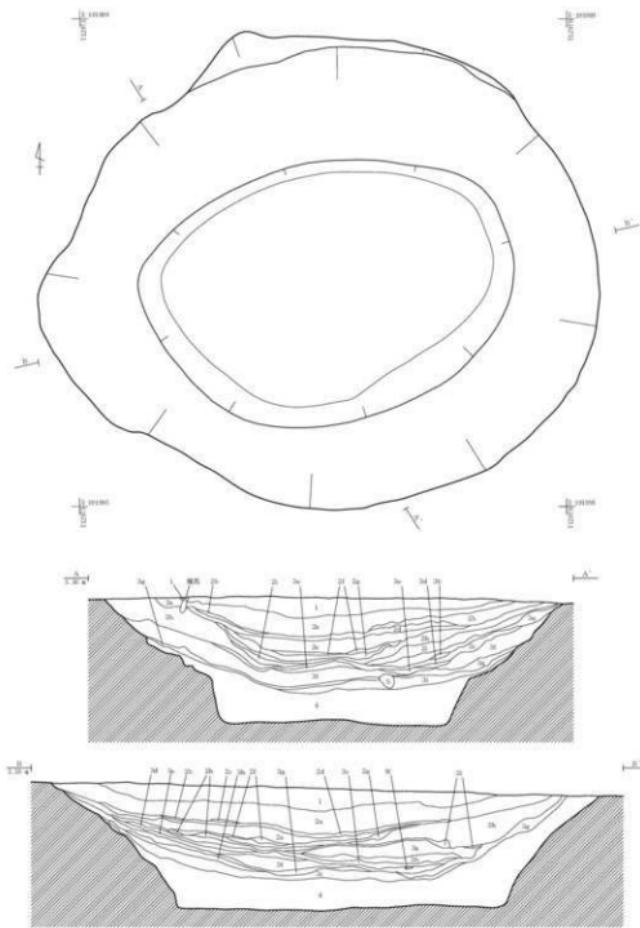
第1-29図 IV層上面SK土坑平面図・断面図(4)



第1-30図 IV層上面SK土坑平面図・断面図(5)



第1-31図 IV層上面SK土坑平面図・断面図(6)



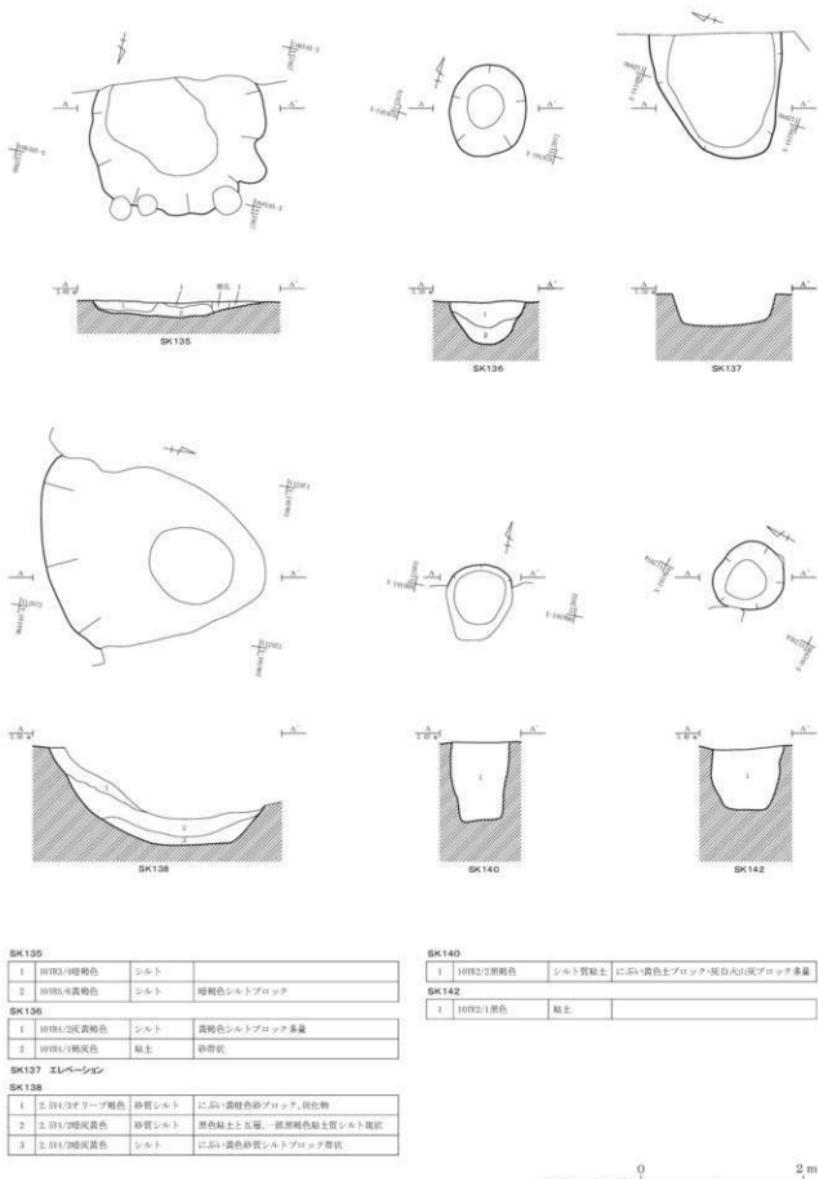
SK30

1	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	に、5cm青褐色シルト多量、堆土粒、炭化物
2a	10YR3/1黒褐色	シルト質粘土	に、5cm青褐色シルト、炭化物多量、堆土粒
2b	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	に、5cm青褐色土大ブロック
2c			動物遺体(骨)痕多量
2d	10YR2/1黒色	粘土質シルト	炭化物帶状
2e	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	に、5cm青褐色シルトブロック少量
2f	10YR4/2灰青褐色	粘土	に、5cm青褐色シルトブロック
2g	10YR2/1黒色	シルト質粘土	黒褐色シルト質粘土ブロック少量、炭化物帶状
2h	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	黑色粘土・炭化物帶状
2i	10YR2/1黒色	シルト質粘土	炭化物帶状
2j	10YR4/2灰青褐色	粘土	に、5cm青褐色シルトブロック

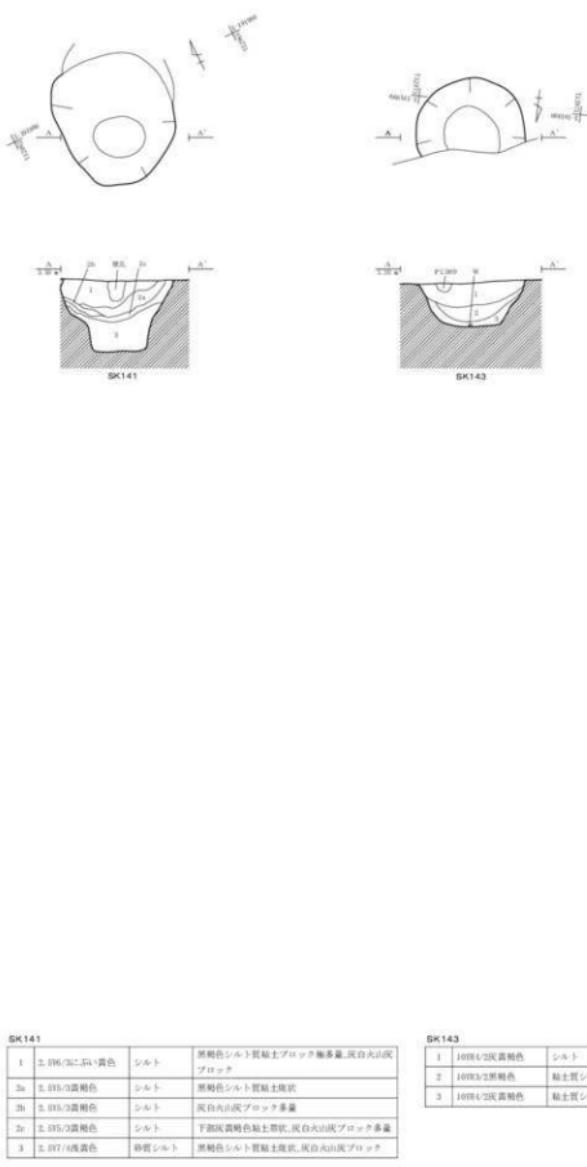
3a	10YR4/2灰青褐色	粘土	
3c	10YR2/1黒色	シルト質粘土	植物遺体(蘿材)と互層
3d	10YR4/1褐色灰	粘土	に、5cm青褐色シルト塊状、炭化物帶状
3e	10YR2/1黒色	シルト質粘土	植物遺体(蘿材)と互層、動物遺体(骨)
3f	10YR2/1黒色	シルト質粘土	炭化物
3g	10Y2/1黒色	シルト質粘土	植物遺体(蘿材)・炭化物帶状
3h	2.0YR2/1赤黒色	シルト質粘土	植物遺体(蘿材)
3i	10Y2/1リープ黒色	シルト質粘土	動物遺体(骨)多量
4	5Y2/2オーブ黒色	粘土	炭化物・シルト質シルトと互層

Scale = 1 : 60 0 2 m

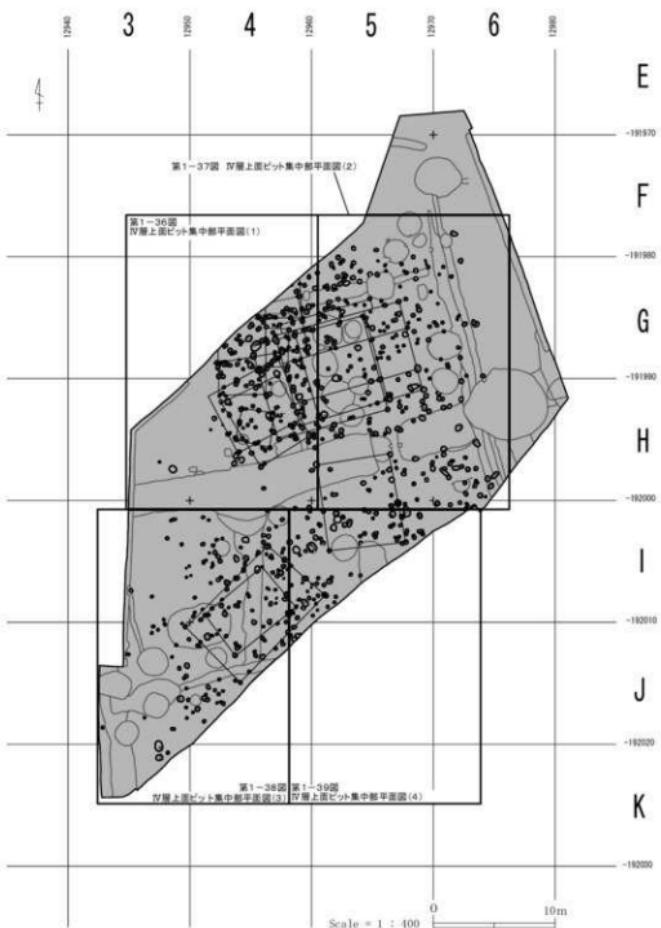
第1-32図 IV層上面SK土坑平面図・断面図(7)



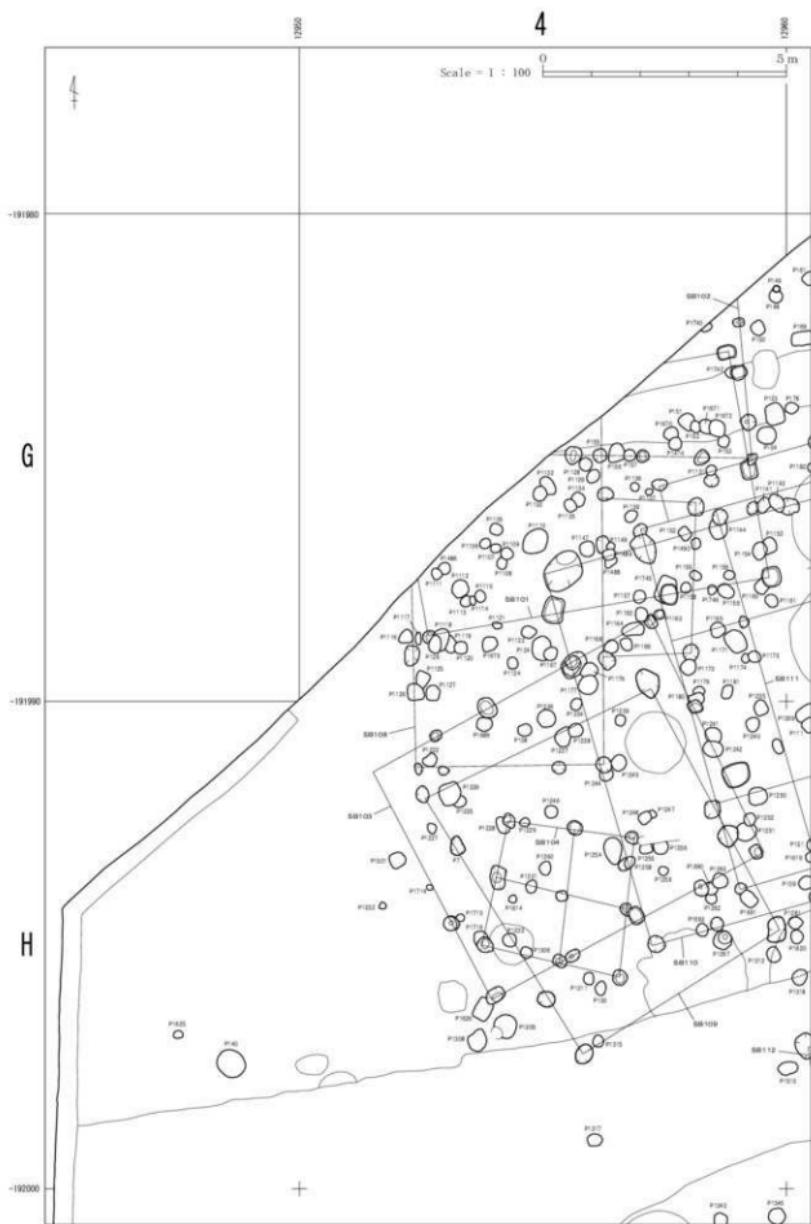
第1-33図 IV層上面SK土坑平面図・断面図(8)



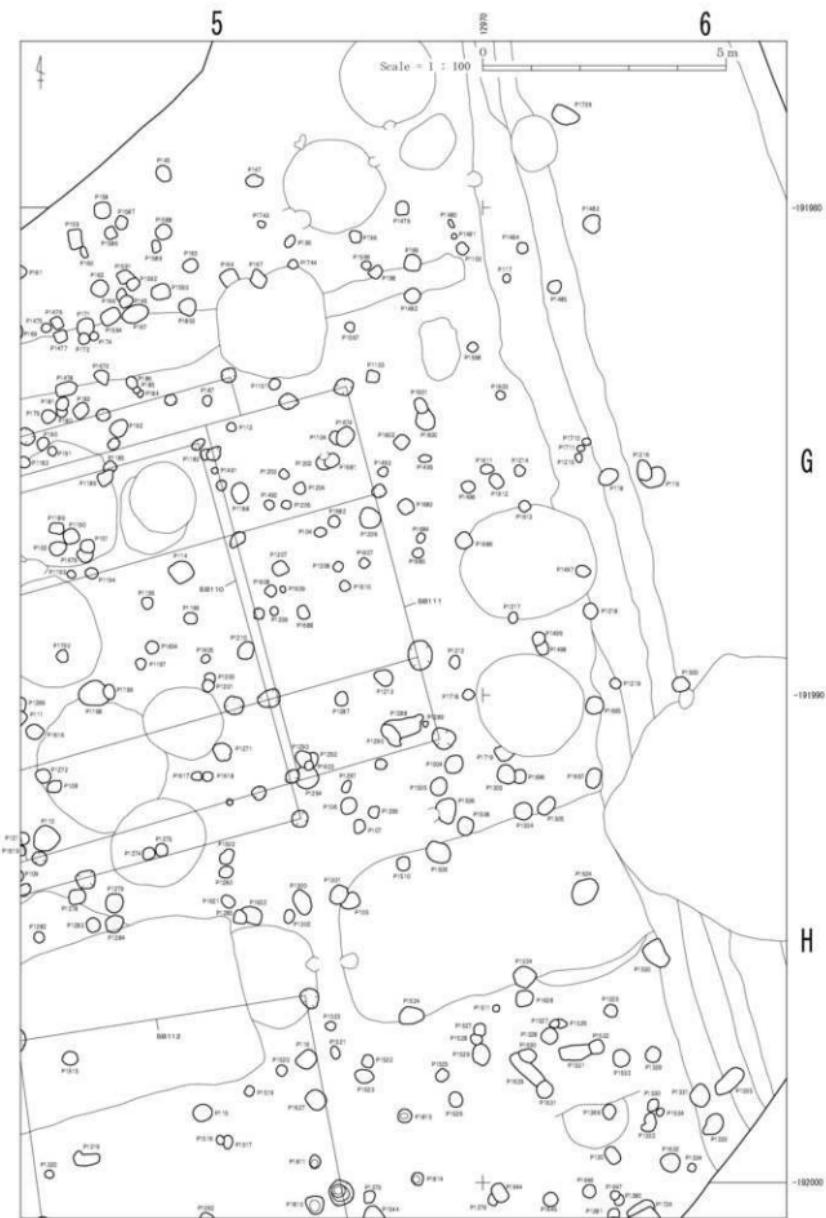
第1-34図 IV層上面SK土坑平面図・断面図(9)



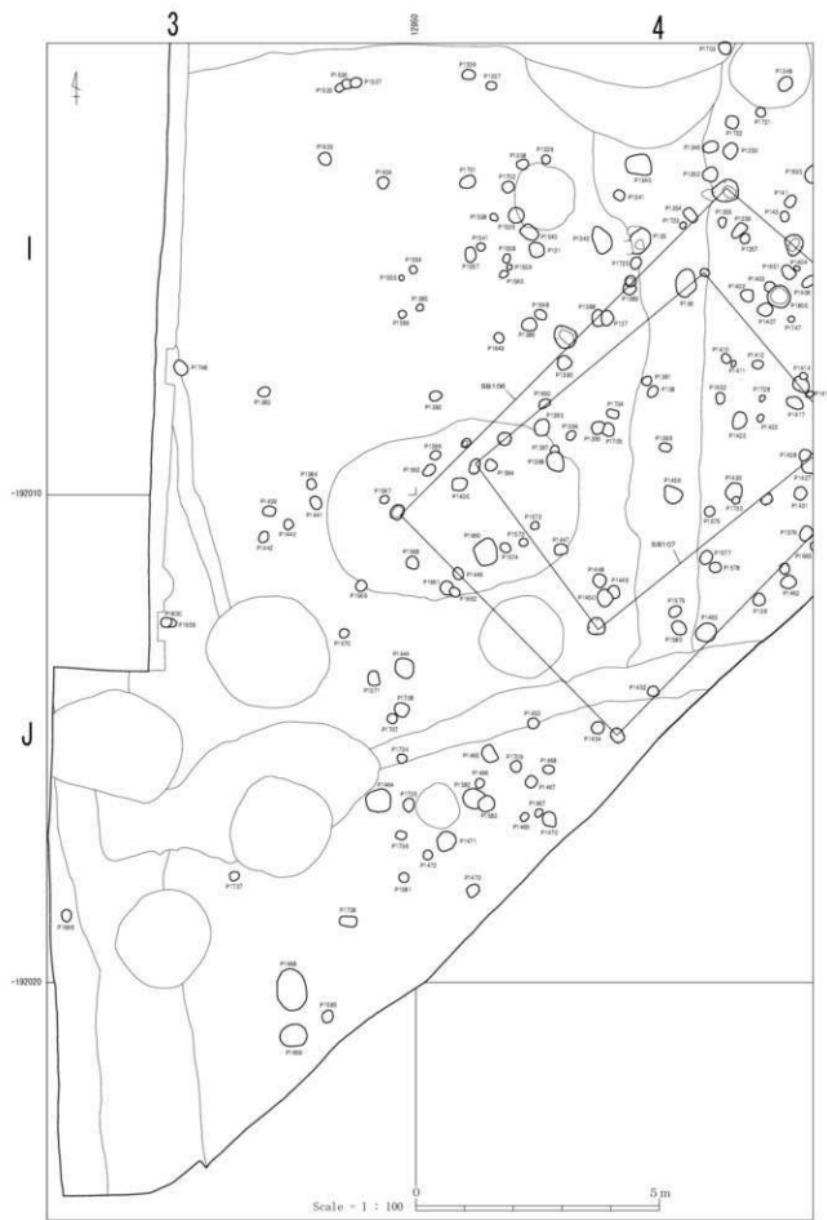
第1-35図 第1次調査区IV層上面ピット集中部全体図



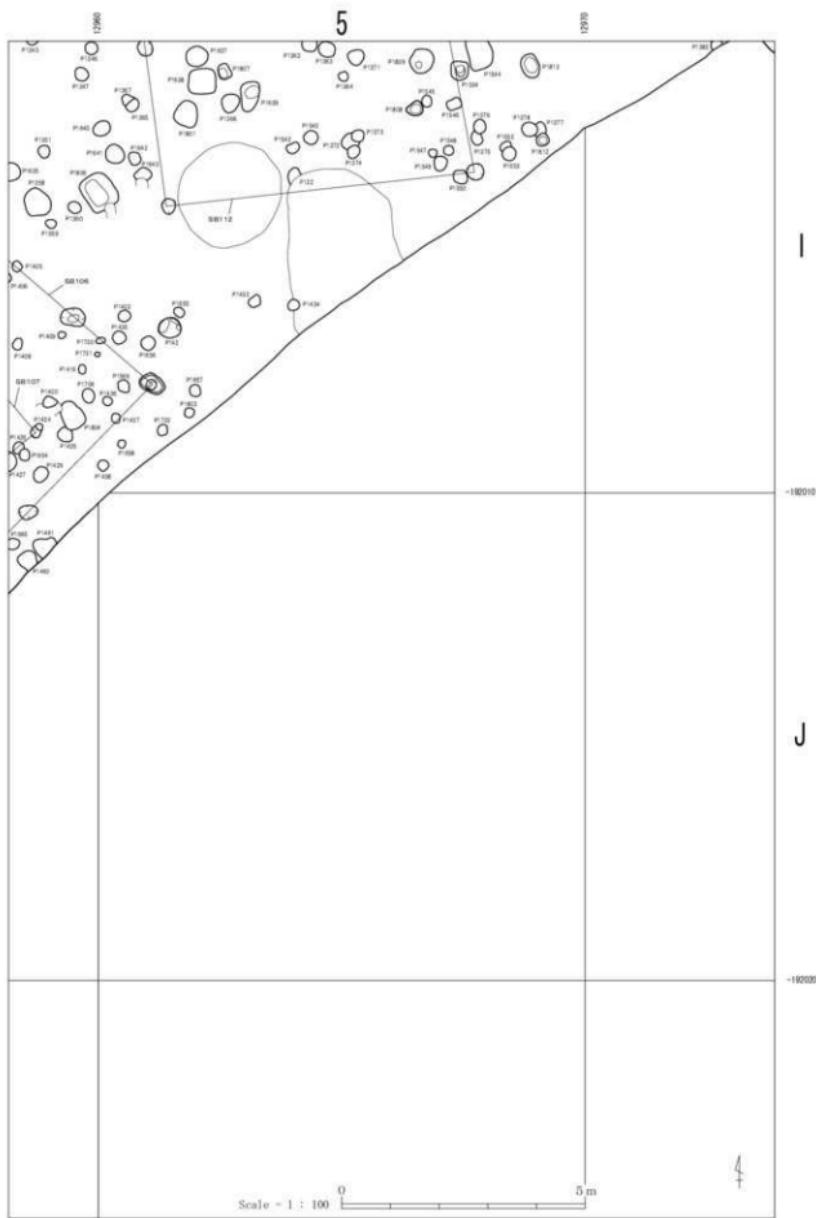
第1-36図 IV層上面ピット集中部平面図(1)



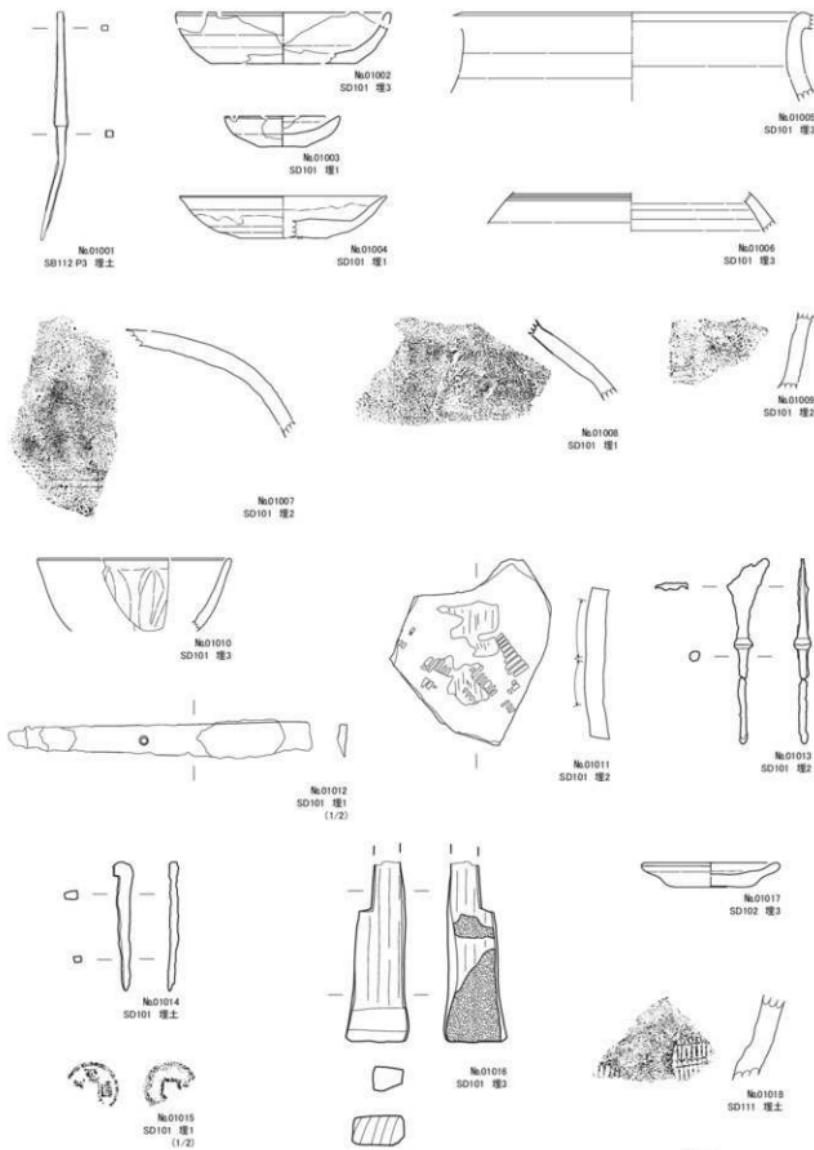
第1-37図 IV層上面ピット集中部平面図(2)



第1-38図 IV層上面ピット集中部平面図(3)



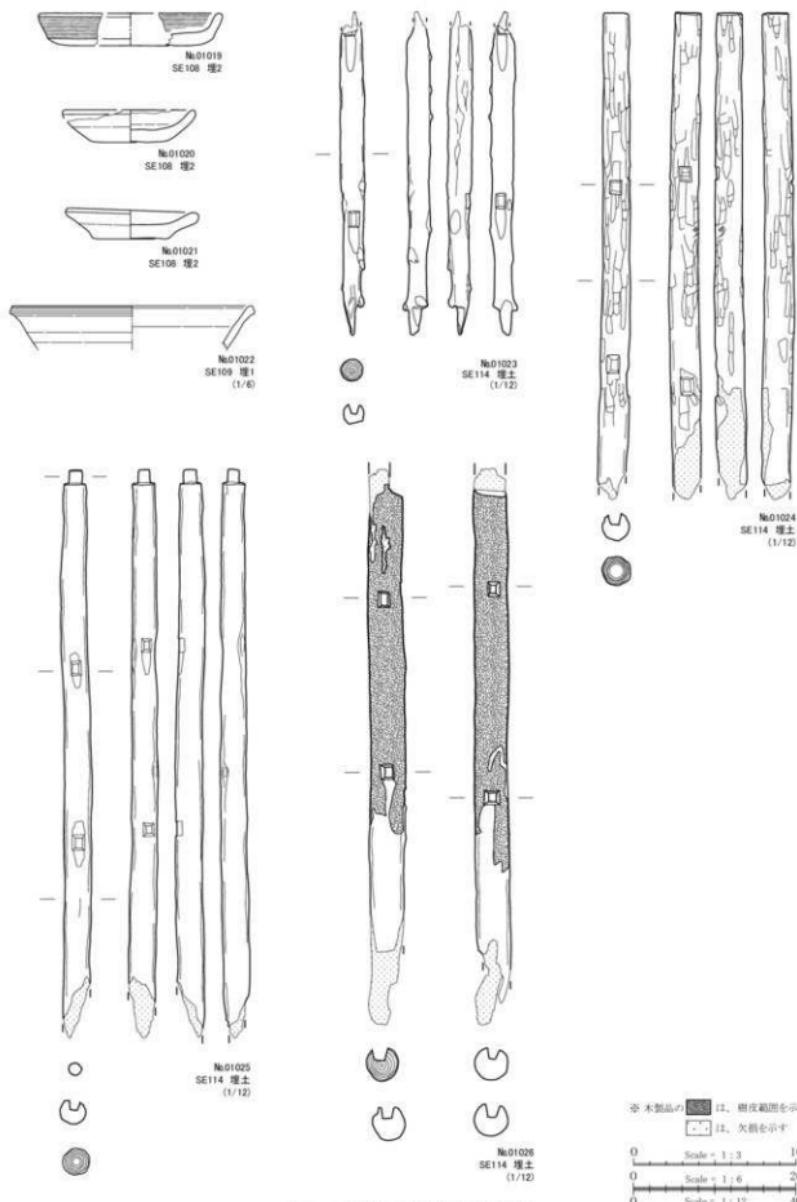
第1-39図 IV層上面ピット集中部平面図(4)



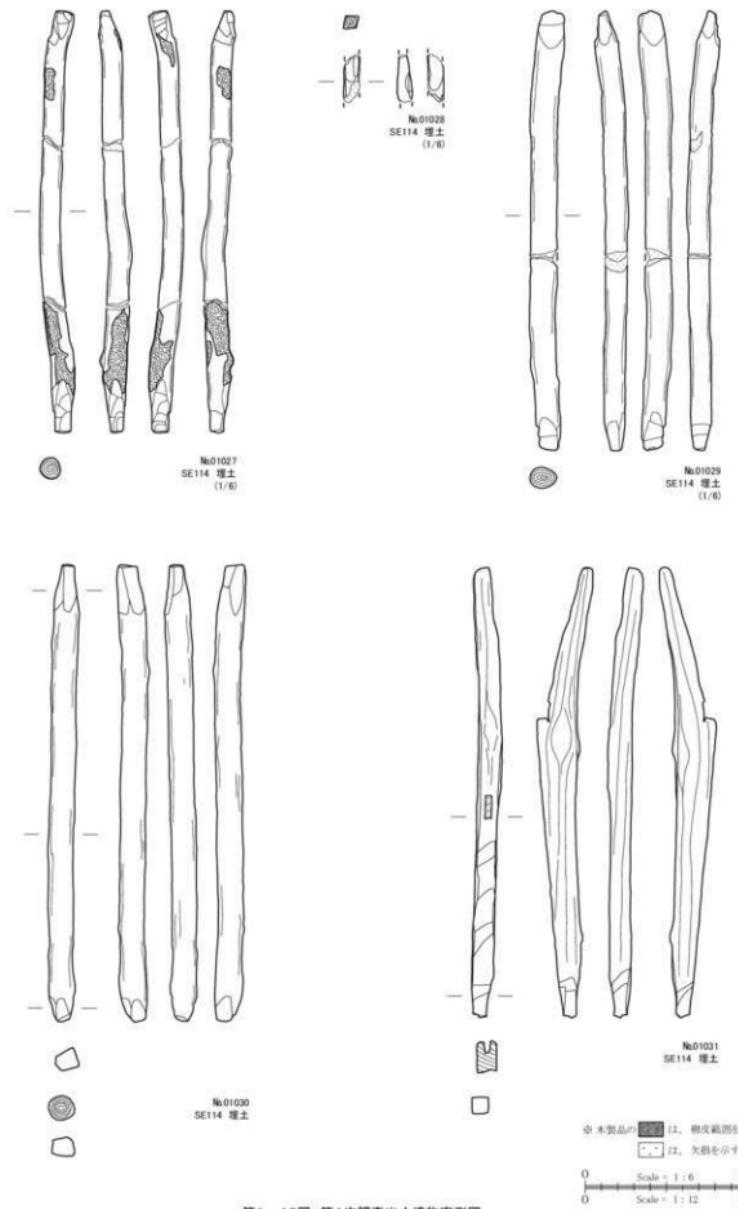
※木製品の [] は、概度範囲を示す

Scale = 1 : 2 5cm
Scale = 1 : 3 10cm

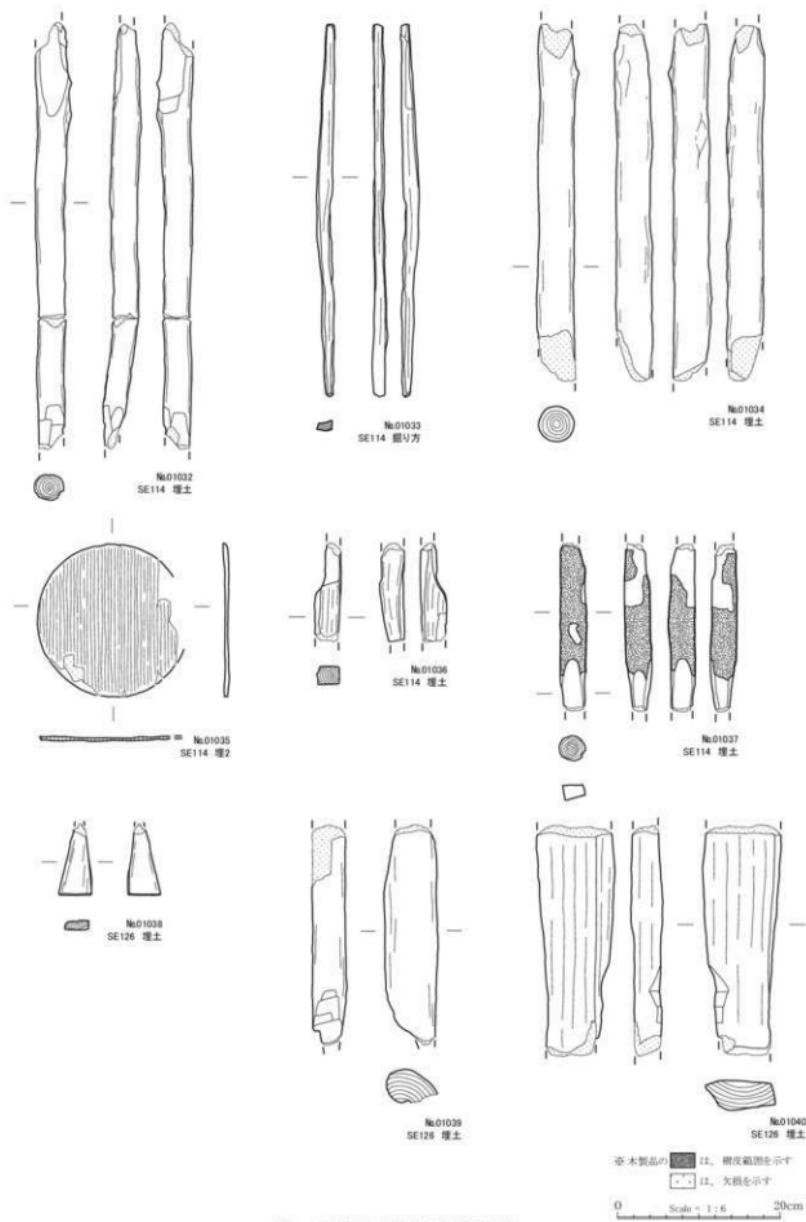
第1-40図 第1次調査出土遺物実測図



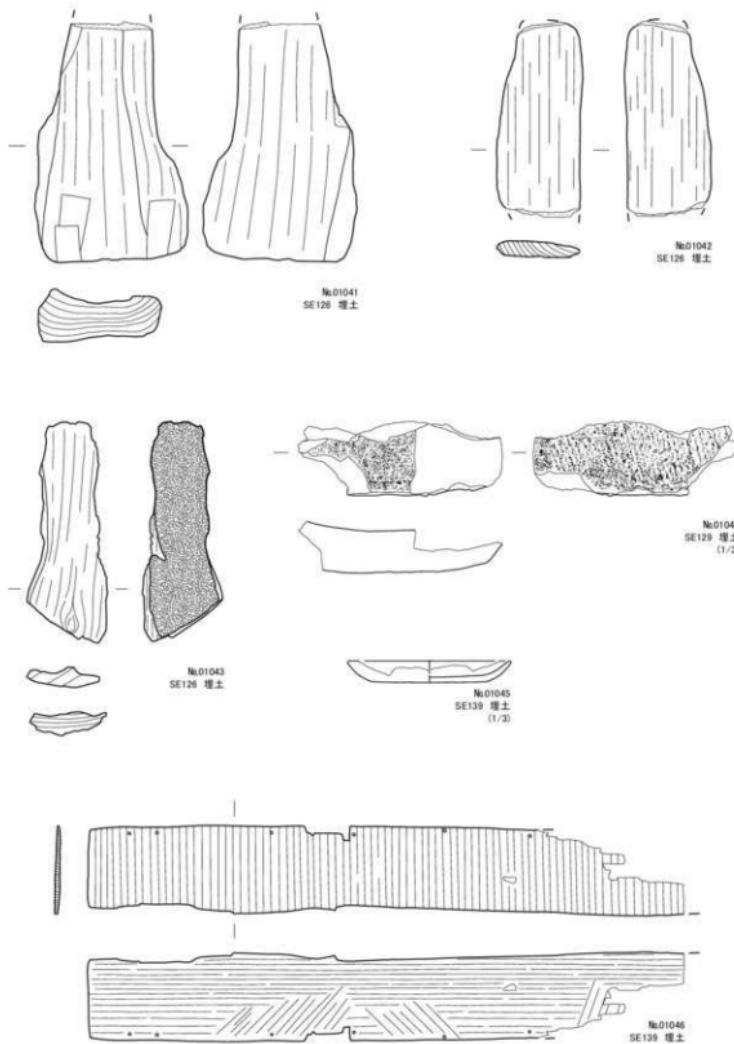
第1-41図 第1次調査出土遺物実測図



第1-42図 第1次調査出土遺物実測図



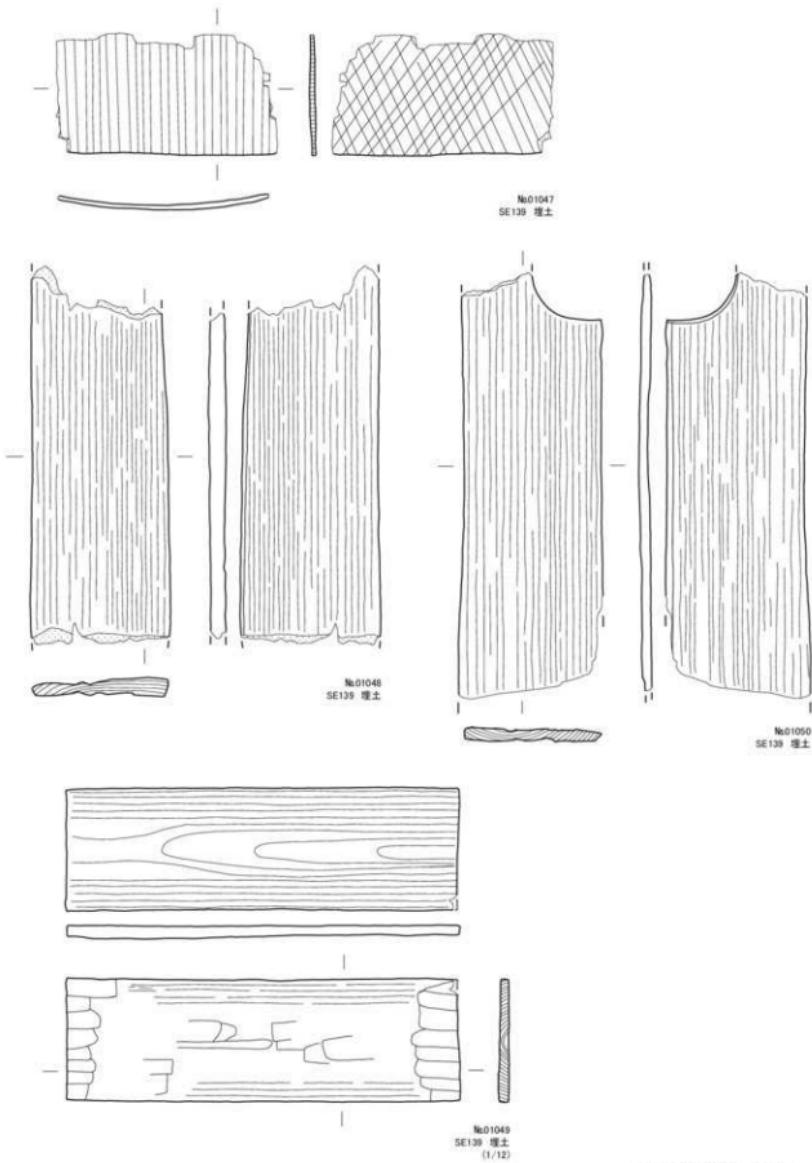
第1-43図 第1次調査出土遺物実測図



※ 木製品の は、横皮範囲を示す
 は、欠損を示す

0 Scale 1:3 10cm
0 Scale 1:6 20cm

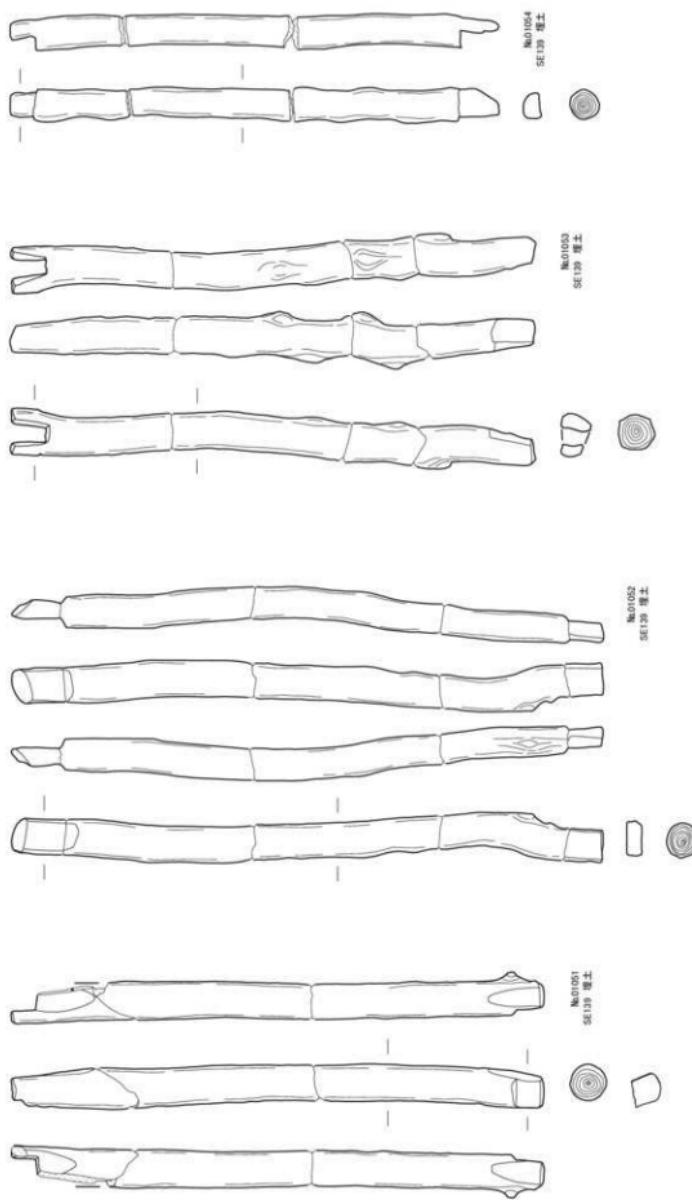
第1-44図 第1次調査出土遺物実測図



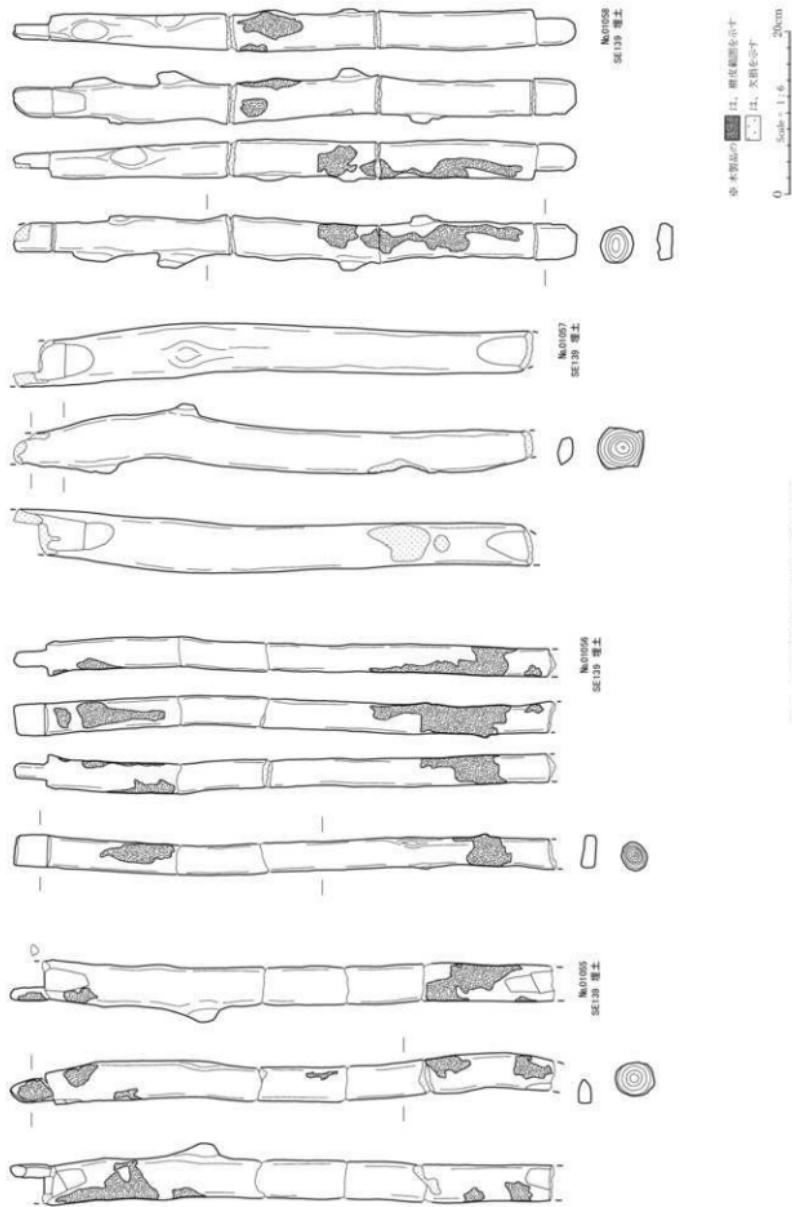
※木製品の□は、欠損を示す

0 Scale : 1 : 6 20cm
0 Scale : 1 : 12 40cm

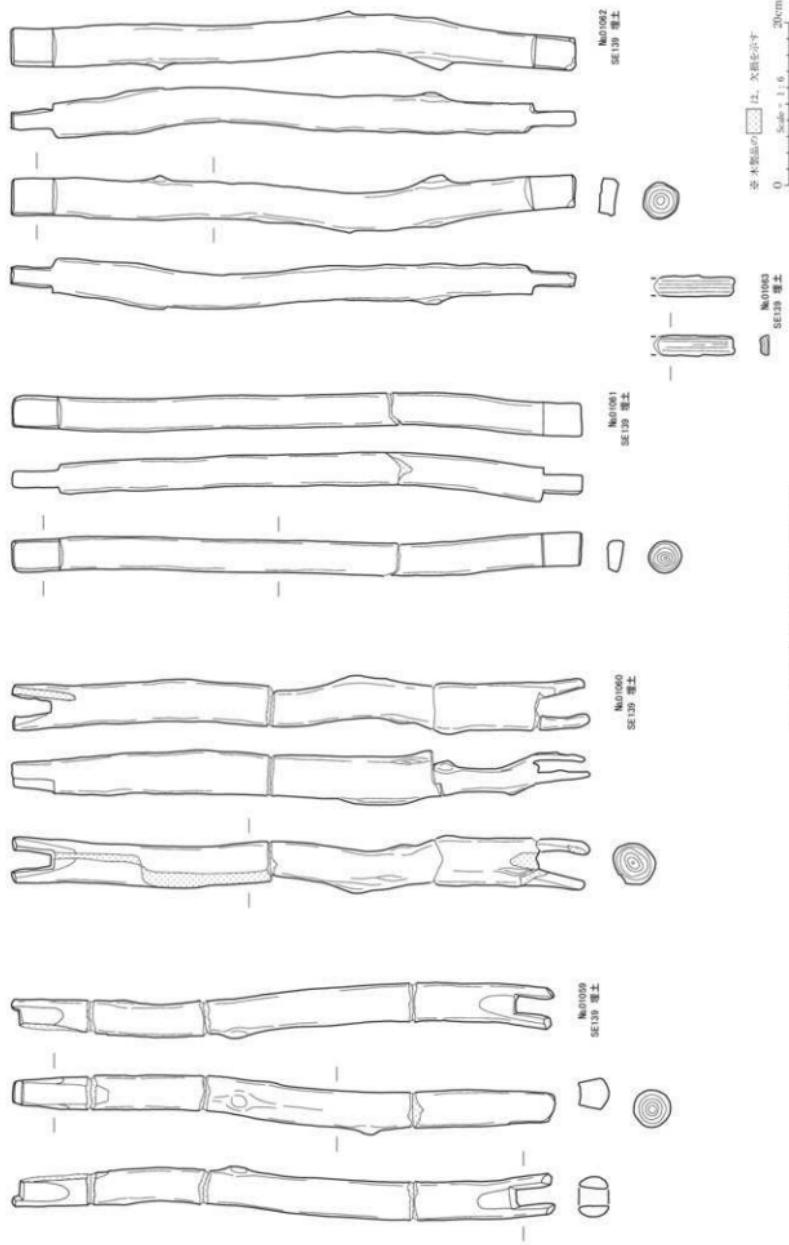
第1-45図 第1次調査出土遺物実測図



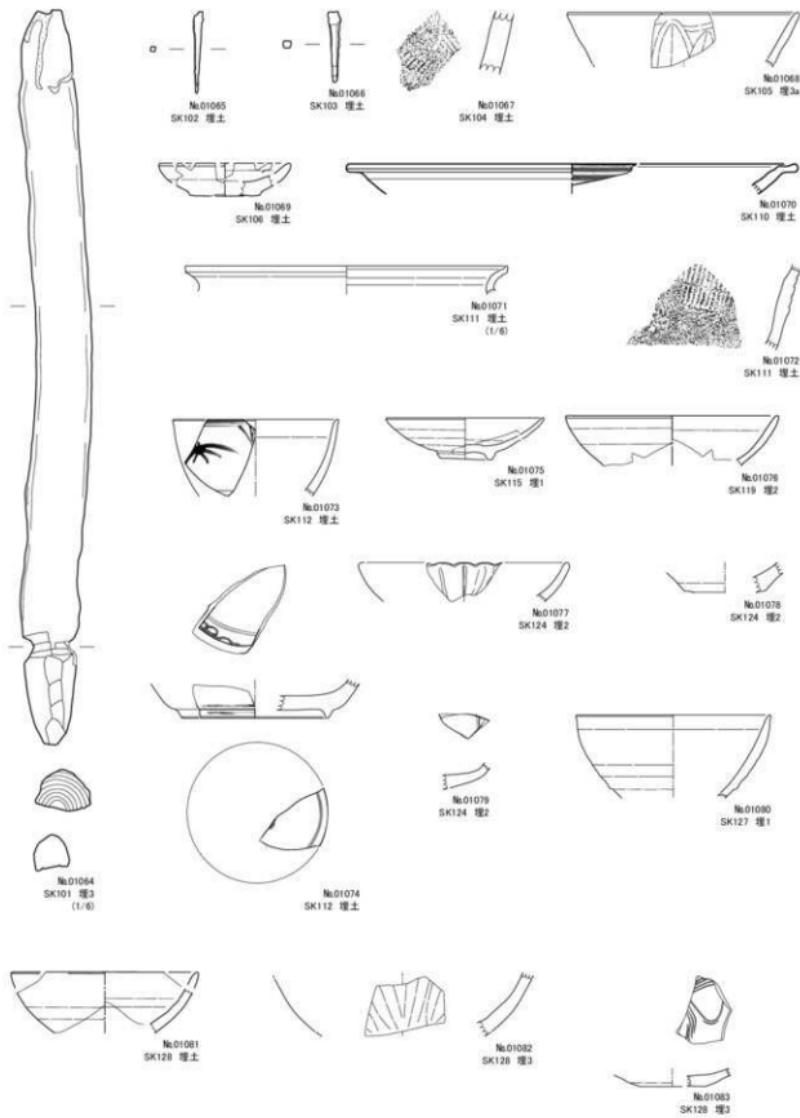
第1—46図 第1次調査出土遺物実測図



第1—47圖 第1次調查出土遺物實測圖



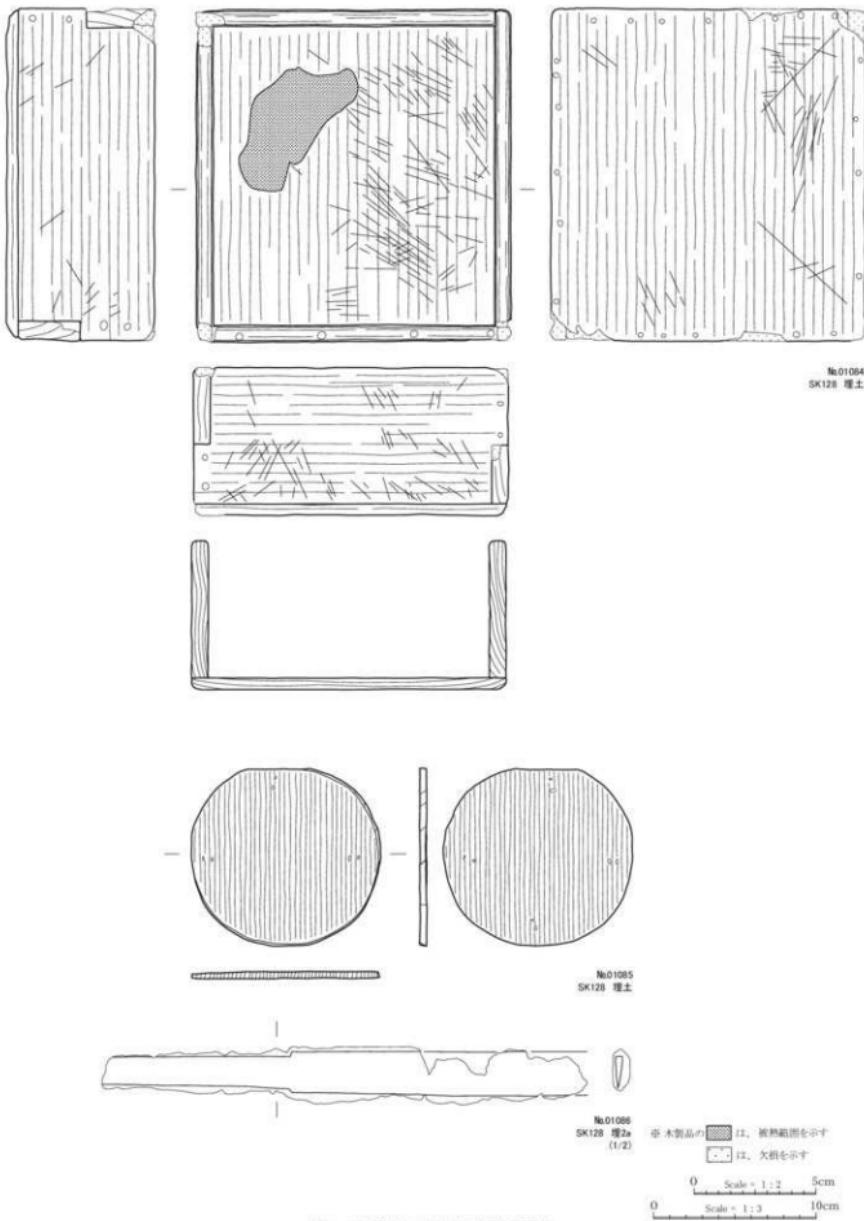
第1—48図 第1次調査出土遺物実測図



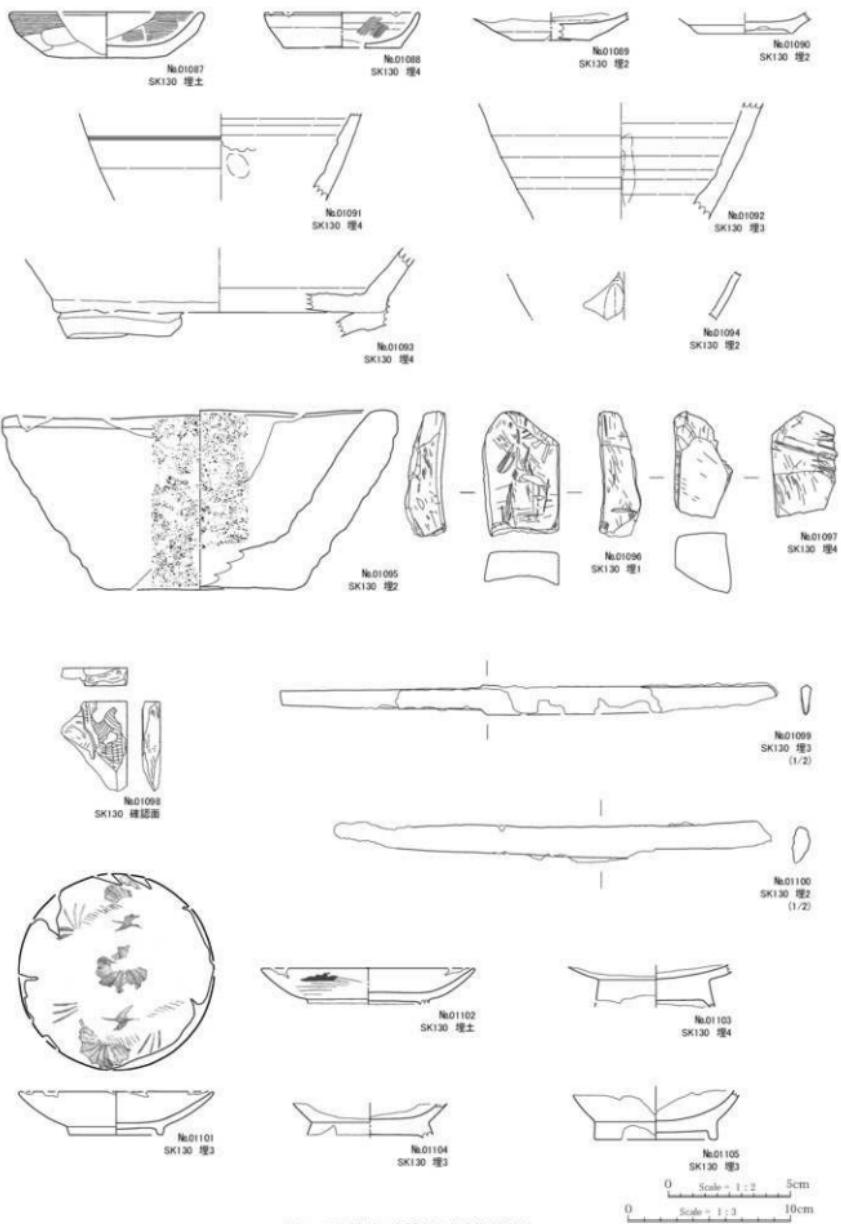
第1-49図 第1次調査出土遺物実測図

※ 本製品の□は、欠損を示す

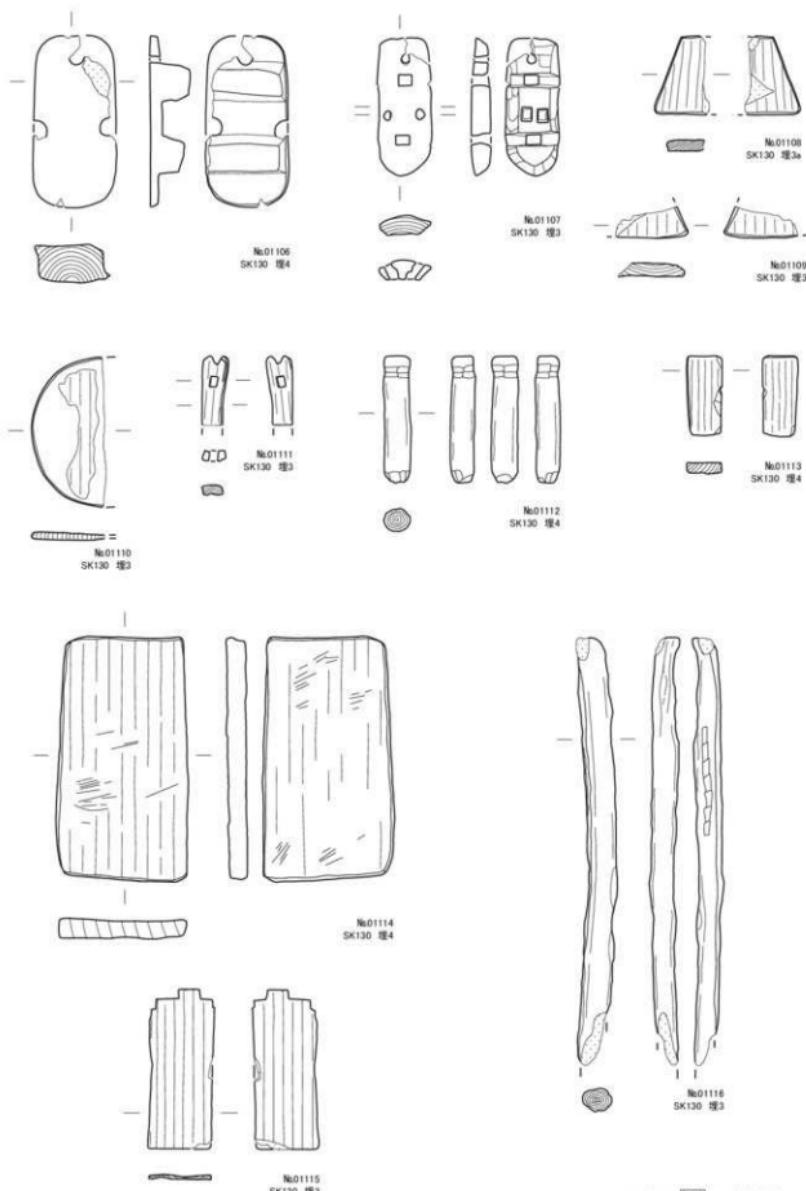




第1-50図 第1次調査出土遺物実測図



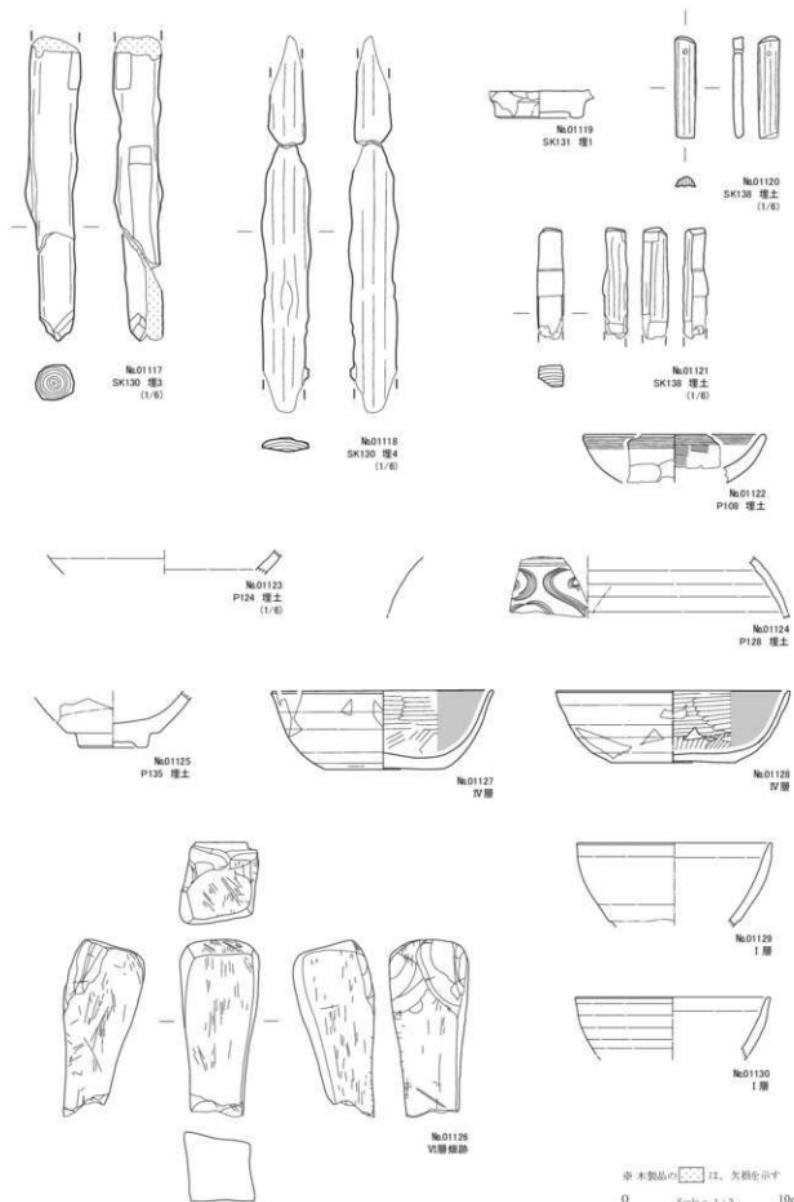
第1-51図 第1次調査出土遺物実測図



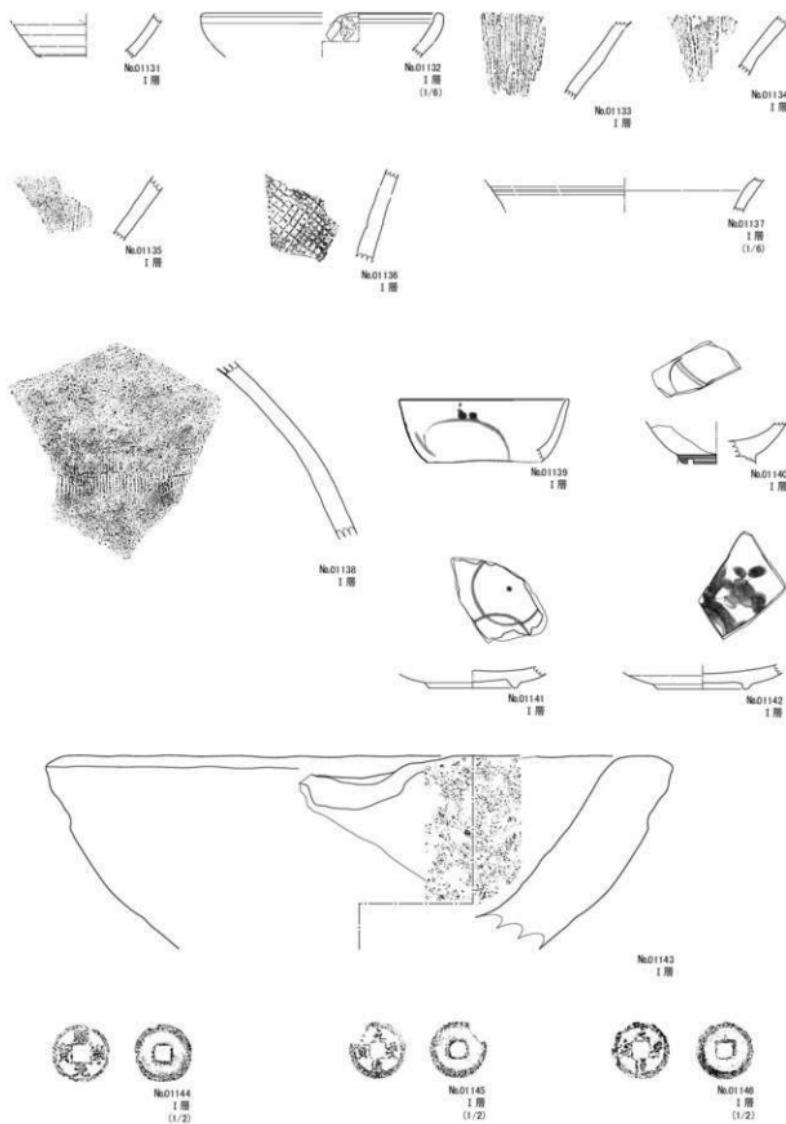
第1-52図 第1次調査出土遺物実測図

※ 本製品の□は、欠損を示す

0 Scale : 1 : 6 20cm



第1-53図 第1次調査出土遺物実測図



第1—54図 第1次調査出土遺物実測図

Scale = 1 : 2 5cm
Scale = 1 : 3 10cm

第1-1表 SB掘立柱建築物跡観察表

遺構番号	位置(Grid)	柱間数	建物規模(東西×南北)	時期
SB101	G-4bcd	3間×2間	7.08×4.72m	III~VI
SB102	G-4be	3間以上×3間以上	4.15以上×3.30m以上	III~VI
SB103	G-4c H-a~d	4間×3間	6.39×5.21m	III~VI
SB104	H-4a~d	2間×2間	2.80×2.70m	III~VI
SB105	欠番			
SB106	I-4bcd	4間×3間	10.00×6.51m	III~VI
SB107	I-4bed J-4ab	2間×2間	6.30×4.30m	III~VI
SB108	G-4cd H-4ab	3間以上×3間	7.32以上×4.00m	III~VI
SB109	G-4c H-4a~d	3間×1間	6.22×4.89m	VI
SB110	G-4c G-5ad H-4bc H-5ab	4間×2間	9.27×7.92m	III~VI
SB111	G-4c G-5ad H-4b H-5ab	6間×3間	10.58×7.66m	III~VI
SB112	H-5ed I-5ab	2間×1間	7.50×6.30m	VI

第1-2表 SD溝跡観察表

遺構番号	位置(Grid)	方向	全長(m)×上端幅(m)×深さ(m)	平面形・断面形	時期
SD101	G-6c H-3c H-4cd H-5abcd H-6abd H-7a I-3b I-4b	N-74°-E	36.50以上×4.50以上×0.80m	直線・開いた「U」字状	V
SD102	J-3ad K-3ab	N-5°-W	10.70以上×2.04×0.57m	直線・開いた「U」字状	IV
SD103	I-3cd J-3b	N-12°-W	5.60以上×0.41×0.05m	やや蛇行・開いた「U」字状	III~VI
SD104	G-4b G-5ab	N-78°-E	13.80以上×1.25×0.37m	直線・開いた「U」字状	III~VI
SD105	F-5 F-6d G-5b G-6ad H-6acd	N-15°-W	23.40以上×1.16×0.28m	直線・開いた「U」字状	VI
SD106	F-5bc F-6ad G-6ad H-6abcd	N-15°-W	24.40以上×0.32以上×0.23m	直線・開いた「U」字状	VI
SD107	J-3be J-4abd	N-77°-E	7.53以上×0.91×0.11m	直線・開いた「U」字状	III~VI
SD108	I-4ahed J-4ab	N-0°-W	10.70以上×2.30×0.20m	直線・開いた「U」字状	III~IV
SD109	G-6d H-6acd	N-15°-W	10.10以上×1.03以上×0.31m	直線・開いた「U」字状	VI
SD110	H-3be H-4d I-4acd J-4abd	N-19°-W	24.20以上×2.00×0.42m	直線・開いた「U」字状	I
SD111	G-6c G-7d H-6b H-7a	N-16°-W	6.40以上×1.38以上×0.65m	直線・開いた「U」字状	V
SD112	F-5b	N-82°-W	3.06以上×0.72×-m	直線・-	III~VI
SD113	H-4cd H-5ad	N-84°-E	9.00以上×1.00×0.63m	直線・開いた「U」字状	I
SD114	H-6bc	N-20°-W	1.98以上×1.97×0.54m	直線・開いた「U」字状	III~V

第1-3表 SR河川跡観察表

遺構番号	位置(Grid)	方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SR101	F-Sbed F-6ad G-5abc G-6abcd H-5bc H-6abcd I-5b I-6a	N-16°-W	29.80以上×11.20以上×-m	直線・不明	-	I

第1-4表 SE井戸跡観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SE101	欠番					
SE102	欠番					
SE103	欠番					
SE104	欠番					
SE105	欠番					
SE106	欠番					
SE107	欠番					
SE108	G-5c G-6d H-5b H-6a	N-57°-W	2.24×2.04×1.82m	不整橢円形・「U」字状	ほぼ平坦	III~VI
SE109	H-5a	N-63°-E	2.06×1.75×1.34m	不整橢円形・開いた「U」字状	平坦	III~VI
SE110	欠番					
SE111	欠番					
SE112	欠番					
SE113	欠番					
SE114	G-5d H-5a	N-84°-W	1.67×1.48×1.71m	不整橢円形・「U」字状	ほぼ平坦	III~VI
SE115	欠番					
SE116	H-4b	N-22°-W	1.28×1.24×1.60m	不整橢円形・「U」字状	ほぼ平坦	III~VI
SE117	G-5d	N-18°-W	2.25×1.98×1.50m	不整橢円形・「U」字状	ほぼ平坦	III~VI
SE118	欠番					
SE119	欠番					
SE120	H-5abcd	N-15°-W	2.13×1.90以上×1.76m	不整橢円形・「U」字状	平坦	III~IV
SE121	欠番					
SE122	欠番					

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m) × 短軸(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SE123	欠番					
SE124	欠番					
SE125	欠番					
SE126	I-4a	N-20°-W	1.39×1.27×1.25m	不整円形・「U」字状	平坦	III～VI
SE127	欠番					
SE128	欠番					
SE129	I-4b	N-58°-E	1.71×1.61×1.13m	不整円形・「U」字状	平坦	III～VI
SE130	欠番					
SE131	欠番					
SE132	G-5c G-6d	N-82°-E	2.80×2.29×1.67m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	VI
SE133	欠番					
SE134	H-5a	N-73°-W	2.70×2.60×1.58m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SE135	欠番					
SE136	欠番					
SE137	欠番					
SE138	欠番					
SE139	H-4bc H-5ad	N-70°-E	3.42以上×2.98以上×1.54m	不整形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～IV

第1-5表 SK土坑観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m) × 短軸(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
SK101	J-3b	N-65°-W	2.50×2.34×0.98m	不整円形・開いた「U」字状	やや起伏	III～VI
SK102	J-3c	N-73°-E	2.12×2.10×0.92m	不整形・開いた「U」字状	やや起伏	VI
SK103	J-3cd K-3ab	N-5°-E	2.00×1.90×0.82m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	V～VI
SK104	F-5b F-6ad	N-84°-E	3.85×3.18以上×1.43m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	VI
SK105	F-5c	N-5°-E	2.00×1.95×0.86m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK106	F-5c	N-42°-E	1.25×0.94×0.85m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK107	F-5c G-5b	N-88°-W	2.08×1.90×1.07m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK108	欠番					
SK109	欠番					
SK110	I-5a	N-53°-E	2.15×2.02×0.53m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK111	J-4a	N-80°-W	1.71×1.66×0.98m	不整円形・「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK112	I-5abcd	N-0°--	3.10以上×2.33×0.32m	不明・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK113	J-3abcd	N-87°-W	2.66以上×2.15×1.02m	不整円形・「U」字状	ほぼ平坦	V～VI
SK114	欠番					
SK115	G-5d	N-6°-W	1.45×1.35×0.32m	不整円形・浅い掘り鉢状	ほぼ平坦	III～VI
SK116	欠番					
SK117	欠番					
SK118	G-5b	N-9°-W	1.23×0.77×0.17m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK119	G-5ab	N-48°-E	2.46×2.44×0.85m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK120	欠番					
SK121	G-4b	N-2°-E	0.79×0.52×0.82m	不整円形・「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK122	H-4d	N-40°-W	0.74×0.63×0.54m	不整形・「U」字状	やや起伏	III～VI
SK123	H-3c H-4d	N-81°-E	0.67×0.41×0.18m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK124	J-3c J-4d	N-9°-W	0.93×0.87×1.09m	不整円形・「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK125	欠番					
SK126	欠番					
SK127	I-3c I-4d J-3b J-4a	N-86°-E	2.59×1.77×0.45m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK128	H-4cd I-4ab	N-88°-W	4.02以上×3.88以上×1.09m	不明・開いた「U」字状	平坦	IV
SK129	欠番					
SK130	G-6cd H-6abc	N-80°-E	6.88×6.00×1.60m	不整円形・開いた「U」字状	平坦	VI
SK131	J-3bcd	N-76°-E	2.94×1.17以上×0.28m	不整形・掘り鉢状	ほぼ平坦	V～VI
SK132	欠番					
SK133	G-5ad	N-11°-E	2.56×2.40×1.30m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK134	欠番					
SK135	H-4bc	N-68°-W	2.21以上×1.68以上×0.20m	不明・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～IV
SK136	F-6d	N-7°-W	1.13×0.94×0.53m	椭円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	VI
SK137	G-7d H-6b H-7a	N-66°-E	1.54以上×1.64×0.41m	不明・開いた「U」字状	平坦	III～IV
SK138	H-6ad	N-11°-W	2.68以上×2.22以上×0.39m	不明・開いた「U」字状	平坦	III～IV
SK139	欠番					
SK140	H-4d	N-2°-W	0.94以上×0.81以上×0.97m	不明・「U」字状	ほぼ平坦	III～IV
SK141	G-5d	N-9°-E	1.60以上×1.40×0.89m	不整円形・開いた「U」字状	ほぼ平坦	III～VI
SK142	H-4ad	N-74°-W	0.91×0.83×0.80m	不整円形・「U」字状	平坦	III～VI
SK143	H-6d	N-66°-W	1.35以上×0.97以上×0.58m	不明・開いた「U」字状	平坦	III～VI

第1-6表 ピット観察表

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m)×短軸(m)×深さ(m)	平面形・断面形	柱痕	時期
P101	G-5d	N-90°-E	0.29×0.28×0.32m	不整円形・-	有	III~VI
P102	G-5d	N-67°-E	0.35×0.29×0.54m	不整椭円形・-	有	III~VI
P103	欠番					
P104	G-5c	N-90°-E	0.25×0.19×0.28m	椭円形・-	有	III~VI
P105	H-5b	N-23°-W	0.41×0.32×0.23m	不整椭円形・-	有	VI
P106	H-5b	N-2°-E	0.32×0.32×0.64m	円形・-	有	III~VI
P107	H-5b	N-3°-E	0.28×0.23×-m	不整椭円形・-	有	III~VI
P108	H-5a	N-90°-E	0.30×0.24×0.45m	不整椭円形・-	有	III~VI
P109	H-5a	N-78°-E	0.32×0.28×0.29m	椭円形・-	有	III~VI
P110	H-5a	N-86°-E	0.54×0.52×0.56m	不整円形・-	有	III~VI
P111	H-5a	N-5°-E	0.33×0.32×0.47m	椭丸形・-	有	III~VI
P112	G-5a	N-55°-W	0.19×0.18×0.12m	不整円形・-	無	III~VI
P113	欠番					
P114	G-5d	N-57°-E	0.45×0.44×0.34m	椭丸形・-	有	III~VI
P115	H-5d	N-89°-E	0.39×0.35×0.50m	椭円形・-	有	III~VI
P116	H-5c	N-51°-E	0.42×0.34×0.36m	椭丸形・-	有	III~VI
P117	G-6a	N-4°-W	0.17×0.16×0.28m	円形・-	無	VI
P118	G-6d	N-64°-E	0.43×0.32×0.22m	椭円形・-	有	VI
P119	G-6d	N-72°-E	0.53×0.39×0.43m	不整方形・-	有	III~VI
P120	H-6d	N-34°-W	0.37×0.27×0.23m	椭丸形・-	有	III~VI
P121	H-5a	N-85°-E	0.27×0.26×0.29m	円形・-	有	III~VI
P122	I-5a	N-14°-W	0.19以上×0.26×0.26m	不明・-	無	III~VI
P123	G-4b	N-15°-W	0.44×0.39×0.19m	椭丸形・-	有	III~VI
P124	G-4d	N-0°--	0.51×0.39×0.23m	椭円形・-	無	III~VI
P125	欠番					
P126	G-4d	N-5°-W	0.37×0.27×0.46m	不整椭円形・-	有	III~VI
P127	欠番					
P128	H-4a	N-90°-E	0.28×0.25×0.32m	不整円形・-	有	III~VI
P129	欠番					
P130	H-4c	N-8°-E	0.29×0.22×0.34m	不整椭円形・-	有	III~VI
P131	I-4ad	N-12°-W	0.30×0.30×0.68m	不整円形・-	有	III~VI
P132	欠番					
P133	欠番					
P134	I-5b	N-3°-E	0.39×0.15×0.55m	椭丸形・「U」字状	有	III~VI
P135	I-4a	N-33°-E	0.56×0.36×0.20m	不整椭円形・-	有	V~VI
P136	I-4c	N-6°-E	0.58×0.34×0.23m	不整椭円形・-	有	V~VI
P137	I-4d	N-13°-E	0.31×0.24×0.20m	椭円形・-	有	III~VI
P138	I-4d	N-40°-E	0.25×0.18×0.15m	椭円形・-	有	V~VI
P139	J-4b	N-25°-E	0.24×0.25×0.22m	不整椭円形・-	有	III~VI
P140	H-3c	N-46°-W	0.59×0.47×0.17m	椭円形・-	無	III~VI
P141	I-4b	N-38°-E	0.26×0.20×0.10m	椭丸形・-	有	III~VI
P142	I-5d	N-88°-E	0.48×0.42×0.35m	円形・-	有	III~VI
P143	I-4b	N-14°-W	0.21×0.17×0.07m	椭円形・-	無	III~VI
P144	欠番					
P145	F-5d	N-24°-W	0.35×0.29×0.19m	不整椭円形・-	有	III~VI
P146	欠番					
P147	F-5c	N-87°-E	0.37×0.25×0.24m	不整椭円形・-	有	III~VI
P148	G-4b	N-50°-W	0.29×0.27×0.18m	円形・-	有	III~VI
P149	G-4b	N-61°-E	0.15×0.15×0.11m	円形・-	有	III~VI
P150	G-4b	N-31°-W	0.30×0.28×0.20m	椭丸形・-	有	III~VI
P151	G-4b	N-41°-W	0.35×0.32×0.12m	不整椭円形・-	有	III~VI
P152	G-4b	N-14°-W	0.25×0.20以上×0.07m	不整円形・-	無	III~VI
P153	G-4b	N-13°-E	0.25×0.23×0.30m	椭丸形・-	有	III~VI
P154	G-4bc	N-88°-E	0.40×0.35×0.21m	不整円形・-	有	III~VI
P155	G-4bc	N-68°-E	0.28×0.27×0.19m	椭丸形・-	有	III~VI
P156	G-4bc	N-7°-W	0.37×0.32×0.21m	不整椭円形・-	有	III~VI
P157	G-4bc	N-56°-W	0.26×0.25×0.09m	円形・-	有	III~VI
P158	F-5d G-5a	N-0°--	0.34×0.33×0.20m	椭丸形・-	有	III~VI
P159	G-5a	N-7°-W	0.40×0.28×0.36m	長方形・-	有	III~VI
P160	G-5a	N-18°-W	0.24×0.13×0.13m	椭円形・-	有	III~VI
P161	G-5a	N-50°-E	0.28×0.26×0.23m	椭丸形・-	有	III~VI
P162	H-5a	N-39°-E	0.34×0.33×0.33m	円形・-	有	III~VI
P163	G-5a	N-55°-E	0.31×0.27×0.30m	椭円形・-	有	III~VI

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m) × 短軸(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	柱痕	時期
P164	G-5a	N- 61° -E	0.34×0.28以上×0.14m	不整橢円形。-	無	III~VI
P165	G-5a	N- 64° -E	0.28×0.23×0.17m	不整橢円形。-	無	III~VI
P166	G-5a	N- 12° -E	0.27以上×0.21×0.14m	不整橢円形。-	無	III~VI
P167	G-5a	N- 73° -E	0.55×0.35×0.20m	不整橢円形。-	無	III~VI
P168	欠番					
P169	G-5a	N- 85° -E	0.45×0.30×0.29m	隅丸方形。-	無	III~VI
P170	欠番					
P171	G-5a	N- 8° -W	0.41×0.35×0.46m	不整橢円形。-	有	III~VI
P172	G-5a	N- 24° -W	0.24×0.23×0.22m	円形。-	無	III~VI
P173	欠番					
P174	G-5a	N- 81° -E	0.19×0.18×0.33m	円形。-	有	III~VI
P175	欠番					
P176	欠番					
P177	欠番					
P178	G-5a	N- 80° -E	0.28×0.24×0.16m	不整橢円形。-	有	III~VI
P179	G-5a	N- 80° -E	0.30×0.27×0.26m	不整橢円形。-	有	III~VI
P180	G-5a	N- 85° -E	0.21×0.19以上×0.15m	不整橢円形。-	有	III~VI
P181	G-5a	N- 21° -E	0.28×0.25×0.23m	橢円形。-	有	III~VI
P182	G-5a	N- 55° -E	0.33×0.28×0.33m	隅丸方形。-	有	III~VI
P183	欠番					
P184	G-5a	N- 34° -E	0.16×0.10以上×0.18m	不整円形。-	有	III~VI
P185	G-5a	N- 56° -E	0.19×0.13以上×0.26m	不整円形。-	有	III~VI
P186	G-5a	N- 27° -W	0.26×0.22×0.20m	橢円形。-	有	III~VI
P187	G-5a	N- 4° -W	0.22×0.18×0.24m	橢円形。-	有	III~VI
P188	欠番					
P189	欠番					
P190	G-5a	N- 65° -E	0.25×0.24×0.12m	不整橢円形。-	有	III~VI
P191	G-5ad	N- 0° --	0.21×0.18×0.16m	円形。-	有	III~VI
P192	G-5a	N- 44° -E	0.38×0.33×0.23m	不整橢円形。-	無	III~VI
P193	欠番					
P194	欠番					
P195	G-5b	N- 26° -E	0.28×0.18×0.17m	橢円形。-	有	III~VI
P196	G-5b	N- 34° -W	0.28×0.25×0.10m	不整方形。-	有	III~VI
P197	G-5b	N- 53° -W	0.34×0.30×0.17m	不整形。-	有	III~VI
P198	G-5b	N- 43° -E	0.27×0.22×0.27m	不整方形。-	有	III~VI
P199	G-5b	N- 7° -W	0.34×0.34×0.19m	隅丸方形。-	有	III~VI
P200	G-5b	N- 37° -W	0.25×0.22×0.19m	隅丸方形。-	有	III~VI
P201	G-5b	N- 54° -E	0.25×0.22×0.22m	橢円形。-	有	III~VI
P202	欠番					
P203	G-5b	N- 84° -W	0.26×0.25×0.30m	隅丸方形。-	有	III~VI
P204	G-5b	N- 7° -W	0.28×0.16×0.15m	不整橢円形。-	有	III~VI
P205	G-4d	N- 71° -E	0.27×0.23×0.26m	橢円形。-	有	III~VI
P206	G-4d	N- 60° -E	0.23×0.20×0.18m	円形。-	有	III~VI
P207	G-4d	N- 90° -E	0.21×0.18×0.09m	不整円形。-	有	III~VI
P208	G-4d	N- 13° -W	0.25×0.22×0.19m	不整円形。-	有	III~VI
P209	G-4d	N- 61° -W	0.26×0.24×0.21m	不整円形。-	有	III~VI
P210	G-4d	N- 49° -E	0.60×0.48×0.17m	不整橢円形。-	有	III~VI
P211	G-4d	N- 38° -W	0.23×0.21×0.18m	不整橢円形。-	無	III~VI
P212	G-4d	N- 54° -E	0.34×0.34×0.31m	不整円形。-	有	III~VI
P213	G-4d	N- 54° -E	0.23×0.21×0.18m	不整円形。-	有	III~VI
P214	G-4d	N- 16° -W	0.19×0.13×0.17m	橢円形。-	無	III~VI
P215	G-4d	N- 35° -W	0.24×0.22×0.17m	不整円形。-	有	III~VI
P216	G-4d	N- 52° -E	0.31×0.27×0.19m	不整橢円形。-	有	III~VI
P217	G-4d	N- 1° -W	0.26×0.12× -m	長橢円形。-	有	III~VI
P218	G-4d	N- 7° -E	0.47×0.33×0.14m	不整橢円形。-	有	III~VI
P219	G-4d	N- 35° -W	0.24以上×0.27×0.03m	不明。-	無	III~VI
P220	G-4d	N- 90° -E	0.27×0.26×0.21m	隅丸方形。-	有	III~VI
P221	G-4d	N- 72° -W	0.21×0.14×0.07m	橢円形。-	無	III~VI
P222	G-4d	N- 83° -E	0.32×0.26×0.19m	不整円形。-	有	III~VI
P223	欠番					
P224	G-4d	N- 9° -W	0.25×0.21×0.15m	隅丸方形。-	有	III~VI
P225	G-4d	N- 22° -E	0.31以上×0.28×0.18m	不整方形。-	有	III~VI
P226	G-4d	N- 47° -W	0.40×0.35×0.44m	隅丸方形。-	有	III~VI
P227	G-4d	N- 1° -E	0.31×0.29×0.29m	隅丸方形。-	有	III~VI

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m) × 短軸(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	柱痕	時期
P1128	G-4c	N- 4° -W	0.28×0.27×0.14m	円形・	—	有 III~VI
P1129	G-4c	N-40° -E	0.31×0.24×0.23m	椭円形・	—	有 III~VI
P1130	欠番					
P1131	G-4c	N-44° -E	0.23×0.21×0.07m	円形・	—	無 III~VI
P1132	G-4cd	N-34° -W	0.42×0.23以上×0.30m	不整椭円形・	—	有 III~VI
P1133	G-4d	N-14° -E	0.31×0.28×0.29m	不整円形・	—	有 III~VI
P1134	G-4c	N-54° -W	0.28×0.25以上×0.30m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1135	G-4c	N-37° -W	0.28×0.23×0.22m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1136	G-4c	N-27° -W	0.18×0.17×0.06m	円形・	—	無 III~VI
P1137	G-4c	N-54° -E	0.16×0.13×0.23m	不整円形・	—	有 III~VI
P1138	欠番					
P1139	G-4c	N-53° -E	0.28×0.22×0.16m	不整椭円形・	—	有 III~VI
P1140	欠番					
P1141	G-4c	N-43° -E	0.32×0.24×0.21m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1142	欠番					
P1143	G-4c	N-33° -W	0.41×0.28×0.30m	不整椭円形・	—	有 III~VI
P1144	G-4c	N- 2° -W	0.30以上×0.37×0.17m	不整椭円形・	—	有 III~VI
P1145	欠番					
P1146	欠番					
P1147	G-4c	N-13° -W	0.32×0.30×0.46m	不整円形・	—	有 III~VI
P1148	欠番					
P1149	G-4c	N-42° -E	0.23×0.18×0.13m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1150	欠番					
P1151	欠番					
P1152	G-4c	N-44° -W	0.26×0.23×0.22m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1153	G-4c	N-30° -W	0.32×0.22以上×0.21m	不整方形・	—	有 III~VI
P1154	G-4c	N-13° -E	0.37×0.29×0.24m	不整椭円形・	—	有 III~VI
P1155	G-4c	N-56° -W	0.25×0.18×0.09m	椭円形・	—	無 III~VI
P1156	G-4c	N-75° -E	0.23×0.20 × —m	不整円形・	—	有 III~VI
P1157	G-4c	N- 7° -E	0.27×0.25×0.10m	円形・	—	有 III~VI
P1158	G-4c	N- 0° -E	0.22×0.22×0.15m	円形・	—	有 III~VI
P1159	G-4c	N-57° -W	0.35×0.27×0.23m	椭円形・	—	有 III~VI
P1160	G-4c	N-37° -E	0.23以上×0.27×0.15m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1161	G-4c	N-44° -W	0.29×0.24×0.10m	不整円形・	—	有 III~VI
P1162	G-4c	N- 1° -W	0.29×0.25×0.21m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1163	G-4c	N-77° -E	0.22×0.19×0.22m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1164	G-4c	N-82° -E	0.47×0.27×0.22m	不整椭円形・	—	有 III~VI
P1165	G-4c	N-19° -E	0.33×0.32×0.28m	不整円形・	—	有 III~VI
P1166	欠番					
P1167	G-4c	N-54° -E	0.30×0.27×0.29m	不整円形・	—	有 III~VI
P1168	G-4c	N-35° -E	0.28以上×0.27×0.14m	不整円形・	—	有 III~VI
P1169	G-4c	N-24° -W	0.27×0.23×0.28m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1170	欠番					
P1171	G-4c	N-32° -W	0.49×0.39×0.48m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1172	欠番					
P1173	G-4c	N-43° -E	0.33×0.31×0.22m	不整円形・	—	有 III~VI
P1174	G-4c	N- 7° -E	0.19×0.17×0.14m	円形・	—	有 III~VI
P1175	G-4c	N-70° -W	0.28×0.23×0.21m	不整円形・	—	有 III~VI
P1176	G-4c	N-44° -E	0.34×0.31×0.48m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1177	G-4c	N-50° -E	0.42×0.39×0.19m	不整円形・	—	有 III~VI
P1178	欠番					
P1179	G-4c	N-51° -E	0.23×0.20×0.17m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1180	G-4c	N-63° -E	0.33×0.25以上×0.18m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1181	G-4c	N-11° -E	0.28×0.21×0.27m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1182	G-5d	N-65° -W	0.28×0.22×0.20m	椭円形・	—	有 III~VI
P1183	G-5d	N-17° -W	0.21×0.16以上×0.21m	不整椭円形・	—	有 III~VI
P1184	欠番					
P1185	G-5d	N-50° -E	0.27以上×0.24以上×0.23m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1186	G-5d	N-54° -E	0.37×0.28×0.29m	不整方形・	—	有 III~VI
P1187	欠番					
P1188	G-5cd	N- 3° -E	0.43×0.35×0.36m	椭円形・	—	有 III~VI
P1189	G-5d	N-84° -W	0.29×0.22×0.28m	隅丸方形・	—	有 III~VI
P1190	G-5d	N-68° -E	0.32×0.31×0.22m	不整円形・	—	有 III~VI
P1191	欠番					

遺構番号	位置(Grid)	長軸方向	長軸(m) × 短軸(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	柱痕	時期
P1192	欠番					
P1193	G-5d	N-62°-W	0.18×0.16×0.22m	楕円形・	-	有
P1194	G-5d	N-53°-W	0.25×0.22×0.16m	円形・	-	有
P1195	G-5d	N- 9°-W	0.25×0.23×0.21m	不整形方・	-	有
P1196	G-5d	N-63°-W	0.27×0.23×0.14m	不整形円・	-	有
P1197	G-5d	N- 9°-W	0.24×0.21×0.05m	不整形円・	-	有
P1198	G-5d H-5a	N-87°-E	0.52以上×0.51×0.19m	不整椭円形・	-	無
P1199	G-5d H-5a	N-20°-W	0.31×0.24×0.20m	楕円形・	-	有
P1200	G-5d	N- 0°-	0.15以上×0.21×0.14m	不整形円・	-	無
P1201	G-5d	N-25°-E	0.24×0.24×0.20m	円形・	-	有
P1202	G-5c	N-45°-W	0.31×0.20以上×0.28m	不明・	-	無
P1203	G-5c	N-40°-W	0.20×0.18×0.09m	不整形方・	-	有
P1204	G-5c	N-30°-E	0.26×0.24×0.53m	不整形円・	-	有
P1205	G-5d	N-78°-W	0.20×0.16×0.22m	不整形方・	-	無
P1206	G-5c	N-57°-W	0.44×0.41×0.31m	不整形円・	-	無
P1207	G-5c	N-85°-W	0.35×0.31×0.26m	不整形方・	-	有
P1208	G-5c	N-43°-E	0.20×0.19×0.35m	不整形方・	-	有
P1209	G-5c	N- 9°-W	0.19×0.17×0.17m	円形・	-	有
P1210	G-5d	N-23°-E	0.39×0.30×0.32m	不整椭円形・	-	有
P1211	欠番					
P1212	G-5c	N- 2°-W	0.28×0.22×0.16m	楕円形・	-	有
P1213	G-5c	N-60°-W	0.40×0.32×0.48m	不整椭円形・	-	有
P1214	G-6d	N-32°-W	0.23×0.22×0.11m	不整形円・	-	有
P1215	G-6d	N-12°-W	0.18×0.14×0.27m	楕円形・	-	無
P1216	G-6d	N-16°-W	0.44×0.30×0.58m	不整椭円形・	-	有
P1217	G-6d	N- 2°-W	0.23×0.19×0.31m	楕円形・	-	有
P1218	G-6d	N-29°-W	0.32×0.29×0.32m	不整形円・	-	有
P1219	G-6d	N-45°-W	0.22×0.21×0.31m	円形・	-	有
P1220	欠番					
P1221	欠番					
P1222	H-4a	N-52°-E	0.30×0.24×0.17m	不整形円・	-	有
P1223	欠番					
P1224	欠番					
P1225	H-4a	N-61°-E	0.29×0.17以上×0.22m	円形・	-	有
P1226	H-4a	N-15°-W	0.44×0.44×0.28m	不整形円・	-	有
P1227	H-4a	N-13°-W	0.21×0.18×0.18m	不整椭円形・	-	無
P1228	H-4a	N-29°-W	0.36×0.16×0.21m	不整椭円形・	-	無
P1229	H-4a	N-70°-E	0.22×0.17×0.11m	楕円形・	-	有
P1230	欠番					
P1231	H-4a	N-23°-E	0.26×0.23×0.17m	楕円形・	-	有
P1232	H-4a	N-59°-W	0.12×0.12×0.15m	不整形円・	-	無
P1233	H-4ad	N-50°-W	0.28×0.28×0.30m	円形・	-	有
P1234	G-4c H-4b	N-43°-E	0.27×0.22×0.19m	不整椭円形・	-	有
P1235	G-4c H-4b	N-17°-W	0.32×0.28×0.23m	不整形方・	-	有
P1236	H-4b	N-46°-W	0.37×0.36×0.25m	円形・	-	有
P1237	H-4b	N- 9°-E	0.43×0.32×0.17m	不整椭円形・	-	有
P1238	H-4b	N-45°-E	0.30×0.30×0.17m	円形・	-	有
P1239	H-4b	N- 7°-E	0.22×0.20×0.13m	楕丸形・	-	有
P1240	H-4b	N-20°-W	0.28×0.28×0.23m	不整形円・	-	有
P1241	H-4b	N-36°-W	0.36以上×0.32×0.24m	不整形円・	-	有
P1242	H-4b	N-80°-W	0.42×0.33×0.29m	楕円形・	-	有
P1243	欠番					
P1244	H-4b	N-66°-E	0.29×0.18以上×0.14m	不整形円・	-	有
P1245	H-4b	N- 6°-E	0.34×0.31×0.45m	円形・	-	有
P1246	H-4b	N-41°-W	0.27×0.26×0.28m	円形・	-	有
P1247	H-4b	N-50°-W	0.18×0.15以上×0.15m	不整形方・	-	有
P1248	H-4b	N-54°-E	0.27×0.22×0.20m	楕丸形・	-	有
P1249	欠番					
P1250	H-4b	N-89°-E	0.38×0.36×0.52m	不整形円・	-	有
P1251	H-4b	N-48°-E	0.43×0.38×0.30m	不整形円・	-	有
P1252	H-4b	N-17°-E	0.28×0.23×0.18m	不整形円・	-	有
P1253	欠番					
P1254	H-4b	N-11°-W	0.56×0.38×0.28m	不整椭円形・	-	有
P1255	H-4b	N-90°-E	0.26×0.17以上×0.34m	不整椭円形・	-	有